

50-7子



1200501262850



始



50-74
別庫

增改
補訂
新藥纂論

青木純造
飯高芳康
纂譯

增改
補訂
第十五版發行

完

明治
28 7 26
内交

徐子

種之

可

以生功

第丹隆人



改訂 增補 新藥纂論

改訂 增補 第十五版例言

○今茲ニ發行スル本書第十五版ハ初版發行以來版ヲ重ヌル毎ニ益、醫家ノ賞識ヲ博セル前版ニ大ニ改訂追加ヲ施シ發行シタル者ニシテ本版ニ於テハ近ク兩三年來ノ發見若クハ製造ニ係ル諸藥ハ力メテ之ヲ掲載シタルカ爲メ新ニ増加シタル藥品ハ其數三百數十種ノ多キニ達セリ加之從來所載ノ藥品ニ於テモ其後ノ研究ニ由リテ益、精確完全トナレル條項ヲ載録シタリ其他尙記載ス可キ新藥ナキニ非ザレモ未ダ藥用ニ供セラレザルモノ等ハ將來ノ改版ニ讓レリ

○本書所載ノ新藥ハ皆藥名頭字ノ「イロハ」順ニ從ヒテ掲ゲタリ然レモ水銀劑ノ如キハ其效相類スル者多キヲ以テ其冠セル頭字(石炭酸水銀、撒里矢爾酸水銀ノ類)ノ如何ヲ問ハズ皆之ヲ「ス」ノ部ニ集録セリ其他規尼涅新製劑、蒼鉛製劑等ノ如キモ亦此例ニ從ヘリ故ニ例之撒里矢爾酸、蒼鉛ヲ「サ」ノ部ニ搜索シテ得ザ

例言

ルヲアルモ本書ニ脱漏セル者トナスコナク更ニソノ部即チ蒼鉛製劑ノ條ヲ見ルベシ此ノ如キ類例ハ多クナルヲ以テ目次索閱ノ際注意スベシ

○重要ノ藥品ハ其題名ヲ四號字トナシ其然ラザルハ五號字トナセリ又必要ニ屬セザル藥品或ハ用量等未ダ一定セザル藥品ハ藥名及效用等ノミヲ記載シタリ

○本版ニ於テハ新藥ノ處方ヲ増加スルコト舉ゲテ算フ可ラズ是レ實地家ノ便宜ヲ慮レバナリ

○藥品ノ發見既ニ久シキニ屬スルモ其效用ノ新ニ發見セラレタルモノハ性狀及他ノ效用ヲ除キテ其新發見ノ效用ノミヲ掲ゲタリ

○本版ニ於テモ前版ニ同ジク新藥中本邦諸家ノ實驗アルモノハ一々其說ヲ掲ゲテ參考ニ供セリ是レ本書ニ於ケル特色ノ一タリ詳細ハ各抄録ノ原本ニ就テ知ラルベシ

○本書ハ改版ゴトニ新藥ノ發見アレバ之ヲ増補シタルヲ以テ出版ヲ重ヌルニ從ヒ益、醫家ノ賞用スル所トナレリ依テ本版ニ於テモ本書發行以來未ダ曾テ見サル所ノ一大改訂増補(從テ前版ニ比スレバ紙數ノ増加約二百餘頁)ヲ加ヘ

タルヲ以テ實ニ面目ヲ一變シ恰モ一新書ノ觀ヲ爲セリ是ニ由リテ庶幾クハ醫學日新ノ今日苟クモ斬新治療ニ後レザラント欲スル讀者諸氏ノ希望ニ背カザランコトヲ

明治三十八年六月

纂譯者識

改訂 増補 新薬纂論

目次

重要ノ品ニハ目次ノ上ニ〇點ヲ冠セリ

(イ)	
○イトロール	一
イヒトフォルム	一九
イガツチール	二〇
インダストール	二一
○イヒトアルビン	二一
○イヒチチール	二二
(イ)イヒチチール硫酸安母尼亞	二三
(ロ)イヒチチール硫酸那篤留誤	二三
イヒチチール加兒叟誤	三一
○イヒタルガン	三一
伊太利石油	三二
イムヒトゲン	三二
イムペリアリン	三二
インフルエンチン	三三
イナイン	三三
茵陳蒿	三三
葱苡仁	三三
(ロ)	
イソグルビン	三三
イリス、ウエルシコロル	三四
イゾブチールフェノールヨジツト	三四
イゾブチールニトリツト	三四
イゾアチチヒリン	三四
イゾアール	三四
イソジン	三四
イビツト	三四
イソコカイン	三五
(ハ)	
ロドイチエア	四〇
バチロール	四〇
馬尿酸	四〇
馬尿酸石灰	四〇
バラクレソチン酸	四一
バラクレソチン酸ナトリウム	四一
ハルフィア	四一
パプチシア、チンクトリア	四二
バシチン	四二
バイクル根	四三
麥芽越幾斯	四三
麥芽鐵越幾斯	四三
ハヤ	四三
ハママリス、ウイルギニカ	四三
ハセヨ子	四三
麥角流動越幾斯	四四
半夏	四四

目次

ハイモルセ	四六	二沃度撒里矢爾酸	六二	ホロール	七三
○薄荷腦	四六	二沃度チチフトール	六四	ホピナイン	七三
○破傷風治療血清	四九	二沃度チチフェン	六四	ホラトル(硼酸酒石酸礬土)	七四
○ババイン	五三	二沃度フェノール	六五	糖牛兒	七四
多角酵母	五五	二沃度レゾルチン	六五	ホンドク實	七六
パンクレチン	五五	二チチ撒里矢爾酸那篤留誤	六五	硼酸グリセリン	七六
パンクレアチン	五五	二沃度チモール	六六	硼酸風利設林加兒曳誤	七六
ババグエリン	五六	乳酸	六六	硼酸風利設林那篤留誤	七六
○バアラアルテヒツト	五六	乳酸桿	六七	硼砂溶液	七七
バアラフォルムアルデヒツド	五八	乳漿(モルケン)	六八	抱水プロマール	七六
バラントロフエノール	五九	ニチリ	六八	抱水アチールクロラール	七六
バラクロラーセ	五九	ニイバ	六八	ホムアトロピ子	七六
バライラ	五九	ニイモ木	六八	靨魯誤水素酸ホムアトロピ子	七八
バルテニウムヒステロフォルス	五九	日本紙	六九	ホンチン	七九
パンボダノ皮	五九	人參	六九	ホロカイン	八一
白芷	六〇	(水)	六九	ホヘイン	八一
白桃花	六〇	硼酸石炭酸	六九	ボドフィルリン	八二
芳香性蓖麻子油	六〇	硼酸撒里矢爾酸	六九	ボドフィルロトキシン	八二
パロシシ	六〇	○抱水テルピン	七〇	ボゴノアス、フェアリフダス	八二
(三)	六〇	○抱水アミレレン	七一	ボリゴヌム、アフィクラーレ	八二
○ニルファニン	六二	ホルド	七二	ボリソルウエー	八二
○ニトログロセリン	六二	ホルドール	七三	ホンガミア、ガラアラ	八三
				ボフニア	八三

ボウシシグルチア	八三	メツリン及リスツリン	九〇	○ヘロイン	九七
牡丹皮	八三	メテール	九〇	ヘルツツシン	一〇三
マペリン	八三	メチール油	九〇	ヘルウコンニキツク	一〇三
マラ實	八四	ヘトケレソール	九〇	ヘマトーゲン	一〇五
マラヘー皮	八四	○ヘトール	九〇	ヘムアルブミン	一〇五
マスト豫防接種	八四	ペトール又チチフトール	九二	ヘマチンアルブミン	一〇五
ベルラドンニン	八四	ペンタール	九二	ヘモール製劑	一〇七
ペンツアニリツド	八五	○ヘドナール	九三	ヘマトール	一〇七
ペンツオイン	八六	ヘルコソール	九四	ヘモフォルム	一〇七
ペンツラバラクレンソール	八六	ペエルハウエア、ジツフーザ	九四	ヘラキン	一〇七
○ペンツオソール	八六	ヘドワイギア、バルサミフェラ	九四	ヘルチーリン	一〇七
ペンツチチナフトール	八七	ヘリアンツス、アヌス	九四	ヘルシナミン	一〇九
ペンツチチフェノナイド	八七	ヘリクテレス、イゾラ	九四	ヘルロチン	一〇九
ペンツチチイゲノール	八七	ヘリチナ	九五	○ペロニン	一〇九
ペンツアチエチン	八八	ヘバチカ、トリロバ	九五	○ペグニン	一一一
ペンツチチドドリン	八八	ヘラクレウム、ラナツム	九五	ペダリユム、ムレツキス	一一三
ペンツチチイル莫兒比涅	八八	ヘルニアリア、ガラアラ草	九五	ペガヌム、ハルマラ	一一三
ペンツチチイルアミードフェニール鹼	八八	ヘアジン	九五	ペラルゴニウム、アコトフィルルム	一一三
酸	八七	ヘモスタート	九五	ペナトル、シヤムビー	一一三
メンタオイレクゴニン	八七	ヘレニン	九六	ペロバ、ルクマ	一一三
メルベリス、アキイフオリア	八七	ヘルレボレイン	九六	ペチウエリア	一一三
メルペリン	八九	ヘリチトロピン	九七	扁桃酸安知必林	一一三
		ヘルミトール	九七	ヘレイリン	一一三

目次

三

ベレザア	一一四	ドエボイシローネ	一一八	○チゲノール	一三六
ヘルスカピン及ヘルチール	一一四	トシガ液	一一八	腸壁扶新診断液	一三九
ヘトロスルフォール	一一五	トラテスカンチア、クレクダ	一二九	○チナコール及シロリン	一四一
		トリアンテマ、オアコルタダ	一二九	チエドロン	一四三
		トリウムフェツタ、セントリロバ	一二九	チミチフガ、ラチエモサ	一四三
		トシクイノール	一二九	チマチエチン	一四三
		當藥	一二九	○チトロフエン	一四四
		トロボシ	一二九	チフオマンドラ、マダチエア	一四四
		トリエール	一二九	チフイヂリシム根	一四四
		トリエルリン	一二九	チチン	一四四
		トリエトル	一三〇	○實布理亞治療血清	一四五
		○トリチナール及テトロナル	一三〇	腸壁扶新血清	一五一
		トリフエニン	一三一	實多利新鹽基	一四五
		○トロメコカイン	一三一	ガギタリン	一五二
				ガギタレイン	一五二
				ガギトキシシ	一五二
				ガロッドフォルム	一五三
				チモフォルム	一五三
				チモタール	一五三
				チモール	一五三
				ガダ皮	一五六
				○チウレチン(テオプロミシ)	一五六
				チエトラリン	一五七
				チエレブリン	一五七

(ト)

(チ)

(又)

(ル)

(ヲ)

チエラテンテール	一五七	リビツア	一六〇	龍眼肉	一七〇
チチカムフ	一五七	栗葉	一六〇		
チチサボール	一五七	リアントラール	一六〇		
チチレゾルチン	一五七	硫酸アニリン	一六一	メトロール	一七〇
チユレツト	一五七	硫酸亞馬魯必濕	一六一	メトローセ	一七〇
チチ撒里矢爾酸	一五七	○硫酸石炭酸(アセブトール)	一六三	メクレイン	一七二
チンホ皮末	一五七	○硫酸石炭酸亞鉛	一六三		
チノスボラ、コルザフオリア	一五七	○硫酸撒里矢爾酸曹達	一六四		
チロフエラ、アストマチカ	一五八	○硫酸石炭酸「チウレツト」	一六四	ルツファ、エヒナダ	一七二
チトルリン	一五八	硫酸「セリドニン」	一六四	ルアス、カメモルス	一七二
チトナミールチイゲノール	一五八	リベニン	一六五	ルラス、アロマチカ	一七二
チンナミールケアヤコール	一五八	リゲノスルフイト	一六五	ルメツキス	一七二
チンナモール	一五八	○リゾール	一六五	ルハダチン	一七二
チームス	一五八	リゾフォルム	一六七	ルタ葉	一七二
地膚子	一五八	リグロイン	一六七	ルチルリン	一七二
		リアトリリス、オドラチツシユマ根	一六八		
		リステリン	一六八		
		リコペルドロン、ギガンテウム	一六八		
		リコプス、ウイゼルニクス	一六八		
		リチエトール	一六八		
		リシジン	一六八		
		○硫化炭素	一六八		
		○硫酸炭素	一六八		
		○硫酸亞鉛亞兒密組誤	一七〇		
		○硫酸拔留誤	一七〇		
		○里丟誤抱合物	一七〇		
				○チイカジン	一七二
				○チイフォルビア、ヘリオトロピカ	一七三
				○チイフォルビア、ヒルイフエラ	一七三
				○チイハラスト、ホルスファイルジ	一七四
				○チイパトリユム、メルフォリアツム葉	一七四
				チイゲノールアチエトアミツト	一七四

オイゲノール	一七四	チカヘロ	一九一
オイカヨブトール	一七四	チエシプス	一九一
○チイラクトール	一七六	○チレキシシ	一九一
チイラクトール	一七六	(イ)鹽酸チレキシシ	一九一
阿列布油	一七六	(ロ)單寧酸チレキシシ	一九三
オスミウム酸	一七六	○チイキニン	一九三
オスミウム酸加里	一七七	チイチニミン	一九四
○オキシナフトイ酸	一七七	チイメノール	一九五
オヒオキシロン、セルロンチヌム	一七八	チイドキシシ	一九五
オルモシン	一七八	チイデルモール	一九五
チキシン	一七八	チイガルロール	一九五
チルフオール	一七九	チイロビン	一九六
オロキシルム、インシクム	一七九	チイレソール	一九七
オルチン	一七九	チイフタルミン	一九七
オルトシイフオン、スタミノイス	一七九	チイマル	一九八
オキサリス、コルニクラダ	一七九	○チイフオリン	一九八
チレチ結麗阿曹駕	一七九	○チイロフエン	一九九
ラレチグアヤコール	一七九	チイグフホルム	二〇一
○サルトフオタルム	一七九	チイゲノフホルム	二〇二
○新、サルトフホルム	一八二	チイナトロール	二〇三
○チキサフホルム	一八二	チイビリン	二〇三
○チイカイン	一八三	黄蓮	二〇三
チズチン油	一九一	黄柏	二〇四
チキシヒンアセプトール	一九一	黄芩	二〇五

カイレ、マリチメ	二二〇	甘蔗	二二六
カラフク	二二〇	瓜蒂	二二六
カラグアラ	二二〇	ガリリアラチモイサ	二二八
カルフイルルム、イノフイルルム	二二〇	カルドウス、マリアヌス	二二八
ガルラール	二二〇	カルナウバ	二二八
カナドル	二二〇	カロバ葉	二二八
カンカラグア	二二〇	カロピン	二二八
カレガ	二二〇	カスカラ、アマルガ皮	二二八
カラクトーゲン	二二〇	○カスカラ、サグラダ	二二九
カルノー	二二〇	カフシア、トラ實	二二九
痛腫血清	二二〇	カウロフイルル、ム	二二九
カセイン軟膏	二二〇	カルルヤ	二二九
○ガルラノール	二二一	ガウム、アマリネ草	二二九
カンナピノン	二二二	ガルチニア、マンゴスタナ	二二九
カンナビン	二二二	ガレガ、ピンナダ	二三〇
單寧酸カンナビン	二二三	カルニフェルリン	二三〇
加度誤製劑	二二三	カムフオイド	二三〇
○カプトール	二二四	カムフオヒラツチロン	二三〇
カプシチン	二二四	カルボチアルジン	二三〇
カプシタム硬膏	二二五	カルガタエルチツチリア	二三〇
カブラリア	二二五	カルバイン	二三〇
カラナ	二二五	カイリン	二三一
○カルドール	二二五	カワカワ	二三一
		○甘汞	二二三
		加留誤抱合物	二三五
		カンタリジン酸加里	二三五
		カリヤート	二三六
		カウリ	二三六
		ガウルテリア油	二三六
		カコザール酸	二三六
		(E)	
		沃度酸	二三七
		沃度酸スコボラミチ	二三七
		沃度アルパチツト	二三七
		沃度撒里矢爾酸	二三八
		沃度依的兒	二三八
		沃度丁幾	二三八
		沃度アルベン	二三八
		沃度化ルビシウム	二三八
		沃度化銀	二三九
		沃度化カルファタロール	二四〇
		沃度二沃度レゾルチン	二四〇
		沃度二沃度フェノール	二四〇
		ヨージン	二四〇
		夢兒沃度仿誤	二四〇

ネグランド、ロジアエイ皮 三四〇
ネリウム、オレアンテル根 三四〇

(ナ)

○ナフタラン 三四〇
○ナフトリン 三四四
○ナフトール 三四七
ナフトピリン 三四八
ナハルリウム 三四八
ナフタロール 三四八
ナレガミア、アラタ 三四八
ナフチチン酸 三四八
那篤留誤抱合物 三四八
(イ)亞砒酸那篤留誤 三四八
(ロ)カンタリジン酸那篤留誤 三四九
(ハ)蟻酸那篤留誤 三四九
(ニ)屈利設林酸那篤留誤 三四九
(ヘ)カコジール酸那篤留誤 三五〇
(ト)過錳酸那篤留誤 三五〇
(チ)過硫酸那篤留誤 三五〇
(リ)糖化那篤留誤 三五二
(ヌ)流動、シヤチチ、那篤留誤 三五二
(ル)スルファニール酸那篤留誤 三五二
(チ)碇基撒里失爾酸那篤留誤 三五二

(リ)安息香酸那篤留誤 三五三
(カ)二「チチ」撒里失爾酸那篤留誤 三五三
(ヨ)沃度酸那篤留誤 三五三
(タ)乳酸那篤留誤 三五四
(レ)亞硝酸那篤留誤 三五四
(ソ)「バラケレソチン」酸那篤留誤 三五五
(ツ)重炭酸那篤留誤 三五五
(ネ)燐酸那篤留誤 三五五
(ナ)撒里失爾酸那篤留誤 三五六
(ラ)硫酸那篤留誤 三五六
(ム)次亞硫酸那篤留誤 三五七
(ウ)エチール酸那篤留誤 三五七
(キ)エチール硫酸那篤留誤 三五七
(ノ)硝酸撒里失爾酸那篤留誤 三五七
(チ)「フルナル」化那篤留誤 三五七
(ク)撒里失爾酸「フルフル」化那篤留誤 三五八
(ヤ)碇基撒里失爾酸那篤留誤 三五八
(マ)「テルリ」酸那篤留誤 三五八
ナルコチン 三五八
ナフトケレソール 三五八
ナトリ 三五八
ナルジョー油 三五八

南天

ラクトーゼ 三五九
○ラクトフェニン 三五九
○ラノリン 三六〇
○ラルギン 三六三
ラクトヘプシン 三六五
ラシジヤ 三六五
ラクナンテス、チンクトリア根 三六五
ラミーン 三六五
ラウウォルフィア 三六五
ランタニン 三六六
無花果 三六六
△ダール根 三六六
△ターセ 三六六
△カムベ 三六七
△クナ 三六七
△イラ、プアマ 三六七
△ルンダ 三六七
△ルラヤ 三六七
ムチシア、ウイチエフオリア 三六七

(ラ)

無患樹 三六七
△ルレ油 三六七
△ナムナ 三六八

(ウ)

○ウレタン 三六八
ウラール 三六八
ウラゲアラ 三六九
ウレア 三六九
ウラーン 三六九
ウリチエジン 三六九
ウイビスグス 三六九
ウアバイン 三六九
ウレキシシ 三七〇
ウロスチグマ 三七〇
グイブルヌムブルフォリウム 三七〇
グイブルヌムチブルス 三七〇
○ウロフェリン 三七〇
ウロシン 三七〇
ウロール 三七二
○ウロトロピン 三七二
ウルチコール 三七三
ウルチカ、シオイカ 三七三
ウアニルリン 三七三

ウエラーム 三七三
ウエルノニア 三七三
ウイタリン 三七三
烏頭 三七三
ウイアイリン 三七三
ウインカ、マヨル 三七三
ウイスタム、アルブム 三七四
○ノゾフェン 三七四
ノイロジン 三七四

(ノ)

○ノゾフェン 三七四
ノイロジン 三七四

(ケ)

クロトノール酸 三七五
クロトン酸 三七五
ケルエン抜兒撒誤 三七五
格魯拉兒抱合物 三七五
(イ)格魯刺兒亞密度 三七五
(ロ)格魯刺兒安母紐誤 三七五
(ハ)格魯刺兒亞密度 三七六
(ホ)樟腦化クロラール 三七六
(ヘ)クロラールチヤンセドライト 三七六

(ト)格魯刺兒薄荷腦 三七六
(チ)格魯刺兒フェノール 三七六
(リ)格魯刺兒チモール 三七六
クロラールカルブアミッド 三七六
クロラールカンフェルグリセリン 三七六
格魯刺兒「フォルムアミッド」 三七六
○クロラローセ 三七七
クロラールコッフエイン 三七七
クロラールチルトフォールム 三七七
クロレトシ 三七七
タロロリン 三七八
格魯兒メチール 三七八
格魯兒メチーレン 三七九
○格魯兒エチール 三七九
格魯兒エチーレン 三八一
格魯兒エチーリデン 三八一
格魯兒フェノール 三八一
格魯誤酸 三八二
格魯兒石灰 三八二
格魯兒加兒叟誤 三八三
クロラールバチツト 三八三
格魯兒安母尼亞 三八三
格魯兒拔誤 三八三
格魯兒「アルミウム」 三八三

フエロニン	四七〇	プロミシア	四八一	フォルトイン	四九一
親魯誤化エチール	四七二	親魯誤化ニツケル	四八一	フェニールカレタン	四九一
親魯誤化エチーレン	四七二	プロモフタリン	四八一	フラクチア	四九二
親魯誤安知歇親林	四七二	フェルラドリウム、アタアチクム	四八一	プチア	四九二
親魯誤金	四七二	ファサカ業	四八二	ブルチエア	四九二
○親魯誤仿誤	四七二	ブノイミン	四八二	プロウネア	四九二
プロマリヤ	四七五	プロボリジン	四八二	フアルヒチストロバ	四九二
○プロミビン	四七五	ファンデルリア	四八二	フェノキシカツフエイン	四九二
○プロモコール	四七六	プロムアマミツド	四八二	テロスベルムム、スベリフォリウム	四九二
○プロモール	四七七	ブツラレア	四八二	フォルマーゲン	四九二
ブルチン	四七八	ブルメリア	四八二	○フォルムアルデヒド	四九二
ブリオニア、アルバ	四七八	ブレイン	四八二	フォルマツチール	五〇一
ブルラ、ゲケル	四七八	フィクス、ドリアリア	四八二	フォルムアニリツド	五〇二
ブルシン酸	四七八	○フェロナール	四八三	フォルマリツド	五〇二
ブルサバストリス	四七八	フェノサリール	四八四	○フォルマン	五〇二
ブルオルフオルム	四七八	フィランツス	四八四	フォルミン	五〇三
ブルオレスチエイン	四七八	フェニールメタン	四八五	フロリドチン	五〇三
○フェルリビリン(フェルロビリン)	四七八	ブルチエアスマトラナ	四八五	フロロケルチン	五〇三
フェルラトイゲン	四八〇	○フェナチエチン	四八五	フランゲリン酸	五〇三
フェルリプトン	四八〇	フェノリド	四九〇	フィソスチグマ	五〇三
フェルヘミン	四八〇	フェドユレチン	四九〇	○フェルサン	五〇四
フェルイヒトール	四八一	フェニールヒドラチン	四九一	フィトラツカテカンドラ	五〇五
フェノール樟腦	四八一	フィリリン	四九一	腐蝕鉛	五〇五
フクシン	四八一	フィルモイゲン	四九一	プロトイゲン	五〇五

ブルヌス、ウイリギニアナ	五〇六	○古加乙混	五二七	虎列拉豫防接種法	五五一
プロピラミン	五〇六	(イ)鹽酸古加乙混	五二七	虎列拉血清療法	五五二
プチキヨチス	五〇六	其化(ロ)ヨリ(ル)ニ至ル諸製劑	五二七	コトイン及バラコトイン	五五三
フオトキシリン	五〇六	チ掲ケタリ	五二七	○コサゲリン	五五三
○プロタアルゴール	五〇六	コロシンチザン(チトルリン)	五三九	コロエルリン	五五五
親魯誤安母尼亞ルピツウム	五一五	コロシンチン	五三九	コカピリン	五五五
アラツタ、チリエンターリス	五一五	コルプリアレタリナタ	五四〇	○ゴノロール	五五五
フェジン	五一六	コナルラナ	五四〇	コラ	五五八
フェルロソール	五一六	コロリール	五四〇	コラニン	五五八
○フアナジン酸及フアナジン酸曹達	五一六	コルリソニア、カナデンジス	五四〇	コントラエルファ	五五八
○フンゴ	五一八	コリール	五四〇	コンワラリア、マヤリス	五五九
○プラスモン	五二二	コロロール	五四〇	コンワラリン	五五九
フルチロフォルム	五二三	コモクラジアインテカリオリア	五四〇	コンワルマリン	五六〇
プロテタチン	五二四	ゴルドール	五四〇	胡椒	五六〇
ブルモフオルム	五二四	コスバリン	五四〇	臭茶黄	五六〇
フルチロール	五二四	琥珀	五四〇	コブチス	五六〇
福壽草	五二四	コルヒタン	五四一	コラルリオリツア、オドントトリツア	五六〇
○フェノコルム	五二六	胡麻油	五四一	コルホルス、トリロクアラリス	五六〇
(イ)鹽酸フェノコルム	五二六	コロムピン	五四二	コルヌスフロリダ	五六一
(ロ)鹽酸フェノコルム	五二七	コンドユランギン	五四二	コルヌチン	五六一
(ハ)炭酸フェノコルム	五二七	コ子ツシ	五四二	コンプレツム	五六一
(ニ)撒里矢爾酸、フェノコルム	五二七	コ子ツシ	五四二	コルリアミルチン	五六一
		コニー	五四二	コルシルレン茶劑	五六一
		○コルラルゴール(可溶性銀)	五三四		

アンチ窒素血清	六一四	○アイロール	六三三	アリスマブランタゴ	六四二
アレトリスコルジアール	六一四	アロイン	六三六	アネトール	六四二
アニリピン	六一五	アルストニン	六三六	アニス油筆	六四二
アンチジセンテリタム	六一五	アンヒエタ、サルダリス	六三七	アンチカルミン	六四二
アルゲントール	六一五	アンダー、アスウ(實及油)	六三七	アンチネルグイン	六四二
○アスピリン	六一六	アンジラ、イネルミス	六三七	アチエトピン	六四二
アスピドスピネロス越幾斯	六一八	アンジロバ	六三七	アチエチルロイコメチレンブラ	六四二
○アコイン	六一八	○アコピリン	六三七	ウ	六四二
アタチツチン	六二四	○アルバルギン	六三七	アチエチラライコメチレンブラ	六四二
○アガリチン	六二四	アルギノイド劑	六三七	ウ	六四二
アスピドスヘルミン	六二五	アミグトフェニン	六三八	○安母尼亞製劑	六四三
○アイゴン	六二五	アミロフォルム	六三八	アセプトール	六四六
アイランツス、グラントニローサ	六二八	○アンチノシシ	六三九	アンチセプトール	六四六
アランギウム	六二八	アンチドール	六三九	アンチセブリン	六四六
ブランドール	六二八	アンチアルトリン	六三九	アンチテルミン	六四七
アレトリス、フアリノイサ	六二八	タンチジアマチタム	六三九	アナルゲン	六四七
アルラマンダ、カタルチカ	六二八	アンチネチン	六三九	アルミウム製劑	六四八
○アルゴニン	六二八	アンチブチン	六三九	アピアバ	六四八
アチエト	六三〇	アチモート、ブルサチルラ	六四〇	アムプロシア	六四八
アロイロナート	六三〇	アネモニン	六四〇	アナカルシウム	六四八
アルソール	六三〇	アエスチーレ	六四一	アナギリス	六四八
アネジン(アネソン)	六三〇	○アボリシ	六四一	アンチアリス	六四八
アエチン及アネトール	六三一	アガルフニアメリカナ	六四一	アピオール	六四八
アナカルシウム硬膏	六三二	アツハラ	六四二	アボアトロヒネ	六五〇

アボコテイン	六五〇	(ハ)グワチン	六五四	ザロキニン	六八〇
アルコシリン	六五〇	(ニ)アレカイン	六五五	ザリガロロール	六八一
アルチミシン	六五〇	(ホ)ホモアレコリン	六五五	ザロケレチール	六八一
アセプトリン	六五〇	(ハ)抱水製劑「アレコリン」	六五五	ザロザンタール	六八二
○アスパロール	六五一	アレナリア、ルブラ	六五五	○サツカリ	六八三
アトラピリン	六五一	アルゲモート、メキシカナ	六五六	醋酸酒石酸亞兒密紐液	六八八
アステロール	六五一	アリストロヒア、チムビフェラ	六五六	醋酸亞兒密紐液	六八八
アボン	六五二	アルメリア、アルガリス	六五六	○サノール	六八九
アラリバ	六五二	アセプチン	六五六	三級魯沃度	六九〇
アスポリン	六五二	アシミン	六五六	三級魯沃度	六九〇
アスタレピアス	六五二	アノジニン	六五六	三級魯沃度	六九〇
アラリア	六五二	○アトキシール	六五六	三級魯沃度	六九〇
アルテミシアフイギダ	六五二	アツアジラクタ	六五七	三級魯沃度	六九一
アスタレピアスインカルナタ	六五三	アナルゲシン	六五七	三級魯沃度	六九一
アスタレピアスシリアカ	六五三	アスパラギン	六五七	三級魯沃度	六九一
アスタレピアスツペローサ	六五三	アテロスヘルマ、モスカツム皮	六五七	三級魯沃度	六九一
アスタレピアジン	六五三	亞篤魯必涅製劑	六五七	三級魯沃度	六九一
アトランヤア、モノフィラ	六五三	(イ)油酸亞篤魯必涅	六五八	三級魯沃度	六九一
アボシスヌア、カンナビウム根	六五三	(ロ)糖寧酸亞篤魯必涅	六五八	三級魯沃度	六九二
アレカ、カテヒユ實	六五四	(ハ)硫酸亞篤魯必涅	六五八	撒里矢爾酸安母尼亞亞兒密烏誤	六九二
アレカ類鹽基	六五四	(ニ)亞篤魯比涅華攝林	六五八	○撒里矢爾酸メチリウム	六九三
(イ)アレコリン	六五四	○安知必林	六五九	○サノフォルム	六九三
(ロ)アレカイジン	六五四	○安知製林	六六八	酸素	六九五
				サプロール	六九五
				サフロール	六九五

シマルバ皮	七四二	紫根	七六四	○ヒドロヒノン	七七五
シムフオロール	七四三	芍薬	七六四	ヒドロナフトール	七七六
シマルル	七四三	シムロ實	七六四	ヒドロキシールアミン	七七六
シクイリチー	七四四	シダ	七六五	ヒメノシクチオン、エキステチエール	七七六
シクイリチン	七四六	シダスマツキアチリエンタリス	七六五	スA	七七六
「シエクイリトール」及同血清	七四六	シムフオールカルプス	七六五	ヒペコウムプロクマベレス葉	七七六
紫檀油	七四七	シスマ實	七六五	ヒドロナフチラミン	七七六
昇永漿	七四七	猩紅熱血清	七六五	ヒメチア皮	七七六
昇永依的兒	七四七	(ヒ)		ヒグロファイラ、スピノーサ	七七六
酒石酸ニコチン	七四七	○ヒツピ	七六六	ヒドルアミール	七七六
酒石酸ピペリジン	七四七	薑澄茄酸	七六六	ヒドルアミールエーテル	七七七
○シチニン	七四七	ヒドロベルメリン	七六七	ヒドランケア、アルホンア	七七七
○シゲストーゼ	七五二	ヒマフイラ葉	七六七	ヒドロコチーレ、アジアチカ	七七七
○硝酸銀	七五四	○ヒノリン	七六七	ヒノヨジン	七七七
○ジアフテリン	七五四	○ヒノソール	七六九	ヒノヒリン	七七七
シアフトール	七五六	ヒヨリン	七七一	ヒノラール	七七七
シツツ	七五七	ヒボカスネニ越幾斯	七七一	ヒブノン	七七七
シドナール	七五七	ヒドラスチニ	七七二	ヒブナール	七七八
シナモーゲン	七五八	ヒドラスチン	七七二	ヒクリン酸	七七八
シヤムホエ葉	七五八	ヒドラスチン	七七三	ヒノトロピン	七七九
○商陸	七五八	ヒドラスチン	七七三	ヒノトロピン	七七九
昇永	七六一	鹽酸ヒドラスチン	七七三	ヒーロル	七七九
シリンギン	七六三	ヒドラチエトン	七七四	非沃新矢亞密涅	七八〇
○次亞磷酸石灰	七六三	ヒドラゴツキン	七七五	ヒヨスチン	七八二
		ヒドララルギロール	七七五	親魯誤水素酸ヒヨスチン	七八四

鹽酸ヒヨスチン	七八五	ビペラチジン	七九〇	モルリジン	八〇四
沃度水素酸ヒヨスチン	七八五	ビナクタン	七九〇	モルルゴストリクダ	八〇五
ヒステリオニカ、パイルエン	七八五	ビクロトキシン	七九一	モネシア	八〇五
ビビトアホイレ酸	七八五	○ビリジン	七九一	モリンガプテリゴスヘルマ根	八〇五
ビロツチン	七八五	ビロカルピジン	七九二	モルルイン	八〇五
ビロサール	七八六	必魯加爾必涅	七九二	モルルフォール	八〇六
ビカチ	七八六	ビトエコール	七九三	モルレニア	八〇六
ビペロナール	七八六	○ビロガルス酸	七九三		
ビクロナール	七八六	「ビロガロールファイルモーゲン」	七九七	石灰抱合物	八〇六
ビチー木	七八六	「ビロフォルム」	七九八	(イ)磷酸乳酸鐵石灰	八〇六
セスチンア皮	七八六	○ピラミドン	七九八	(ロ)沃度酸石灰	八〇六
ビスマール	七八七	ヒロジン	七九八	(ハ)酸性磷酸石灰	八〇七
ビスマトール	七八七	○ヒルゴール	八〇二	(ニ)磷酸屈利設林石灰	八〇七
ヒュアマンリパ葉	七八八			(ホ)馬尿酸石灰	八〇七
ヒユインガン	七八八	莫兒比涅新製劑	八〇三	(ヘ)乳酸石灰	八〇七
ビタロアドニジン	七八八	(イ)安息香酸莫兒比涅	八〇三	(ト)三鹽基性膠質加磷酸石灰	八〇七
ビヒユリム	七八八	(ロ)磷酸莫兒比涅	八〇三	(チ)含糖石灰	八〇七
ビコソ葉	七八八	(ハ)「メコン」酸莫兒比涅	八〇四	(リ)錫基寧酸石灰	八〇七
ビリガン	七八八	(ニ)油酸莫兒比涅	八〇四	其他數劑アリ	八〇七
ビングイン	七八八	(ホ)「フター」酸莫兒比涅	八〇四	石灰水	八〇七
ビクナンテムム、リニコオリウ	七八八	(ハ)酒石酸莫兒比涅	八〇四	セネチチ	八〇七
ビレチー	七八八	モカラス	八〇四	セチア、アグミナク	八〇七
ビハリン	七八八	モルリン	八〇四	石炭酸石鹼	八〇七
ビペラチン	七八八				

目次

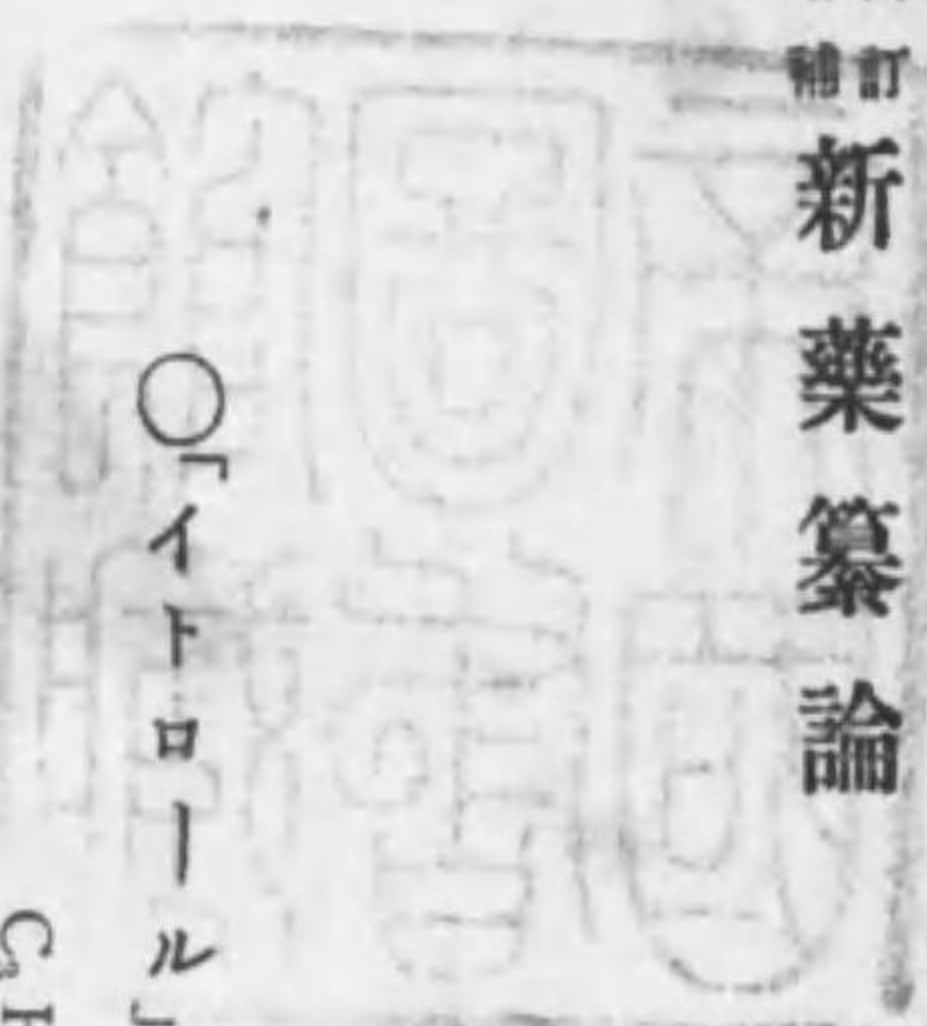
二三

石炭酸	八二〇	(十四)石炭酸水銀	八一九	スコボラ	八二七
接骨木皮	八一	(十五)ナフトール汞	八一九	(イ)スコボラ、カルニチリカ	八二七
蟾蜍	八一	(十六)ナフトール醋酸汞	八二〇	(ロ)スコボラ、ヤボニカ	八二七
川芎	八一	(十七)油酸汞	八二〇	(ハ)スコボラ、ルリダ	八二八
セルフアトール石鹼	八一	(十八)酸化鐵化汞	八二〇	スコボラミン	八二八
石蒜	八一	(十九)フェノール醋酸汞	八二〇	スクアラルリン	八二八
柘榴根皮	八一	(二十)亞硫酸汞	八二〇	ストロンチウム製劑	八二八
○赤痢血清	八一	(廿一)チモール醋酸汞	八二〇	(イ)靱羅護化ストロンチウム	八二八
		(廿二)白聖加水銀	八二〇	(ロ)乳酸ストロンチウム	八二八
		(廿三)アスマラギン水銀	八二〇	(ハ)醋酸ストロンチウム	八二九
		(廿四)撒里失兒酸水銀	八二〇	(ニ)硝酸ストロンチウム	八二九
		(廿五)溶解性フォルムアミダート	八二〇	(ホ)燐酸ストロンチウム	八二九
水銀新製劑	八一	水銀	八二二	○スバルテイン	八二九
(一)エチール格魯兒化汞	八一	(廿六)單寧酸水銀	八二三	硫酸スバルテイン	八三一
(二)アルブミン水銀	八一	(廿七)チモール醋酸水銀	八二四	附錄 鹽酸チキシスバルテイン	八三一
(三)格魯兒安母尼亞水銀	八一	(廿八)鐵化亞鉛水銀	八二四	スバルミシ	八三一
(四)安息香酸水銀	八一	(廿九)沃度酸水銀	八二四	ステレチソール	八三一
(五)格魯兒汞尿素	八一	(三十)「カコジール」酸水銀	八二五	スクレロチン酸	八三二
(六)鐵化水銀	八一	水銀ピチタタニン	八二六	ステノカルピン	八三二
(七)アラニン汞	八一	水銀油	八二六	スクピラ	八三二
(八)赤色過沃度汞	八一	水銀石鹼	八二六	水仙	八三二
(九)鹽酸ゲルチンヘプトン汞	八一	スコボリア、ドユルシス	八二六	スビゲリア、マリランシカ	八三二
(十)溶性グリココール汞	八一	水製白屈菜越幾斯	八二六	スチルリギア	八三二
(十一)大楓子酸汞	八一	スコバリン	八二七	新萬里幾尼涅	八三三
(十二)イミド琥珀酸汞	八一				
(十三)ヘプトネ化水銀	八一				

○スチプチシン	八三三				
スチルビグリン	八三五				
スチルキトキシシン	八三五				
ステレソール	八三六				
スルファルデヒド	八三六				
スマラケジン	八三六				
○ストロファンツス	八三六				
○ストロファンツス丁酸	八三八				
ストロファンチン	八三九				
單寧酸ストロファンチン	八三九				
ストマトール	八三九				
○スルフォナール	八四〇				
スチグマツム、マイジス越幾斯	八五二				
スチラコール	八五二				
スルフォバラアルテヒツド	八五三				
スクロール	八五三				
スルファミノール	八五三				
スルファミノールチイカリプト	八五三				
ール	八五三				
○スルファニール酸	八五三				
スルフトリトシルツプ	八五四				

改訂 增補 新藥纂論

青木純造 纂譯
飯高芳康



「イトロール」

Ivol.

枸橼酸銀 *Argentum citricum*

向「コルラルホル」及「アクトロール」ヲ参考セヨ



性状 「イトロール」ハ帶黄白色ノ粉末ニシテ微臭アルモ殆ト無味ナリ六二、二%ノ銀ヲ含
ミ酒精、依的兒及有機性溶解劑ニハ溶解セス水ニハ唯一分ト三千八百分ノ比例ニ於テ溶解
ス本品ノ溶液ヲ製スルニ臨ミテハ三十度以上ニ加熱ス可ラス蓋シ容易ニ分解スレバナリ本
品ハ光線ニ遇ヘハ黒色ニ變スルカ故ニ光線及空氣ヲ遮絶シテ貯フルヲ要ス

作用及應用 「イトロール」ハクレイデ氏カ防腐藥トシテ賞用シタル者ニシテ強防腐力ア
ルモ全ク無刺戟性ニシテ且無毒ナリ

クレイデ氏銀療法ハ鑛屬性銀ヲ分裂菌培養ニ接觸セシムルニ培養基ニ感應シテ分裂菌ヲ
殺滅スルト其動物組織ニ影響セサルトノ實驗ニ由リテ起ルニ至レリ是レ諸家カ確定シ且
クレイデ氏ガバイエル氏ト共ニ行ヘル細菌學的、顯微鏡的及臨牀的試驗ニ由リテ決定シタ

クレイデ氏
銀療法

イトロール

「イトロール」
の性質
及效用

ル事實ナリトス然レドモ他ノ金屬モ之ニ類シタル作用アレドモ其力微弱ナルカ或ハ生活組
織ヲ患害スルヲ見ルクレーデ氏ハ此實驗ニ基キテ防腐性創傷殊ニ閉鎖セラレタル創傷或ハ
分泌少許ナル者ニ鑛屬性銀ヲ銀箔狀トナシテ被ヒ其上ニ殺菌「ガーゼ」或ハ綿ヲ貼シタリ此
綿帶ニ由リテ創液ハ數週間殺菌性ニ保續セラレ創傷ハ反應ナク治ニ赴キ從來氏カ用ヒタ
ル綿帶ヨリモ佳良ナリキ其後同氏ハ銀箔ハ使用ニ不便ナルヲ以テ銀ヲ濃著セシメタル綿帶
料則チ粉末狀トナセル銀ヲ「ムル」ニ濃著シタル者ヲ殊ニ空洞創ニ用ヒタルニ八日ヲ經ル後
モ尙創傷部ハ無菌性ナリキ然リ而シテクレーデ及バイエル氏ハ細菌學的檢査ニ由リテ銀ハ某
種之微有機體ノ新陳代謝產物即チ乳酸ト化合シテ乳酸銀ヲ生成スルヲ發見セリ是ニ於テ
カクレーデ氏ハバイデン氏ヲシテ乳酸銀即チ「アクトール」ヲ製造セシメタリ「アクトー
ル」ノ條ヲ見ヨ

「イトロール」ハ菲薄ニ且ツ稀疎ニ散布ス可キガ故ニ比較的ニ廉價ナリトス此品ハ褐色ノ塊
中ニハ久シク貯フ可ク其性質乾燥シタル粉末ナルヲ以テ善ク微粉末トナスニ適シ全ク無臭
ナリ本品ハ唯一分ト三千八百分ノ比例ニ溶解スルノミナルガ故ニ創液中ニ於テ久シク防腐
力ヲ保存ス其分裂菌ニ對スル關係ハ「アクトール」ニ同シ「イトロール」ハ毫モ創傷ヲ刺戟セ
ズ幾何量ヲ外用スルモ身體ニ危險アルヲナシクレーデ氏ハ數月間數百ノ創傷患者ヲ「イト
ロール」ヲ以テ治療シタルニ些少ノ損害ヲモ認メザリキ即チ「イトロール」ノ爲メニ創傷ハ
甚清潔ノ觀ヲ呈シ著シク乾燥シ速ニ瘡痕ヲ結ベリ

「イトロール」
ノ用法

創傷ノ性質ノ爲メニ第一期治療ヲ營ム能ハサル創傷ニハクレーデ氏ハ嚴ニ清潔トナシタル
後「イトロール」ヲ散布シ殺菌「ガーゼ」或ハ銀「ガーゼ」ヲ以テ被包スルヲ賞用セリ綿帶ハ六
日乃至十四日ノ後交換スベシ若シ化膿スルキハ其原因ハ創傷綿帶ノ外ニ存セスンバアル可
ラス

クレーデ氏ノ用法ニ從ヒ「イトロール」ヲ用ユルニハ左ノ如シ (一)粉末トナシテ創傷肉芽
或ハ粘膜ニ直チニ通常一回或ハ數日ノ休歇ヲ以テ薄ク散布ス (二)軟膏即チ「イトロール」
一分ト豚脂、華攝林或ハ「ラノリン」五十乃至百分トナス (三)水溶液(即チ一分水四千乃至
五十分)トシテ手、器械、皮膚及創傷ノ消毒并ニ體腔ノ洗滌ニ供用ス又含嗽、菴法及浴料ニハ
一分ト五千乃至一萬分ノ液トナスベシ此溶液ハ「イトロール」末一小刀尖ヲ「リットル」ノ
水ニ加ヘテ適宜ニ稀釋シテ常ニ新製スヘシ

クレーデ氏及バイエル氏ハ銀及銀鹽ヲ防腐藥トシテ前記シタル實驗ヲ尙進テ施行シ之ヲ證セ
ラレタリ氏等ハ毒力アル細菌培養基ニ存スルキニ此等ノ銀ハ防腐藥トシテ作用ヲ發展スルノ
ミナルヲ確定シ且此銀鹽ニ關シテ例之、一分ト二千分ノ比例トナシ血清ニ加フルニ初メ
濁濁ヲ生スレモ之ヲ振盪スルキハ忽チ全ク消失スルヲ決定セリ血清ニ其蛋白ヲ奪却セラ
ル、キハ銀ハ溶液ニ變セザルナリ而シテ蛋白ニ銀鹽液ヲ加フルニ沈澱シ其分離シタル沈澱
(銀及蛋白ノ沈澱)ニ蛋白ヲ含マサル血清ヲ加フルキハ沈澱溶解スル者ナリ食鹽溶液或ハ炭
酸曹達或ハ炭酸加里ノ溶液ヲ加フルモ同一ナルヲ見ル是ヲ以テ銀ハ血清中ニ於テハ蛋白及

イトロール

亞兒加里ニ由リテ溶液ト爲ル者トス

銀劑ヲシテ持續的ニ十分防腐ノ力ヲ逞ウセシメント欲スルハ「イトロール」ノ如キ難溶解性ノ銀鹽ヲ用ヒザル可ラス「イトロール」ハ一分ト三千八百分(創傷分泌液中ニモ)ニ溶解シ此濃度ニ於テハ沈澱ヲ生スルコトナシ創傷ニ散布セズノ約〇、〇二五%ノ銀溶液ヲ創傷液ニ供用シタレモ此稀釋ノ度ハ十分殺菌若クハ細菌ノ發育ヲ制止スルニ足レリ

銀ノ創傷療法ノ方式

手術ニ於テハ通常ノ如ク手術スベキ部域ヲ清潔トナシ可及的殺菌ス可シ手術ノ間創面ヲハ時々殺菌水、食鹽溶液或ハ防腐藥ノ刺戟セザル弱溶液ヲ以テ洗滌シ亦手術ノ終結後モ然リトス容易ニ防腐繃帶ヲ施シ得ル身體部分ニ創傷アルハ銀繃帶料ヲ以テ創上ニ被ヒ次ニ「ムル」或ハ綿ヲ以テ被包ス創傷ニ排膿管ヲ裝スルカ或ハ一部分開口スルハ白色ノ繃帶料ヲ用ヒスノ唯灰白色ノ銀繃帶料ノミヲ用ユ可シ若シ閉鎖シテ繃帶シ難キ部分ニ創傷アルハ創傷ニ「イトロール」ヲ散布スルヲ宜シトス實地家ハクレイデ氏ノ說ニ從ヒテ各新創面ヲ處置セサル可ラス何トナレバ之ニ由リテ毫モ不利ヲ招カスノ而カモ續發性傳染ヲ防クハ頗ル確實ナレバナリ閉鎖シ得ザル大創面及甚シク損傷シタル體部(此體部ハ單ニ嚴重ニ清洗シタル後)ニ於テハクレイデ氏ハ薄ク「イトロール」ヲ散布シ銀「ガーゼ」ヲ以テ緩ク之ヲ填充シ手術シタル創傷ニハ八乃至十日、新發ノ挫創ニハ其分泌ニ從ヒ三日乃至八日放置ス其反應ハ頗ル僅少ニシテ分泌減退シ純漿液性トナレリクレイデ氏ハ創傷ノ狀況最不良ナルハ

ニモ銀「ガーゼ」ノ惡臭ヲ放チシヲ實驗セザリキ

クレイデ氏ハ傳染性創傷ニ於テハ眞ノ消毒法ヲ行フモ毫モ效アラストセリ氏ハ創部ノ不潔トナルヲ避ケ創部ノ安靜ヲ勉メ嚴ニ局部ヲ洗滌シ創傷ニハ「イトロール」ヲ散布シ銀「ガーゼ」ヲ以テ填充シ而シテ第一回ノ繃帶交換ハ第一回ノ繃帶時ト同シク之ヲ行ヒ若シ排膿管ヲ挿入シタルハ之ヲ除去シタル後丁寧ニ「イトロール」ヲ以テ創管ニ散布スベキ者トセリ手術ノ後全ク創傷ヲ閉鎖シ白色ノ銀繃帶料ヲ貼附シタルハ若シ其防腐不全ナランカ銀箔ハ褐色トナリ溶流スルヲ認メン故ニ此白色銀繃帶料ハ直チニ之ニ微有機體ノ發生ニ對スル試驗物トシテ用ユルニ足ルベシ此狀況ハ灰白色ノ銀「ガーゼ」ニ於テハ認識シ難シトス

レフエルチン及チールシユ氏ノ植皮術ニ於テハクレイデ氏ハ白色ノ銀繃帶料ヲ以テ直チニ創傷ヲ被包スルヲ賞用セリ是レ創面ヲ乾燥セシメ分泌物ヲ鬱滯セス防腐的ニ作用シ數日間放置スルヲ得レバナリ

鼻腔、咽頭、胸腔、胃腸、膀胱、尿道ノ洗滌及殺菌法料ニハクレイデ氏ハ一分ト千分乃至一萬分ノ者ヲ用ヒタリ然ルニ千倍乃至三千五百倍ノ液ハ「イトロール」ヲ以テ調製スルヲ得サルカ故ニ氏ハ之ニ「アクトール」ヲ用ヒタリ則チ之ヲ五十倍(一ト五〇)ニ溶解シテ褐色ニ貯ヘ置キ必要ニ臨ミ沸湯ヲ以テ稀釋スルナリ又氏ハ銀鹽ノ弱溶液ハ單ニ少許(一撮ミ)ノ「イトロール」ヲ水ニ投シ數分間其中ニ溶解セシメテ製セリ

瘻管、深キ空洞創及子宮內膜炎ニ挿入スルニハクレイデ氏ハ「イトロール」小杆ヲ用ヒタリ

イトロール

○「イトロール」二、五 白蠟一、〇 柯々阿酪九、〇

右各杆二、四仙迷ノ長サト約〇、四ノ重量アルモノ三十個トス

同氏ハ腐敗性中耳化膿ニ於テ「イトロール」丸ヲ製シテ挿入シ驚クベキ速效ヲ得タリ

○「イトロール」一、五 白礬土四、五

右爲三十九(一回量〇、〇五)

同氏ハ左法ニ從ヒテ絹絲、腸腺及麻絲ヲ滅菌セリ腸腺ハ一%ノ「アクトール」液ヲ容レタル褐色硝子器ニ於テ疎解シテ浸シ此器内ニ八日間放置シ次ニ無色硝子器内ノ液中ニ腸腺ヲ浸シ光線ニ遇ハシメタルニ此際銀ハ黒褐色ニ析出セリ二十四時間ノ後此兩器ヨリ腸腺ヲ採出シ水ノ復タ酪乳様ヲ呈セザルニ至ルマデ洗滌シ次ニ之ヲ稀酒精中ニ貯ヘ或ハ乾燥シテ貯ヘ供用ス

絹絲及麻絲ハ第一器ニ於テハ八日間、第二ノ無色器ニ於テ二日間放置シ次ニ「アクトール」液ヲ傾瀉シ尙一回此處置ヲ反覆スベシ銀ハ腸腺、絹絲及麻絲ノ堅牢性ヲ害セズクレーデ氏ハ護謨排膿管ヲモ鍍銀セリ則チ銀ハ其表面ニ附著スルノミナラス其内部ニモ附著セリクレーデ氏ハ襯衣ヨリ銀斑ヲ除去スルカ爲メニハ左ノ三法ヲ行ヘリ蓋シ藏化加里ハ有效ナレモ危険ノ劑ナレバナリ

(一) 清洗スヘキ物品ヲ五分間昇汞食鹽溶液ニ浸シ二三回常水ヲ以テ洗滌セリ(例之、手巾ハ食鹽二五、〇昇汞一〇、〇ノ液或ハ一%昇汞ノ酒精溶液一〇〇、〇ヲ以テス)

銀斑ヲ襯衣ヨリ去ル法

(二) 格魯兒安母紐誤溶液(一分ト五分ノ者)ヲ調製シ其溶液黄色乃至褐色ヲ呈スルニ至ルマテ沃度丁幾ヲ注加ス此溶液ヲ五分間斑點上ニ感作セシメ次ヲ約三百立方仙迷ノ水ヲ加ヘ振盪ス或ハ(イ)粗製亞硫酸曹達ノ結晶一二個或ハ(ロ)「チヲ」硫酸曹達結晶一二個或ハ(ハ)少許ノ確砂精ヲ加ヘテ手巾ヲ壓榨シ且漂泊ス褪色後尙黄色ヲ呈スルハ尙此處置ヲ反覆スベシ

(三) 次亞格魯兒酸曹達ヲ以テ強ク手巾ヲ濕シ五分ノ後「リーター」中ニ鹽酸五、〇ヲ含メル水ヲ以テ洗滌ス而シテ漂動及壓榨スルハ斑點消失ス

クレーデ氏ハ銀療法ニ於テ前段ニ述ヘタル原則ニ許多ノ作業ヲ行ハント欲シ良幸ノ療法ヲ報スルニ由リテ其根據ヲ定メントセリ

戰時ノ創傷療法

伯林軍醫學會ニ於テクレーデ氏カ「戰時ノ創傷療法」ニ就テ論述セシ所ハ殊ニ興味アリトス氏ハ軍陣外科學ニ向テハ無腐敗法ニアラス防腐法ヲ實行スヘキ者トセリ防腐藥ハ(一)無毒性ナルト(二)有效ノ者ナルト(三)動物組織ヲ害セサルト(四)其作用持續スルト(五)貯藏スベク且運搬シ易キトヲ要ス此諸要求ハクレーデ氏ガ三千人ニ實驗シテ主張シ得ルカ如ク「イトロール」「アクトール」及銀ヲ含孕セル縫合物ノ具フル所ナリ戰時ノ繃帶所ニ於テハ左品ヲモ携帶スル者タリ(一)非含孕性繃帶「ムル」、綿(二)「イトロール」ハ創面ノ散布末トス(三)「アクトール」及「アクトール」錠ハ無毒性強消毒性液ヲ製シテ大創面、胸腹腔等ノ洗注料、醫官ノ手及負傷者ノ身體ヲ洗滌及消毒スルニ用ユ(四)銀絹糸及銀腸線(五)昇汞錠ト

イトロール

ス是防腐性原溶液ヲ具フルニ適當ニノ光線ニ遇ヘハ忽チ分解スル銀鹽液ハ之ニ適セザレバナリ故ニ繃帶所ニ於テハ先ツ沸湯ニ由リテ諸器械ヲ消毒シ其他負傷部分ノ周傍ヲ石鹼ヲ以テ洗滌シ刷子ニテ清刷シ毛髪ヲ剃除ス次テ沸湯、昇汞、「アクトール」水ヲ以テ洗滌スベシ「アクトール」水ノ洗滌ハ創傷ヲ安靜トナスベキ創傷ニモ行フヲ得ベシ組織中ニ進入セル汚垢ハ其殆ント全ク解離シタル部分ノミ除去セラルル大手術ハ可及的第二期ニ施行セラルベシ即チ創傷ノ乾燥シタル後之ニ薄ク「イトロール」ヲ散布シ「ムル」ヲ被ヒ其上ニ綿ヲ被ヒテ輕ク壓迫繃帶ヲ施スベシ若シ夫レ甚シク挫滅セラレ或ハ已ニ發炎シタル部分ニ於テハ「イトロール」ヲ散布シタル後數日ブリスニツツ氏ノ巻法ヲ行ヒ次ニ乾燥繃帶ニ移ルベシ創中ニ微菌進入シタルキハ之ヲ器械的ニ除クヲ能ハサルカ故ニ唯開放創ヲ消毒シ身體ノ局部ニ繃帶及副木ヲ施シ可及的運搬時ニ被害ナカラシムベシ深達シタル微菌ハ「イトロール」又ハ他ノ防腐藥ニ由リテモ之ヲ除去スル能ハス然ルキハ膿瘍ヲ誘起スルヲ以テ其處置ヲ要ス「イトロール」ヲ以テ處置シタル創面ハ忽チ清潔トナリ無腐敗性ニ處置シタル創傷ノ如ク藥液性分泌ヲ呈スヘシ濕潤繃帶ハ直ニ交換スルヲ要セス是レ創傷防護セラルレバナリ或ハ唯其上層部ノミヲ交換スベシ兵卒ノ携フル繃帶小包ニハクレーデ氏ノ銀「ガーゼ」ヲ賞用ス蓋シ兵卒ハ一小瓶中ノ「イトロール」ヲ自ラ使用スル能ハザレバナリクレーデ氏ノ賞用セル戰時繃帶療法ハ單簡ナリトス何トナレバ散末及錠劑ノミニノ毫モ液劑ヲ携フルニ及ハサレバナリ且其價モ甚廉ナリ即チ少量ノ藥劑ヲ用ユルニ過キス

銀「ガーゼ」
ノ細菌學的
試驗

ツアオンチヨコウスキー氏ガ銀「ガーゼ」ノ作用ニ就テ細菌學的試驗ヲ行ヒシ所ニ由レバ此品ハ毫モ殺菌ノ性ヲ具ヘズ唯一時細菌ノ發育力ヲ減弱スルノミナリト云ヒクレーデ氏ノ殺菌法ハ全ク殺菌ニアラスト「アクトール」ノ防腐力ハクレーデ氏ノ報告ヨリハ微弱ニシテ千倍ノ水溶液ヲ半時間感應セシムルモ葡萄球菌ノ發育力ヲ妨害スル能ハズト云ヘリ
エス、コーン氏ハ此件ヲ試驗的ニ説明セント欲シ夫ノ硝酸銀ヲ以テ生セル腐蝕痂皮(及壞疽痂)ハ無腐敗性創傷ヲシテ病原菌(雞虎列拉菌及脾脫疽菌)ノ感染ヲ免レシムルヤヲ檢シタリ氏ハ硝酸銀痂ハ之ト接觸スル微菌ヲ忽チ撲滅シ以テ動物ヲシテ全ク感染ヲ防禦セシムル者タルヲ發見セリ同氏ハ之ニ由リテクレーデ氏ノ試驗ノ確實ナルヲ認定シタリキ而シテ「イトロール」及灰白銀繃帶料ヲ用ヒテ實地治療上ニ良成績ヲ收メタリシ
ヨット、エル、バイエル氏ハツアオンチヨコウスキー氏ノ試驗成績ノ缺點アルヲ駁シ其所說ノ當ラサルヲ認メタリ氏ハ銀「ガーゼ」ハ殺菌性ノ繃帶料トナスベキ者ニシテ長ク銀ノ繃帶内ニ存スルキハ益、然リ而シテ創傷ヲ久シク無菌ナラシメント欲セバ頻々「ガーゼ」ヲ交換シ若クハ頻々「イトロール」末ヲ散布セサル可ラスト
ブルムベルグ氏ハ動物體ノ組織中ニ於ケル消毒力ヲ試驗シタルニ許多ノ銀鹽ハ大ニ昇汞ニ優ル消毒力ヲ組織中ニ發展スルヲ發見シタリキ
エル、リーグネル氏ニ由レバ胃腸防腐藥トシテハ「アクトール」及クレーデ氏銀ハ效力微弱ナリトセリ

「イトロール」
方開業家ニ
有用ナル事

指及手ノ負
傷ニ於ケル
效用

「イトロール」
方開業家ニ
有用ナル事
足レリトセリ

「イトロール」ノ殊ニ新ナル指及手ノ負傷ノ療法ニ效アルヲ見タリ即チ先ツ薄ク「イトロール」末ヲ散布シ次ニ乾燥「ガーゼ」繃帯ヲ施スナリ若シ創傷甚シク挫滅シ且清潔トナレルキノミ濕性繃帯ヲ貼シ日々之ヲ交換スベシ肢節ニ副木ヲ施セル後ハ唯安靜トナシ爾後ノ経過ヲ待ツベシ則チ此「イトロール」療法ニ由リテ其経過ニ全ク反應ナキヲ得而シ乾性繃帯ハ反應ノ強弱ニ從ヒテ五日乃至十日放置スベク濕性繃帯ハ毎日交換スベシ此場合ニハ常ニ手浴ヲ行ヒ二日ヲ經テ病毒感染ノ虞ナキキハ乾性繃帯ニ代ユベシ幸ニ傳染ヲ呈セサルキハ第一週ノ後ニ尙無腐敗性手術部ニ於テ或必要ノ手術ヲ行フヲ得ベシ骨及髓損傷シタルキハ久シク持續シテ副木ヲ貼スルヲ要ス創面良肉芽ヲ以テ被ハル、キハ速ニ有力ノ按摩或ハ治療體操ヲ始ムベシ

骨病及關節
病ニ於ケル
效用

東京帝國醫科大學教師スクリバ氏ハ明治卅五年ノ外科學會ニ報シテ曰ク骨病殊ニ結核性關節病ニ「イトロール」ノ振盪合劑(一分水十五分或ハ二十分ノ者)ヲ關節腔内ニ注射シタルニ骨ハ硬固トナリ治癒スルヲ見タリ氏カ此療法ニ由リテ治效ヲ得タル患者少シトセサレモ就中、良成績アリシハ肘關節三名、足關節三名、腕關節六名、肋骨骨瘍一名、胸腺一名等ナリキナスー氏ハ齒科及外科ニクレーデ氏銀鹽ヲ用ヒタルニ外科ニ貴重ナル效力アルヲ認メタリ

ボスタムスキー氏ハクレーデ氏創傷療法ニ從ヒテクレーデ氏ノ試驗ヲ反覆シ銀「ガーゼ」及銀線ノ殺菌作用アルヲ確定シタリ則チ氏ハ犬ニ「アクトール」〇、〇〇一〇、〇四ヲ一乃至四立方仙迷ノ水ニ溶シ及「イトロール」〇、〇〇五—〇、〇二ヲ二乃至四十立方仙迷ノ水ニ溶シテ靜脈内ニ注入シタルニ不快ノ副作用アラザリキ同氏ハ人體ニ就テ癰疽ノ一例ニ「アクトール」ノ靜脈内注入ヲ試行シ亦梅毒ニモ行ヘリ氏ハ戰時兵卒ニ携帶セシムル繃帯小包ニ代ヘテクレーデ氏銀「ガーゼ」ヲ賞用シタリ而シテ同氏ハ財政上ヨリノ殊ニ繃帯料ニ於テハ殺菌藥ノ價值ヲ節約スルト屢、第一期治癒ヲ營ムト入院時間短少ナルトノ故ニ銀療法ヲ利アリトス

ベネール氏ハ六十八名ノ患者ニクレーデ氏ノ銀療法ヲ行ヒシ所ニ由レバ「イトロール」ハ確實且持續セル效アル殺菌劑ナルト之ヲ粉末、軟膏及水溶液トナシテ應用易シキト化膿速ニ減少シ小創ニ於テハ防腐性痂皮ヲ生シ且分泌速ニ減退スルニ由リテ乾燥セシムル者タルヲ證セリ本品ハ創傷ヲ刺戟セズ濕疹或ハ紅斑ハ決シテ發セズ概シテ健部并ニ患部モ善ク「イトロール」ニ堪ユル所ナリ肉芽ノ形成及結核ヲ促進ス「イトロール」ハ大創面ニモ少量ニ足ルカ故ニ廉價ナリトス外傷ニ於テハ容易ニ且速ニ之ヲ用ヒ得ル者ニノ神速ニ殺菌ノ作用ヲ發展スル者タリ

「イトロール」
療法ノ
缺點

「イトロール」
療法ノ不利ナル點ハ(一)視衣ヲ褐染スルト(二)消臭力緩徐ナルト(三)格魯兒銀ヲ生スルカ爲メ蒸餾水ニ代ヘテ常水ヲ以テ製スルヨリ來ル溷濁ア

イトロール

一

銀及銀糊帶
料ノ防腐作
用ノ試験

淋毒性子宮
内膜炎ニ於
ケル效用

鼻病耳病ニ
於ケル效用

リ之ニ由リテ銀作用ノ一部ヲ失フト(四)已ニ分解作用ノ増進シタルキニハ消毒力緩徐ナルト(五)光線ニ遇ヘハ溶液ノ褐變スルトニ在リ

ボゲル氏ハ銀及銀糊帶料ノ防腐作用ニ就テ脾脫疽ノ芽胞絲、金色化膿葡萄狀球菌、綠膿菌、脾脫疽血液、窒扶斯菌、「コンマ」菌ヲ以テ試験セシニ窒扶斯菌「コンマ」菌、綠膿菌ハ「イトロール」二分水三千八百分ノ者ニ由リテ忽チ運動ヲ失フ又脾脫疽及葡萄狀球菌ハ三萬倍ノ「イトロール」ヲ含メル培養基上ニハ復タ發育セザリキ「イトロール」粉末ヲ有毒力性ノ脾脫疽培養ニ混シタル者ヲ家兔ニ接種シタルニ唯微少ノ局所的變化ヲ起セシノミナリシ

エル、クリーン氏ハ「アクトール」「イトロール」及溶解性銀ヲ以テ卓越ナル防腐藥及淋疾藥トナセリ溶解性銀桿ハ淋毒性子宮内膜炎ニ於テ偉效ヲ認メタリ即チ之ヲ乳糖、亞拉比亞護膜、蛋白及屈利設林ヲ二%ノ溶解性銀ニ加ヘテ桿條トナシマルチン氏子宮注射器ニ似タル軟膏送入管ヲ以テ挿入シタリ而シテ送入管ハノイグバウエル氏ノ子宮鏡ニ由リテ子宮口ニ接シ小桿條ハ困難ナクノ頸管ヲ經テ子宮腔ニ送入セラル而シテ送入管ヲ除去シタル後綿球ヲ子宮腔部ニ壓著スベシ此處置ハ多クハ全ク痛ナシ子宮内口ヲ通過スルキノ不快ノ感覺ヲ訴フルコアリ此法ハ炎症アルモ禁忌ニアラズ

チコンナニー氏ハ鼻及耳ノ外科ニ於テハ尋常ノ防腐藥ヲ廢シテ「イトロール」「アクトール」并ニ銀「ガーゼ」ノミヲ用ヒ而シテ「イトロール」ハ粉末トナシ「アクトール」一分ヲ五十一百一三百一十分ノ溶液トナシテ用ヒタリ九名ノ偏側慢性中耳化膿ニ於テハ十六日乃至二十五日

ニシテ治癒シ七名ノ兩側中耳化膿(一ハ慢性一ハ急性)ハ同時日ニシテ治ニ赴キ十六名ノ種々ノ手術(内二名ハ乳頭突起ノ切開術)ニ於テハ銀糊帶ニ由リテ常ニ無熱ノ良經過ヲ取レリ同氏ハ銀鹽ヲ賞讃シテ曰ク速ニ肉芽ヲ發生スルモ毫モ創傷ニ於テ増生ヲ來タサズ「アクトール」液ニ貯ヘタル器械ハ使用前「ガーゼ」ト共ニ更ニ清洗シ防腐性ヲ保チ其效力ヲ失ハスト

プロエバウム氏モ鼻茸ノ手術後ニ「イトロール」末ヲ散布シ次ニ尙灰白銀糊帶ヲ貼セリ分裂菌ノ竄入ニ對シ「イトロール」ハ從來使用シタル藥劑ヨリモ善ク防護スルガ如シ

エム、ブレスゲン氏ハ燒灼器ヲ以テ治療シタル鼻病ノ後療法トシテ鼻道ニ接著スヘキ長キ「イトロール」「ガーゼ」或ハ銀糊帶料ノ一條ヲ挿置シ後チ尙少許ノ「イトロール」末ヲ散布スルコアリ此「ガーゼ」或ハ銀糊帶ノ長條ハ其患部ニ固著セス復タ毫モ血液ノ附著ヲ認メサルニ至ルマテ六日乃至八日間ハ日々交換セサル可ラス又同氏ハ狹隘ノ部分ニ於テ(燒灼器ヲ用ヒ難キ狹隘部)格魯謨酸ヲ用ヒタル後橋狀片ヲ生スルヲ防クカ爲メニ「イトロール」ガ「ゼ」或ハ銀糊帶料ヲ挿置シテ良效ヲ得タリ

ヲ、メルグル氏ハ化膿ヲ來タス眼病患者百名以上ノ實驗ニ基キテ曰ク純粹ノ「イトロール」ハ初生兒眼膿漏ニ於テハ甘朮ノ如ク粉末トナシ眼内ニ散布スルキハ從來ノ諸劑ニ優レリ氏ハ此際兼テ氷卷法ヲ施シ二千倍「イトロール」溶液ヲ以テ頻ニ洗滌セリ然ルキハ化膿ハ時トメ二日ノ後閉止シ決シテ八日以上ニ及フコナシ急性「トラホーム」ニ於テハ三乃至四回「イトロール」末ヲ散布シタル後化膿閉止セシガ四週間銀療法ヲ行ヒシ後モ未タ銀病并ニ角膜

化膿性眼病
ニ於ケル效用

イトロール

ニ不快ノ作用ヲ認メザリキニ名ノ淋毒性眼膿漏ニ於テハ「イトロール」ノ散布後(水菴法及昇汞水洗滌ト共ニ)化膿ハ三日乃至四日ニ至ク閉止シタリ角膜潰瘍ハ一回「イトロール」ヲ散布シタル後已ニ清潔トナリシコトアレモ許多ノ患者ハ角膜ニ「イトロール」ヲ用ユルニ堪ヘズ而シテ「イトロール」ハ暫時灼痛ヲ起セトモ「アクトール」ハ時トシテ半時ニ及ブコトアリドウレツキ氏ハ初生兒眼膿漏ニ一日一回純「イトロール」ヲ結膜囊内ニ散布シタルニ角膜ノ混濁ヲ貽サズ三週内ニ治愈シタリ

「トラホーム」ニ於ケル
効用

エル、ネナドウイクス氏ハ「トラホーム」患者百二十名ヲ「イトロール」ヲ以テ治療シタリシニ皆凡テ其奏效確實ナリキ其結膜炎ハ癢痕ヲ貽サスシテ治愈セリ療法ノ時間ハ平均四ヶ月ナリ而シテ療法ハ毎日行ハサル可ラズ「バンヌス」ニハ「イトロール」効ナシ氏ハ急性病ニ「イトロール」三、〇一六、〇水二〇〇、〇ノ振盪液二三滴ヲ用ヒシガ其後氏ハ專賣點眼瓶ヲ以テ「イトロール」〇、三〇〇、〇ノ振盪液ニ三四滴ノ安母尼亞ヲ加ヘテ其二三滴ヲ點眼セリ角膜ハ此兩液ニ對シテ知覺過敏ナルガ故ニ可及的之ヲ結膜ト接觸スルノミニ止メシム可シ唯結膜顆粒狀或ハ瀰蔓性ニ甚シク充血シタルキニハ「イトロール」ヲ粉末トシテ毛筆ヲ以テ散布セリ粉末ノ散布後一時半ノ間ハ流涙及灼痛ヲ來タセリ氏ハ他ノ藥劑殊ニ昇汞ニ比シテ「イトロール」ハ左ノ長所アリト云ヘリ(一)奏效確實ナルト(二)健態ニ恢復スルト(三)溶液ヲ用ユルキハ疼痛ナキト(四)藥品ノ取扱及用法簡易ナルト(五)家族ヲシテ療法ヲ實行セシメ得ルト(六)時間ノ消費少許ナルト(七)毎日療法ヲ行フノ間感染性ヲ減少スルトニ在

リ

エル、ヒルベルト氏モ亦「イトロール」ニ由リテ「トラホーム」ヲ治療シ良結果ヲ收メタレモ氏ハ豫メ此際クナップ氏鉗子ヲ用ヒタル後チ一二時間水ヲ以テ冷却セリ鉗子ノ使用後結膜頗ル平滑トナリ殆ト平素ノ如クナレモ翌日ニ至レバ尙箇々ノ遺殘スル小結節ヲ呈ス氏ハ之ニ由リテ毎二三週間二三日一回宛「イトロール」〇、五水一〇〇〇、〇ノ溶液ニ浸セル綿球ヲ以テ結膜ヲ摩擦シ結節ヲ除去シタリ氏ハ此療法ヲ行フ時間短少ナルト且結膜ノ摩擦ハ一時間十五乃至二十回行フニ由リテ上記療法ノ佳效アルヲ見タリ

エンゲルハルト氏ハ千二百七十六名ノ眼病患者ニ就テ其大部分ハ「イトロール」ヲ以テ處置セシガ單純結膜炎、濾胞性結膜炎、顆粒性結膜炎、初生兒眼膿漏ノ患者二百名ニ毛筆ヲ以テ「イトロール」ヲ散布セリ此法ノ效ハ常ニ結膜炎ノ急性期頗ル速ニ經過シ去ルニ在リ急性期ノ經過後「イトロール」ハ從來使用セル收斂性及消毒性藥劑、硝酸銀、硫酸亞鉛、昇汞ニ勝レモ眞ニ優ル者ニアラス

初生兒眼膿漏
ニ於ケル効用

初生兒ノ眼膿漏ニ於テハ一眼ハ「イトロール」他眼ハ二%硝酸銀液ヲ以テ治療シタル試檢ヲ興味アリトス此場合ニ於テハ「イトロール」ヲ以テ治療シタル眼目ノ分泌量ハ他ノ硝酸銀ヲ以テ療セル眼目ノヨリモ速ニ減退スルコトヲ確定シタリ然レモ兩眼同狀況即チ多少慢性狀況ニ陥リシヤ直チニ「イトロール」作用ノ毫モ優レルヲ見サリキ然ルキハ復タ防腐藥ニ非ラ

イトロール

角膜潰瘍及之ニ前房蓄膿ヲ兼スル者ニ於テモ「イトロール」ノ散布ハ著明ノ作用アル薬剤トナスニ足レリ則チ「イトロール」ノ散布後約十二時ニ増多セル分泌忽チ閉止シ潰瘍ハ駸々トノ蔓延スルノ傾向ヲ呈セズ二十四時乃至四十八時ノ後ハ眼目ノ狀況大ニ恢復シ潰瘍ハ清潔トナリ限局セラレ角膜周圍ノ充血減退シタリキ若シ夫レ潰瘍甚大ナラズノ殆ト全角膜面ヲ侵サハリシキハ虹彩切除術ヲ施シテ眼目ヲシテ再ヒ使用スヘキ視力ヲ得セシムル希望ヲ屬スルヲ得ベシ

要スルニ此諸試験ヨリ「イトロール」ハ著目スヘキ有力ノ防腐藥タルヲ證スベク眼科療法上ニ於ケル主效ハ持續的及深達的作用ニ在リエンゲルハルド氏ハ各種ノ角膜潰瘍ノ療法上「イトロール」ハ卓效アル薬剤トナセリ

淋疾ノ療法ニ於テモ「イトロール」ハ奏效アリ即チウエルレル氏ハ五十名ノ急性淋ノ多量ノ淋毒球菌アル患者ニ之ヲ用ヒテ效ヲ得タリ先ツ淋患者ニ弱注射「イトロール」〇、〇二五水二〇〇、〇ノ液ヲ黒瓶ニ容レ一日四回尿道注射スシテ此溶液ノ使用後液ヲ濃厚トナシ「イトロール」〇、〇三二〇、〇四一〇、〇五水二〇〇、〇(即チ一分ト八千乃至四千分)ノ者ヲ用ユベシ患者ハ注射前ニ排尿シ次ニ徐ロニ初メハ半筒後チニハ全筒ヲ注射シ藥液ヲ數分間尿道ニ留ム可シ「イトロール」溶液ハ有機物ト觸接スルキハ容易ニ分解スルカ故ニ注射筒ハ温湯ニ由リテ善ク清潔トナシ注射ニ用ユル分量ヲ清潔ノ小器ニ盛ラサル可ラス通常ウエルレル氏ハ「イトロール」〇、二五水一〇〇〇、〇ノ原液ヲ製シ必要時ニ温蒸餾水ヲ以テ便宜稀

釋シタリ而シテ注射時及注射後患者毫モ灼熱、刺衝、疼痛ヲ訴ヘス決シテ浮腫性腫脹、血尿或ハ尿閉ヲ發セサリキ氏ハ淋疾ヲ起セル後速ニ此注射ヲ始ムルハ淋毒球菌ノ粘膜ノ深部ニ侵入スルヲ防止スルヲ以テ本病ノ經過ニ緊要ノ者ナルヲ證セリ「イトロール」ヲ以テ處置シタル五十名ノ淋患者ニ於テハ合併症ヲ發セザリキ氏ハ其經驗ヲ概括シテ曰ク「イトロール」ハ(一)強キ淋毒球菌ヲ殺滅スル作用アルト(二)其溶液ハ能ク尿道粘膜ニ堪ヘ刺戟狀并ニ炎症ノ亢進ヲ來タサズ(三)粘膜ヲ損傷スルコトナクノ深達作用ヲ具フル者ト爲セリ同氏ハ女子尿道ノ淋疾ニモ亦上記ノ方法ヲ行ヒテ速效ヲ奏シタリキ

同氏ハ其一年半ノ間百名以上ノ淋患者ヲ治療シタル後「イトロール」ノ良效アル實驗ヲ確定シ尿道注射ノ方法ニ就テ左ノ法則ヲ設定シタリ

- (一)「イトロール」ノ尿道注射ハ可能的早期ニ始ムベキヲ(二)注射ハ二十四時間内ニ四乃至五回行フベキヲ(三)前尿道ノ淋疾ニ於テハ注射筒ニ六乃至八立方仙迷ヲ容レテ注射スベキヲ(四)注射液ハ豫メ尿道ヲ清洗シタル後注射液ノ半筒ヲ十分間尿道内ニ留メ置クヘキコトヲ(五)注射液ハ初メハ甚弱液(〇、〇二水二〇〇、〇)次ニ炎症ノ緩解スルニ及ヒ漸次濃厚液(一分ト二千八百分)ニ移ルヘキヲ(六)注射液ハ微温トナシ用ユベキヲ是ナリ

ドウレツキー氏モ淋疾ニ一日三回「イトロール」ノ温溶液(〇、〇一飽水二〇〇、〇)ヲ用ヒ炎症緩解シタル後増量シテ濃飽和液即チ一分ト二千八百分或ハ〇、〇二五ト二百分ノ液ヲ注射シタルニ三週乃至四週内ニ治癒ニ就ケリ又「イトロール」ノ淋疾ニ良效アルハダ、ペロニ

梅毒性潰瘍
ニ對スル效
用

一氏及グ、ピカルジー氏モ確定セル所ナリ
其他ウエルレル氏ハ四十名ノ梅毒性潰瘍ニ「イトロール」療法ヲ行ヒシニ「イトロール」ハ殺
菌性、持續的及深達的作用アルカ爲メニ梅毒性潰瘍ノ治療ヲ催ス者ナルヲ證シタリ即チ本
品ハ漸徐ニ持續的ナル消毒及防腐作用アルカ爲メニ暫時ニ組織ノ損壞作用ヲ鎮止シ感
染性ノ下疳潰瘍ヲ清潔ナル良性健全ノ創面ニ變セシメ正常ノ組織ヲ損害スルコトナシ此「イ
トロール」療法ハ眞ニ無臭ナルト疼痛刺戟微少ナルト全ク無刺戟性ナルト極テ少量ヲ以テ
足レルト優レリトス而シテ化膿性潰瘍面ヲ刺戟セサルト化膿性及有毒性創傷分泌液ノ鬱滯
ヲ豫防スルトニ由リテ軟下疳ノ經過中ニ續發スル鼠蹊腺炎(便毒)ヲ豫防スルニ用ユルハ蓋
シ適當ト謂フベシ

齒科ニ於ケ
ル效用

ハ、コッホ氏ハ約五十名ノ不潔ノ創傷、蜂窠織炎、瘰癧、癰疽、膿瘍、潰瘍ニクレーデ氏ノ
法ニ從ヒ「イトロール」及銀「ガーゼ」ヲ用ヒテ治療シクレーデ氏ノ報告ヲ確定是認シタリ
齒科ニ於テモエム、ヒルレ氏ハ約百例ニ於テクレーデ氏銀鹽ヲ用ヒテ頗ル満足スヘキ結果
ヲ收メタリ遺殘シタル齒根ノ療法ニ於テハ氏ハ先ツ鑽錐器ヲ以テ髓腔ヲ開キ肉芽狀ニ陷レ
ル髓腔アルキハ微細ノ消息子ヲ以テ清潔トナシ次ニ新製ノ「アクトール」溶液(二千倍)ヲ以
テ數回髓腔内ニ注入ス而シテ初メテ今ヤ護膜ヲ其部ニ接著シテ綿ヲ用ヒテ二次ニ可及的善ク護
膜球ヲ以テ溫氣ヲ吹キ全腔ヲ乾燥セシムベシ然ル後チハ全腔ニ吹粉器ニ充タセル「イト
ロール」ヲ散布シ其粉末ハ強ク吹入スベシ氏ハ之ヲ以テ目的ヲ達セサルキハ「イトロール」

獸醫治療的
ノ效用

末中ニ没セル薄キ消息子ヲ以テ藥粉ヲ進入セシメタリ新ニ殺滅シタル髓腔ニ於テハ多クハ
「イトロール」ノ散布後ハ齒腔ニ亞鉛或ハ「グダベルカ」ヲ充填スベシ化膿シタル髓腔ニ於
テハ之ヲ充填スルニ前チ二三回「イトロール」或ハ「アクトール」ヲ散布スベシ多クハ銀ノ綿
球送入後殆ント全ク腐敗臭ヲモ復タ認メザルハ著明ノ事ニシテ亦諸般ノ刺戟症狀モ現ハレサ
ル者ナリ
ア、ソイドマン氏ハ獸醫學上其敗血性疾患ニ「アクトール」及「イトロール」ノ銀療法ヲ行ヒ
良效ヲ得タリ而シテ家畜主ハ「イトロール」一分ニ乳糖九分ヲ加ヘタルモノヲ防腐藥トシ貯フ
ルヲ可トス近時同氏ハ犬ノ腺腫脹及頑固ノ耳炎ニクレーデ氏軟膏ヲ塗擦シ甚良效ヲ得タリ
此際ニ於テモ耳ノ局所的奏效ハ僅少ニシテ一般ノ遠達作用ニ由リテ奏效シタル者ト爲スベシ

○「イトロフォルム」 Ichthoforn.

本品ハ黑褐色無形殆ト無臭味ノ粉末ニシテ水ニ溶ケスアウフレヒト氏ハ全ク無毒ニシテ殺菌作
用ニ於テハ沃度仿「ヨドール」「デルマトール」ニ少シク優レル者トナセリ本品ハシヤフエ
ル、ゴルトマン、ボラッコ氏等ハ腸防腐藥トシテ甚シキ腸内腐敗機轉、腸内容物ノ鬱滯、吐
糞症、腸筋層弛緩ヲ兼ヌル瀰蔓性腹膜炎、結核性腸炎ニ用ヒタリシヤフエル氏ニ由レバ原發
性結核性下痢ハ頗ル速ニ持續的ニ消散セリト

用量ハ一回量〇、五—二、〇ニシテ一日量六、〇—八、〇トス小兒ニハ一日三回〇、二五—〇、五
ヲ投ス

イトロフォルム

○「イガツツナル」(Basal)

本品ハ「フオルムアルデヒット」トトリヲキシメチーレン」及未タ詳ナラサル一種ノ沃度質トノ粉末狀結合物ナリ本品ハ肺結核ニ於テ蒸氣トナシセルウエロ氏カ構造シタル裝置ヲ以テ吸入セシメラル要スルニ此裝置ハ水鐘ト其上ニ乗セタル廣キ葉鐵皿ト其下ニ置ケル酒精燈トヨリ成ル鐵皿ノ中央ニ一孔アリテ穿通シタル「カウトシウツク」製栓子ヲ裝ス此栓子ニ於テ水蒸氣ヲ攝取スルカ爲メニ約一「メートル」ノ長サアル硝子管ヲ嵌入シ以テ冷却裝置トナス而シテ之ヲ使用スルニハ水鐘ノ三分ニマテ水ヲ充タシ其煮沸スルヤ直チニ硝子管ヲ高昇セシメ今ヤ水鐘下ニアル酒精燈燭ヲ調節シテ以テ水ヲ管ヨリ溢出セシメズシテ其用ヲ終ルニ先タチ已ニ放冷シテ再ヒ水鐘内ニ復歸ス是ヲ以テセルウエロ氏ハ水ヲ隨意ニ久シク煮沸シ置クベク水鐘上ノ鐵皿ニモ高溫ヲ保タシムルヲ得ベシト此高溫ニ由テ「イガツツナル」ハ一定量ニ於テ飛散セラル本品ヲ飛散セシムルニハ鐵皿ノ溫度ヲ以テ足レリ而シテ此蒸氣ハ室内ニ充滿シ來ルヲ以テ患者ハ之ヲ吸入スルナリ

八十立方「メートル」ノ室内ニ於テハ二、〇ヲ以テ始メ漸次二九、〇ニ増量セラル吸入時間ハ此蒸氣ヲ以テ空氣ノ甚シク飽和セラレタルキハ二時乃至四時間ニ滿ルヲ得ル者トス

此療法ヲ行フキハ第一日ニ於テハ輕キ刺戟狀ヲ發スルヲアレモ療法ノ持長ヲ妨ケズ患者ハ數時間「イガツツナル」蒸氣ヲ吸入シ且安眠スルヲ得ベシ健康人ノ結膜及喉頭粘膜ハ此蒸氣ニ由リテ甚シク刺戟セラル、者トス

○「イングストール」(腸胃ノ防腐劑)

○「イヒトアルビン」(Ichthabin 「イヒチナルアルブミン」 「イヒチナル」蛋白)

性狀作用 本品ハ「イヒチナル」ト蛋白トノ化合物ニシテ微弱ノ臭味アル灰白褐色ノ粉末ヲナシ水及稀酸類ニ溶解セス「ペプシン」存スルキニモ亦然リ稀薄ノ亞兒加里及亞兒加里性液殊ニ膝液ノ在ルキハ漸次溶解ス本品ハ蛋白約六、五%ト「イヒチナル」四、〇トヲ含有ス

水ニ加ヘテ内用スルキハ溶解セスシテ胃ヲ通過シ腸ニ至リ腸液ニ接シ漸次ニ「イヒチナル」ト蛋白トニ分解ス之ニ由リテ營養ヲ亢盛シ便通ヲ調節シ腐敗ヲ制止スル等ノ「イヒチナル」ノ作用ヲ營ム

應用、用量

カルルースルーヘノ小兒科醫「ドクトル」ホムブルゲル氏ハ本品ヲ大ニ小兒科ニ使用シ實驗ヲ結論シテ曰ク小兒科ニ本品ヲ用ユルニ全ク無害ニシテ散劑トシテ用ユルニ殆ント味ナク内服セシムルニ毫モ困難ナシ濕疹ニ用ユレバ數日ニシテ獨リ外用劑ノ速ニ奏效セサル場合ニモ亦然リ通常ノ外用的藥品ト兼用スルトキハ乾性濕疹ノ治療ヲ促進ス

屢、衰弱性病患ニ併發スル小兒時ノ多發性癩腫ノ消散ヲ催ス又體力ヲ消耗スル病例之慢性肺炎、腺病、慢性腸加答兒ニ於テハ「イヒトアルビン」ヲ投スレバ食思ヲ佳良ナラシメ著シク體重ヲ増加ス故ニ本品ハ熱性病後食思缺乏及衰弱狀態ニ由リテ恢復期ヲ妨害スル者ニ賞用スベシ慢性腸加答兒ニハ本品良效アレモ急性及亞急性腸加答兒ニハ奏效甚微弱ナリ

「イヒチオール」ノ應用

性状 黒褐色、嬰兒狀ノ物質ニシテ燃土様ノ臭氣アリ、水ニ溶解スレバ暗褐色ノ混濁セル綠輝アル中性ノ液トナル等分ノ酒精及依的兒ノ混液中ニハ濃褐色ヲ以テ溶解シ「ペンツオール」ニモ亦然リ乾燥セル者ハ鹿褐色ノ引濕性ノ粉末トナル

應用 外用、ウシナ氏ニ從ヘハ、糠疹、及皮脂流溢症、生髮部ノ癰腫、丹毒、鬚瘡、第一度及第二度ノ火傷、鎮痛アリ濕疹、鱗屑、及痒疹等ニ賞用シタリ。○ラボウ氏ハ齒痛ニ「イヒチオール」三分嚙囉仿謨一分ノ液ヲ綿ニ浸シ用ヒタルニ頗ル鎮痛ノ效ヲ見タリ又凍瘡ニ「イヒチオール」及的列並底油等分ノ擦劑ヲ塗リ綿ヲ以テ被ヒシニ灼熱及痒痒忽チ消散セリト。○ヌスバウム氏ハ劇甚ノ痛風性疼痛ノ殆ント八時間持續シタル者ニ外用セシニ一分時ニシテ全ク消散スルヲ見、同氏ハ丹毒ニ用ヒテ其鏈鎖球菌ノ發育ヲ防止スルノ著效アリトナシ則チ患部ニ本品、華攝林等分ノ者ヲ塗擦シ其上ヲ撒里矢爾酸綿ヲ以テ被ヒ綿帶ヲ施セシニ其蔓延ヲ防止セリト云フ

外表炎症ニ於ケル應用

ローレンツ氏ハ「イヒチオール」硫酸安母尼亞ヲ外科療法ニ應用シ挫傷、火傷、凍傷、創傷、潰瘍、身體外表ノ諸炎、丹毒ニ供用セシガ其挫傷ニハ先、患肢ヲ溫湯及石鹼ニテ洗ヒテ石鹼ヲ拭乾セル後、其溫暖柔軟ナル皮膚ニ速ニ「イヒチオール」軟膏或ハ其溶液ヲ塗擦シ綿ヲ以テ全肢ヲ被フニ在リ輕度ノ火傷及凍傷ニハ一%「イヒチオール」華攝林軟膏ヲ用ヒ甚シキ火傷ニハ二乃至十%ノ水溶液ヲ塗布スルニ瞬間ハ疼痛増劇スルモ忽チ消散ス平坦ノ創傷及潰瘍ニハ弱溶液ヲ塗布シ或ハ同軟膏ヲ塗ルハ速ニ瘡痕ヲ結ブ

肛門裂瘡ニ於ケル應用

肛門裂瘡ニ於テハ「コカイン」ニテ不感性トナシタル裂瘡ニ稀釋セサル純「イヒチオール」ヲ卷綿子ニテ塗布ス初メハ毎日、暫クシテハ毎二日ニ行フ可シ塗布ノ爲メニ生スル灼熱ハ次第ニ上皮ヲ結フニ從ヒ輕減スルカ故ニハ古加乙涅塗布ハ通常初期ニ必要ナルノミ同時ニ正規糜爛様便通ニ注意ヲ加ヘサル可ラス大抵八日乃至十二日ニシテ治ス

癩病ニ於ケル應用

○「イヒチオール」ハウシナ氏ノ報告ニ由レハ癩病ノ療法ニ偉效アル者ニシテ其豫後ヲ大ニ佳良ナラシムル者ナリト則チ之ヲ外用及内用シ内用ハ○、五乃至一、〇ヲ用ヒ外用ハ三十三%乃至六十六%ノ軟膏トナシ結節上ニ塗擦シ兼ヌルニ「レゾルチン」等ヲ外用セリ

猩紅熱ニ於ケル應用

醫科大學第一醫院ニ於テ醫學士村田謙太郎氏ハウシナ氏ノ報告ニ從テ癩病患者ニ之ヲ試用セシニ結節癩ニ在テハ浸潤減退ノ其結節隨テ消散シ且眉毛モ少ク新生セリト云フ之ニ反シ神經癩ノ患者ニハ全ク奏效ヲ見サリシト蓋シ癩病ヲ全治スル能ハスト雖モ結節ヲ消散スルノ效アルハ確實ナルベシ是レ結節消散スルモ癩病固有ノ顔貌ハ依然ト存スレハナリ

猩紅熱ニ於テア、ザイベルト氏ハ五乃至十%ノ「イヒチオール」ヲ用ヒ「軟膏」ヲ六乃至十二時間全皮膚ニ塗擦セリ即チ皮膚ノ紅斑亦認ム可ラス全身ヲシテ褐色ヲ呈スルニ至ラシムベシ故ニ患者身體ノ大小ニ從ヒ此軟膏三十乃至九十瓦ヲ要ス此塗擦ハ少クモ半時間行フベシ此塗擦ノ目的ハ軟膏ヲ以テ身體ヲ被覆スルニ非シテ皮膚内ニ「イヒチオール」ヲ擦入シテ以テ毛細血管及淋巴管壁面ニ恐クハ占居セル微菌ト直接ニ接觸シ其生活機ヲ妨害スルニ在ルナリ同氏ハ五十六例ノ實驗ニ基キテ曰ク(一)初回塗擦後皮膚腫脹減退シ(二)痒痒忽チ緩解

イヒチオール

悪性膿疱ニ於ケル效用ニ

血管母斑ニ於ケル效用ニ

シ數回ノ塗擦後全ク消散シ(三)皮膚ノ皸裂、續發的ノ蜂窠膿炎及丹毒性皮炎モ決シテ發生セス(四)毫モ合併症ナキ諸症ニ於テハ體温半度乃至一度半下降シ(五)不安及不眠ハ常ニ輕快セリト云ヘリ又同氏ハ猩紅熱性鼻炎及咽頭炎ニハ每六時ニ「イヒチオール」液ヲ以テ洗滌セシニ暫時ニ治セリ

悪性膿疱ニ於テハ「イヒチオール」氏ハ先ツ小刀ニテ痂皮ヲ除ケル後瘡底ヲ燒灼器ニテ燒灼シ而シ其上ニ綿ヲ置キ繃帶ヲ施シタリ此繃帶ハ廿四時間内ニ一回若クハ尙良ナルハ二回交換シ唯二三日貼附ス然ルキハ乾痂ヲ生シテ脱落シタル後ハ二%硼酸軟膏ヲ貼スベシ同氏ハ十四例ニ之ヲ行ヒシニ頗ル著效アリ最重症モ亦治癒セリト故ニ本品ハ悪性膿疱ニハ最有效ノ藥劑ナリトセリ

陰門瘙痒ニハ本品ノ十五%軟膏或ハ十%水溶液ヲ用ユ殊ニ妊娠間ノ同症ニ宜シ

哺乳兒ノ速ニ蔓延スル血管母斑ニハウシナ氏ハ本品古魯胃謨(本品一分古魯胃謨九分)ヲ塗布セリ即チ一日二三回此液ヲ塗布スルキハ速ニ消散スレモ再發ヲ防止スルカ爲メニ消散後モ久時此塗布ヲ持長セサル可ラス

柳井貴三氏ハ十五倍ノ「イヒチオール」「グアヤコール」ノ坐藥ヲ腔口洗滌後鑷子ニテ夾ミ之ヲ子宮口ニ挿入固定シテ押ヘ大抵四五日ニ惡疽ニ偉效アリト(第一回聯合醫學會)

ドクトルエベルソン氏ハ「トラホーム」及角膜炎患ニ賞用セリ、氏ハ硫酸銅硝酸銀ニ比ス

肺結核ニ於ケル效用ニ

レバ疼痛少ナク效用速ナリ同品ハ鎮痛作用ト血管收縮作用アルカ故ニ效アリト用法ハ「イヒチオール」五十分縮水四十分屈利設林十分即チ五十%ノ液ヲ眼瞼結膜ニ塗布シ一分時ノ後純水ニテ洗フヘシ

ドクトルルチアニー氏ハ鎮痛、防腐、消炎作用アリトシ眼瞼炎、水泡性結膜炎、角膜炎、單純結膜炎、前房蓄膿性角膜炎ニ賞用セリ用法ハ一乃至十%ノ液ヲ洗眼科トナシ或ハ二、五乃至十%ノ華攝林軟膏トナシ用ユルニ在リ

内用、内臓ノ疾患則チ胃加答兒及肺加答兒又急性腎臟炎ニ用ヒ僂麻質斯ニハ毎日二回十%ノ「イヒチオール」華攝林ヲ其關節ニ塗布シ綿ヲ被フニ在リ

アストラハン氏ハ本品ヲ苦土ヲ以テ丸劑(一九中〇、一二ヲ含ム者一回三丸宛漸次增量二十九ニ至ル)トナシ肺結核二十一名ニ試用シ二人ハ完全ニ治シ奔馬性ノ者ハ毫モ輕快セス六人ハ體重増加シ五人ハ喀血止ミ十二人ハ盜汗減少七人ハ盜汗全ク止ミ十八人ハ自覺症輕快シ他覺症モ減少セリト報セリ

モストコフ氏ハ本品ヲ肺結核五十名ニ用ヒ結麗阿曹篤ト優劣ヲ爭フニ足ルト云ヘリ用法ハ本品ヲ等分ノ水ニ和シ其五滴乃至三十滴ヲ一日三回葡萄酒ニ加ヘ食後用ヒシム大量ヲ用ユルモ食慾ヲ害セス又胃腸ノ症狀ヲ起サス却テ食思増進シ輕症中等症ハ全身及局所症狀輕快スト云ヘリ

肺癆及氣管枝擴張ニ内用セリ則チウエルタイムベル氏ハモリツッ、コーン氏ノ提議ニ從ヒ偶

イヒチオール

氣管枝擴張
ニ於ケル效
用

然肺癆ニ本品ヲ用ヒタリ(即チ本品、縮水各五、〇ノ者一日三回一滴、二滴、五滴乃至十滴ヲ食後ニ投ス)之ニ由リ食慾亢進セリ本品ノ味ヲ嫌厭スル者ニハ每丸〇、一〇、二ヲ含メル丸劑トナシ一日二三回一乃至三丸或ハ「イヒチオール」加爾斐錠ヲ用ヒシムベシ(同條ヲ見ヨ)

シヤフエル氏モ肺癆及腐敗性氣管枝擴張ニ良效ヲ得タリ即チ同氏ハ純井水ニ等分ノ本品ヲ混和シ四日間毎日三回十五滴宛其後漸次増量毎日百八十滴ニ達ス之カ配味料ニハ燕麥漿或ハ溫乳ヲ用ユベシ又肝油ニ加フルモ可ナリ本品ノ味ヲ除クニハ服後稀薄ノ薄荷腦液ヲ以テ洗口スベシ年餘大量ヲ持長スルモ有害ノ副作用ナシ

腸室扶斯ニ於テソルト氏ハ大人ニ每丸本品〇、一ヲ含ム者毎日三丸乃至十二丸ヲ投シテ良效ヲ收メタリ或ハ本品縮水或ハ薄荷水各等分ノ者一日三回五滴乃至二十滴ヲ一盞ノ水ニ加ヘ與フ此ニ由リ體溫下降セサレモ自覺症及頭痛輕快ス

内用ニハ「イヒチオール」硫酸安母尼亞ヲ二歳以下ノ兒童ニ一日量二滴、成長セル兒及大人ニハ毎朝一回量五滴ヲ與ヘ許多ノ大人ニハ一日三回五乃至十滴(〇、七五—一、五)ニ増加スルヲ得可シ

外用ニハ十、十五、二十、二十五%ノ軟膏トナシ又「イヒチオール」綿或ハ「ガーゼ」等トナシ應用セラル坐藥(本品〇、三—〇、六)柯々阿酪二、〇—二、五トナシ慢性攝護腺炎ニ用ユ紙製「イヒチオール」膏ノ製法

佐藤英太郎氏ハ本品ヲ簡便ニ外用スルカ爲メニ紙製「イヒチオール」膏ナル者ヲ製セリ即チ單鉛硬膏六三、〇松脂一八、〇黃蠟九、〇「イヒチオール」アンモニア二〇、〇ヲ熔和シ美濃紙八枚ニ塗布シ用ニ望ミ適宜ニ切斷シテ外用ニ供ス其法松脂ヲ皿ニ採リ砂火上ニ熔融セシメ單鉛硬膏黃蠟ヲ順次ニ溶シ後チ重湯煎上ニ移シ混和物ノ凝固セサルヲ度トシ可及的低溫ニ保チテ「イヒチオール」ヲ加ヘ注意シテ攪拌シ微溫ヲ加ヘタル平板上ニ於テ篋ニラ紙片ニ塗布スルニ在リ

東京高等工業學校助教澤繁三郎氏ハ越後柏崎石油精製所ノ廢棄硫酸ヨリ「イヒチオール」ヲ發見シ其製造法、性状等ヲ東京醫學會雜誌第十五卷第二十一號ニ詳報セラレタリ此平澤氏「イヒチオール」ニ就テ永樂病院、樂山堂病院等ニテ試用セシニ其效「イヒチオール」ニ一致スト云ヘリ而シテ舶來品ヨリ價額低廉ナルハ有益ノ發見ト云フベシ同氏ハ同誌第十六卷第十三號ニ「イヒチオール」ハ單一ノ化合物ニ非ラスノ二種化合物ノ混合ナルヲ發見シテ詳報セラレタリ

處方

〇「イヒチオール」二〇、〇「ラノリン」六〇、〇 水三〇、〇

右爲軟膏(弱イヒチオール軟膏)

〇「イヒチオール」二〇、〇「ラノリン」三〇、〇 水一〇、〇

右爲軟膏(強イヒチオール軟膏)
(儂麻質斯等)

〇「イヒチオール」 水各二五、〇

右塗布料(丹毒、濕疹、癩腫、火傷)
〇「イヒチオール」二、〇 亞鉛華 膠

イヒチオール

- 各一〇、〇 水 屈利設林各一〇〇、〇
- 右外用(頑固ノ濕疹)
- 「イヒチオール」華攝林 各二〇、〇
- 右爲軟膏(丹毒)
- 「イヒチオール」一〇、〇 杜松實油
- 加里石鹼 各二〇、〇
- 右外用(鬚瘡)
- 「イヒチオール」的列並底油 各二〇、〇
- 右爲軟膏外用(凍瘡)
- 「イヒチオール」五、〇乃至二〇、〇
- ラノリン 五〇、〇
- 右塗擦料(皮膚諸病)
- 「嬰兒」イヒチオール」各一〇、〇
- 膠 二〇、〇 屈利設林 六〇、〇
- 右用ニ臨テ熱水ヲ加ヘ塗布ス(鱗屑疹)
- 「イヒチオール」一〇、〇 昇汞 一、〇
- 餛水 九〇、〇
- 右外用(狼瘡)
- 「イヒチオール」五五、〇 水製大黃
- 丁幾五〇、〇
- 右塗布料(小兒乾癬)
- 「イヒチオール」依的兒精 各一〇、〇
- 古魯胃談 二〇、〇
- 右四肢ノ丹毒ニ外用ス
- 「イヒチオール」〇、五 巴羅賓 三五、〇
- 右外用(創傷及潰瘍)
- 「イヒチオール」二〇、〇乃至五〇、〇
- 巴羅賓軟膏 一〇〇、〇
- 右塗布料(慢性關節癱瘓質斯)
- 「イヒチオール」一〇、〇 餛水二〇、〇
- 右一日二回乃至三回十五滴宛(瘰癧)

淋疾藥

○「イヒチオール」加爾叟謨 *Ichthyol-calcium*

本品ハ加爾叟謨(二、五%)「イヒチオール」硫酸(九七、五%)ノ化合物ニシテ無臭無味ノ粉末ナリ本品ハ各錠〇、一ノ者トナシ内用セシム特ニ結核性骨病ニ賞用セラル大人ニハ一日三乃至五錠ヲ投ス

○「イヒタルガン」 *Ichthargan* 溶解性「ナチヒドロカルプロ」硫酸銀

本品ハ灰白褐色無形無臭ノ粉末ニシテ銀三十%ヲ含ミ甚シク硫黄ヲ含メル(十五%ノ硫黄)有機體ト結合ス本品ハ水、屈利設林、稀酒精ニ溶解シ強酒精、依的兒、嘔囉仿謨ニ溶解セズ此水溶液ハ光線ニ遇ヘハ漸次暗色トナル故ニ褐色ノ壞ニ貯フルキハ變化セズ

濃溶液ニ食鹽液並ニ蛋白溶液ヲ加フレバ沈澱スト雖此沈澱ハ過剰ノ蛋白ヲ加フレバ再ヒ溶解ス

アウフレヒト氏ハ硝酸銀ニ優ル深達作用アル強防腐藥トナセリ即チ五千倍ノ溶液ハ四分間ニシテ淋毒球菌ヲ殺スライヌチコウ氏ハ淋疾ニ〇、〇二一〇、〇五一〇、〇二%ノ溶液ヲ注射シ淋疾ニ對シテ偉效アリトセリ洗滌ニハ〇、〇二五一〇、〇五%ノ溶液ヲ用ユ

木下藤一氏ハ吉原病院ニテ外來ノ男子淋疾ニ本品〇、一%ノ液ヲ用ヒシニ急性ニハ著效アリシモ慢性ニハ效弱ク硝酸銀ニ如カス〇、二一〇、〇四%ノ液ヲ女子尿道淋及子宮淋ニ用ヒシニ甲ハ治癒日數五日乃至五週(平均第三週)乙ニハ五日乃至七週ヲ要シ多數ハ第三週乃至第四週ナリ要スルニ本品ハ急性淋ニ效アルモ慢性淋ニハ確效ナシ本品ハ三千倍乃至百倍ノ液

局所刺戟防
腐蝕劑

ヲ用ヒ殺菌力強ク稀薄ノ液ニテ效アリ且刺戟性少シトス

○伊太利石油 *Oleum Petre italicum.*

藥局ニ於テハ唯伊太利產石油ヲ用ユルノミニノ米國產石油ハ供用スルコトナシ本品ハ燃燒產物ト沸騰點高キ炭化水素トノ混合物ナリ

性狀 本品ハ黃色或ハ紅色ノ澄明液ニシテ一種ノ燒臭アリ 脂肪油、依的兒性油并ニ依的兒及強酒精ニ溶解シ稀酒精ニ溶解シ難シ

作用及應用 本品ハ局所刺戟ノ性アリ故ニ痲瘋質斯、神經痛、凍瘡、皮膚病、鱗屑疹、濕疹ニ外用ス又防腐ノ性アルカ故ニ創傷ノ糊帶料ニ應用シテ可ナリト雖モ現今ハ多ク用ヒス衣虱及毛虱ニ用ユルモ確效ナシ本品ノ少量ハ刺戟劑及鎮痲劑ニ内用ス大量ハ虛脫ヲ起シ又劇シキ強直性痲攣ヲ來スベシ條蟲、虎列拉ニ應用ス鎮痲劑トシテハ賞スルニ足ラス

用量 塗布ニハ純品又ハ軟膏トナシ「擦劑ニハ一分ニ脂肪五乃至十分ノモノヲ用ユ之ニハ廉價ノ米國產石油ヲ代用スルヲ得ヘシ内用ニハ本品ノ再餾油三乃至十滴ヲ膠囊ニ容レ或ハ砂糖ニ加用ス

○「イムビゲン」(肝臟病ニ用ユ)

○「イムベリアリン」*Imperialinum, C₂₅H₅₀NO₄.*

「エリチラリア」或ハ「コロナリア、イムベリアリス」ヨリ製取セル類鹽基ナリ

無色短針狀結晶ニシテ水ニハ僅ニ溶解シ酒精、熱湯ニハ善ク溶解シ依的兒「ベンツオール」、石油依的兒等ニ僅ニ溶ケ嚼囉仿謨ニハ甚タ溶ケ易シ酸ヲ加フレバ結晶性引濕性ノ鹽ヲ生シ之ヲ服用スレバ心臟ニ作用ヲ及ホスヲ見ル「チキタリン」ノ如シ從來藥劑トシテ用ヒタルコト稀ナリ

○「インフルエンチン」*Influenzin.*

本品ハ專賣品ニシテ其有效成分ハ「フェナチエチン」、枸橼酸珈琲澱、撒里失爾酸規尼澱、食鹽、「フラングリン」等ヨリ成ル主トシテ流行性感冒、偏頭痛、股痛、頭痛等ニ效ヲ奏ス又本品ハ緩下ノ效アリ心臟及胃ニ副作用ヲ起スコトナシ大人ニハ一日三回投ス

○「イナイン」*Inulin.*

「ストロファンツス」實中ニ於テ「ストロファンチン」ト共ニ存在スルモノニシテ白色ノ結晶狀物ナリ「ボウレー」氏ハ腸室扶斯ニ偉效アリトナセルモ從來用ヒラレタルコト少シ用量ハ〇、〇六—〇、二二ナリ

○菌陳蒿「カワラヨモギ」

東京醫學會雜誌第四卷第二十一號乃至第二十二號ニ本品ノ黃疸ニ效アルノ報告アリ

○葱苡仁 (ハトムギ)

本品ハ漢醫ガ肺勞ニ效アリトナス品ナレモ猪子氏ハ此效ナシトナシ唯一種ノ營養物タルニ過キスト(本品ノ成分ハ含窒素二、五%脂肪四、五%含水炭素七七、三%灰分一、八%)

○「イングルベン」*Inglubin.*

鎮痲劑

伊太利石油 イムベリアリン インフルエンチン イナイン 菌陳蒿 葱苡仁

妊婦嘔吐劑

雞雞ノ胃粘膜ヨリ採取シタル百弗聖ニシテ帶黃白色ノ粉末ヲナシ鹽様ノ味アリテ中性ノ反
應ヲ呈スバツブ氏ハ消化催進劑トシテ妊婦嘔吐ノ良劑ニシテ食前半時〇、五ヲ與ヘ次テ一
%鹽酸溶液ニ食匙ヲ服セシムレバ嘔吐忽チ閉止ス

胆汁分泌劑

北米ノ「イリジ」根ニシテ其流動越幾斯ヲ胆汁分泌藥及下劑トシテ用ヒ之ヨリ製セル樹脂則
チ「イリヂン」(含水炭素ノ「イリヂン」ト誤ル可ラス)ハ樹脂ノ乾燥產物ニシテメルク氏ノ製品
ハ胆汁分泌ノ效アリ頑固ノ嘔吐ニ賞用ス〇、〇五—〇、二ヲ丸劑トス

○「イゾブチルフェノールヨジツト」(防腐藥トス「タイロフエン」ノ如シ)

○「イゾブチルニトリツト」*Isobutylnitrit*.

亞硝酸「アミール」ノ代用劑トシテ胸部壓悶等ニ吸入セシムルノミ

○「イゾ」安知必林(通常ノ安知必林ノ如キ效アリ用量未タ明ナラス)

○「イヅアール」(「ルレソール」製劑ニシテ消毒藥トス)

○「イリジン」(「イリスウエルシコロル」ヲ見ヨ)

○「イボット」*Ibit*.

本品ハ微細灰白綠色無臭ノ集團セサル粉末(單寧及酸化沃度蒼鉛ノ化合物)ナリ

ブルンネル及マイエル氏ハ「イビツト」ガ「イボット」トナシ有效ニシテ甚毒性少キ創傷防腐劑トナセ
リ故ニ沃度仿護ノ代用品トシテ賞用セラル即チ防腐的ニ行ヘル手術ノ縫合線ニ撒布シ又偶發

知覺鈍麻藥

創傷ニハ本品ノ「ガーゼ」ヲ以テ填塞シ火傷ニハ瘡面ニ本品粉末ヲ撒布シ殺菌油ヲ浸セル
「ガーゼ」ヲ以テ被フベシ又防腐の手術ニ於テハ縫合ニ由テ縫合セラレサル缺損部ヲ殘存シ
タル部分例之乳房摘出後ニハ其瘡面ニ本品粉末ヲ一面ニ撒布シ本品「ガーゼ」ヲ以テ被フベ
シ沃度仿護ニ代用シテ本品ノ「ガーゼ」ハ直腸手術後ノ空洞創、上顎切除、扁桃腺摘出、腔内
的子宮摘出ニ殊ニ衰弱家及老人ニシテ沃度仿護中毒ヲ恐ルヘキ者ニ用ヒラル

○「イゾコカイン」*Isococainum*.

本品ノ熔融點ハ四十四度「コカイン」ハ九十八度ナリニシテ鹽酸、硝酸、沃度水素酸ニハ比較的ニ溶解シ難キ

鹽類ヲ生ス知覺鈍麻藥トシテ用ヒ頗ル速ニ知覺脱失ヲ發セシムルヲ以テ古加乙涅ニ優ル者ナ

ルベシ但シ眼科治療上ニハ古加乙涅ヨリモ甚ク局所ヲ刺戟スルカ故ニ應用シ難シ現今治療

上ニ試用セシメ未タ多カラス

○「ロボリン」*Roborin*.

本品ハ穀粉ヨリ製シタル純植物性蛋白質製品ニシテ〇、六%ノ分解セサル「レチチン」ヲ含有
ス白色無味ノ粉末ニシテ水ニ溶解シ若クハ膨脹ス滋養品及肉代用品トシテ大人ニハ一日三
乃至四食匙小兒ニハ二三乃至四咖啡匙ヲ食物或ハ飲料ニ加用ス殊ニ其消化シ易キヲ以テ賞セ
ラル又本品ヲ加フルモ麵包ヲ焼クニ妨ケナク蜜尿病者ニモ甚適當シ麵包ノ味ヲ佳良ナラシ
メ得ベシ

イリス、カエルシコロル、イゾブチルニトリツト、イビツト、イゾコカイン、ロボリン

本品ハ牛血ヨリ製シタル者ニノ十%ノ鹽類、八十%ノ蛋白質若クハ窒素ヲ含ム、黑色大顆粒
狀ノ粉末ニシテ殆ト無臭味ナリ水ニ溶ケズ貧血及衰弱ニ大人ニハ三分一乃至二分一茶匙宛小
兒ニハ四分一茶匙宛一日三回與ヘ即チ其粉末ヲ乾燥ノ儘舌上ニ來タシ少許ノ液ヲ後服セシ
ム本品ノ錠劑(各錠〇、五)ハ大人ニハ一日三回二個宛投ス

〇ロゾフアン *Losophannum*. $C_6H_5(OH).CH_3$.

性状 「ロゾフアン」ハ無色無臭ノ針狀結晶ニシテ弱酸性ノ反應アリテ水ニハ能ク溶解セザ
レモ酒精ニハ少シク溶解シ依的兒、「ベンツオール」、嘔囉仿謨ニ溶ケ易シ六十度ノ温ニ於テ
本品ハ脂肪油ニ攝取セラル又稀薄曹達滷汁ニハ變化セヌン溶融シ濃厚曹達滷汁ニ遇ヘハ酒
精ニ溶ケザル帶緑黑色無形物ニ變ス本品ハ沃度七八、三九%ヲ含ミ溶融點ハ攝氏一二一、五
ナリ

應用 エ、ザールフェルド氏ニ從ヘハ本品ハ専ラ外用ニ供スル者ニシテ屢認ムル微菌性皮
膚病(禿髮水泡疹)、異色糠秕疹、動物性寄生生物ニ由ル皮膚病(毛虱、衣虱、疥癬)其他、痒疹、慢
性浸潤性濕疹、鬚瘡、瘡瘡等ニ用ヒ良效アリ但シ本品ハ刺激性アルヲ以テ皮膚ノ急性炎性疾
患ニハ禁忌トス〇本品ハ一乃至二%ノ酒精性溶液(酒精三分水一分ノ者)其他一乃至十%ノ
華攝林軟膏トナシ用ユ

〇「ロゾフアン」一、〇—二、〇 酒精七
〇、〇 水二五、〇

右外用塗布料

〇「ロゾフアン」三、〇ヲ酒精三二、五ニ

溶シ蓖麻子油七、五 水七、〇

右外用

〇「ロゾフアン」五、〇 華攝林五〇、〇

右外用

〇「ロベリア、デレッサ」*Lobelia delissa*.

「メキシコ」ニ産スル植物ノ塊狀根ニシテ其橫斷面ハ帶黃褐色ヲ呈シ初メ甘味、次テ強酸味ヲ
呈シ丁幾或ハ煎劑(一分ト二百五十分)トナシ神經性咳嗽、喘息、氣管枝炎等ニ用ヒガルシア
氏ハ攝涅瓦根ノ代用劑トナセリ

〇「ロレチン」*Loretin* (沃度チキシン酸) $C_9H_9J.N.OH.SO_3H$.

性状 本品ハ淡黃色無臭ノ結晶狀粉末ニシテ空氣及日光ニ遇フモ變化セヌ冷水ニハ唯僅ニ
溶解シ(百瓦中ニ約〇、一—〇、二ノミ)熱湯及酒精ニハ稍溶ケ易シ依的兒、「ベンツオール」、
嘔囉仿謨ニハ溶解セズ本品ノ中性及鹽基性亞兒加里鹽(苦土鹽及明礬鹽)ハ水ニ溶解スルモ
石灰及他ノ金屬鹽ハ溶ケズ

作用及應用 本品ハ創傷療法ニ於テ沃度仿謨ニ代用シテ洗滌料トナシ又散布末トナ
シ又古魯胃謨ニ加ヘテ創傷ヲ防腐的ニ閉鎖シ或ハ之ヲ丹毒ニ塗布シ瘻管ニハ桿條トナシテ
挿入シ足潰瘍ニハ軟膏及「ガーセ」ト用ユ本品ハ刺激性ナクノ無毒ナリ

用量 外用 散布末ニハ純品又ハ強ク分泌アル創傷ニ於テ痂皮ヲ生スルヲ避クルカ爲メ

防腐藥

ロゾフアン ロベリア、デレッサ ロレチン

ニハ滑石、煨性苦土、澱粉ヲ配伍スベシ洗滌料ニハ冷飽和溶液トナス「ロレチン」古魯胃膜ハ五—十%「軟膏モ亦五—十%」(「ラノリン」「ワゼリン」)トシ桿條ニハ柯々阿酪ヲ以テ五—十%ノ者ヲ製ス

「ロレチン」那篤留膜鹽ハ無色柱狀物ニシテ水ヲ加フレハ濃橙黃色ノ液トナル一—六%ノ水溶液ヲ化膿創、膿瘍ノ洗滌料トナシ又瘻法ニ用ヒ二%ノ液ヲ注射ス○本品ノ石灰鹽ハ「ロレチン」ガ—ゼ」トナシ用ヒラル即チ那篤留膜鹽溶液ニ浸セル「ガ—ゼ」ヲ格魯兒石灰溶液ニ浸漬シテ製ス

○「ロレチン」酸、蒼鉛ハ創傷、軟下疳、皮膚潰瘍ニ乾燥性防腐性劑、散布料トナシ又軟膏(一分ト十分)トシテ濕疹及糠秕疹ニ用ユ○内用 肺癆家ノ下痢ニ○、五ヲ一日數回散劑トナシ服用セシム

○「ロイマチン」Rheumatin.

本品ハ「ザロキニン」ニ酸ヲ加ヘテ製シタル者ニシテ然ルキハ酸性鹽及中性鹽ヲ生ス甲ハ惡味アレモ乙ハ無味ナリ其撒里失爾酸「ザロキニン」ハ儂麻質斯ニ效アルヲ以テ「ロイマチン」ノ名アリ本品ハ白色針狀結晶ニシテ味ナク水ニ溶ケ難ク百七十九度ニ溶融スヲフェルラッハ氏ハ急性關節儂麻質斯、其重症合併症即チ心臟及心包ノ疾患アル者、其他淋毒性炎、神經痛、神經炎、過勞後ノ筋痛、脊髓癆ノ穿刺痛ニ用ヒタリ氏ハ急性關節儂麻質斯ニハ初メ三日間一日三回一、○宛ヲ用ヒ第四日ニ至リテ休止シ次ニ四日間一日量四、○ヲ用ヒ第五日ニ休藥セシメ

タリ

○「ロベリン」Lobelinum.

鎮痙藥

「ロベリア、インフラタ」ノ有效成分ニシテ古來吐劑及喘息藥トシテ用ユ黃色油樣ノ液ニシテ苦烈ノ味アリ水、酒精、依的兒ニ溶ケ易シ本品ハ酸ト共ニ鹽類即チ硫酸「ロベリン」ヲ生ス此者ハ帶黃白色ノ粉末ニシテ痙攣及喘息性諸症ニ皮下注射トナシ應用ス
ヌネツ氏ハ「ロベリン」ヲ喘息及氣管枝炎性呼吸困難ニ用ヒ著效ヲ收メ硫酸「ロベリン」ハ「ロベリア」ヨリ優レリ是其不快ノ作用(嘔心、下痢)ヲ發セザレバナリ而シテ皮下注射并ニ丸劑トナス「小兒ニハ○、○一—○、○五ヲ用ヒ大人ニハ○、○五—○、一ニシテ漸次增量一日量○、二—○、三ニ至ル

鹽類基タル「ロベリン」ト米國ヨリ來ル帶黃綠色ノ「レジノイド、ロベリン」ト誤ル可ラス此品ハ四十五%ノ酒精ヲ以テ「ロベリア」草ヲ蒸餾シ重湯煎上ニ蒸發シテ得タル者ニシテ緩和ノ吐劑トシテ○、○三—○、○六ヲ用ヒ潰瘍ニハ鎮痛劑トシテ外用ス

○「ロッタリン」Rottlerin.

本品ハ防腐藥トシテ大丸子ニ製シ用ユル者ニシテ其各丸ニハ硫酸石炭酸亞鉛及格魯兒亞鉛各○、五硼酸○、四撒里矢爾酸○、一枸橼酸及「チモール」各○、一ヨリ成ル者トス(「プレストウスキ—氏」ニ由ル)以上ハ「プレストウスキ—氏」ノ書ニ從フ所ナレモ所謂「ロッタリン」氏防腐的創傷洗滌液(即チ「ロッタリン」)ハ格魯兒亞鉛、硫基石炭酸亞鉛各一、二五撒里矢爾酸○、三

ロイマチン ロベリン ロッタリン

磷酸一、〇枸橼酸〇、〇五「チモール」〇、一食鹽〇、一二ヲ一「リーター」ノ水ニ溶解シタル液ナリ上記ノ成分ヲ重量四分一ヲ含有スル錠子トナシ用ニ臨ミ二百五十瓦ノ水ニ溶シ用ユベシ(「リーパー」ライヒランガルト氏ニ從フ)

○「ロドイチエア」 *Lodoicea.*

本品ノ流動越幾斯ハ強壯、解熱及解毒劑トシテ二乃至五滴ヲ投ス

○「バチローム」 *Bacillol.*

本品ハ「クレソール」ノ石鹼溶液(五十二%)ニシテ暗褐色油様ヲナシ水ニ溶解シ「リゾール」ニ類スレモ之ヨリモ頗ル廉價ナリ弱「フェノール」臭アリ腐蝕性弱キモ内用スルキハ害アリ本品ヲ一乃至二%溶液トナシ有力ナルモ而カモ緩和ナル外用的防腐劑トナス之ニ留水ヲ加フレバ澄明ノ液ヲ生スレモ之ヲ常水ニ注加スルキハ「リゾール」ニ於ケル如ク微度ナレモ水中石灰分ノ石鹼化スルカ爲メニ混濁ヲ生ス本品ハ器械、指等ヲ「リゾール」ニ於ケルカ如ク甚シク滑澤ナラシメズ從テ誤テ滑脱セシムルコトナシ

○馬尿酸 *Acidum hypuricum. C₅H₆NO₂.*

馬尿酸ハ無色稜柱狀及三稜形ノ結晶ニシテ水、酒精ニ溶解シ易ク依的兒ニ僅ニ溶ケ醋酸依的兒ニハ甚溶ケ易シ「ペンツオール」及石油依的兒ニハ全ク溶ケズ百八十度ニ溶解シ甚熱スルキハ安息香酸ニ分解シ昇華ス
癩麻質斯諸症及痛風等ニ主トシ其鹽類ヲ用ヒ純品ヲ用ユルハ稀ナリ

○馬尿酸石灰 *Calcium hypuricum.*

水ニ溶ケ易キ白色ノ粉末ニシテ體中尿酸ノ過剰ナル者ニ一回〇、五ヲ與フ可シ

○「バラクレソチン」酸 *Acidum paracresotinicum.*

本品ハ長針狀ノ結晶ニシテ格魯兒鐵液ニ由リテ紫色トナル、百五十一度ニ溶解シ分解セスシテ昇華ス本品ハ解熱劑トシ其那篤留鹽ヲ用ユ可シ其三、〇―四、〇ヲ與フレハ規尼涅ヨリモ低ク溫度ヲ下降セシム尙次項ヲ見ヨ

○「バラクレソチン」酸那篤留鹽 *Natrium paracresotinicum.*

本品ハ微細ノ結晶狀粉末ニシテ著シキ苦味アレモ其味不快ナラス二十四分ノ溫湯ニ溶解シ放冷スルモ復タ析出セス本品ハ解熱ノ效アレモ甚賞用スルニ足ラズ小兒ノ急性胃腸加答兒ニ於ケル解熱劑トナシ十乃至二十仙瓦ヲ用ヒ又大人ノ急性關節癩麻質斯ニ投ス

小兒ニハ一回ニ〇、一―〇、五ヲ投シ一日ニ〇、五―四、五ヲ用ヒ大人ニハ一日量六、〇―八、〇ナリ

○「ハルウイファ」 *Halwvia.*

本植物ハ麻刺利亞ニ於テ規尼涅ニ代用セラル印度ニ於テハ本品ノ浸劑ヲ汎用セラレ實ニ規尼涅ニ優レリ蓋シ本品ハ毫モ有害ノ副作用ナク豫防藥トシテモ亦投スルヲ得レバナリ此浸劑ハ苦味アリ膽汁ノ分泌ヲ催スニ由リ緩下ノ效アリ故ニ消化不良兼便秘、痛風性消化不良ニ賞用セラル近時ハ本品ヲ流行性感冒ニモ應用セリ

解熱劑

解熱劑

防腐藥

ロドイチエア バチローム 馬尿酸 馬尿酸石灰 マラクレソチン酸 マラクレソチン酸那
篤留鹽 ハルウイファ 四一

緩下及吐劑

○「バブチシア、チンクトリア」 *Baptisia tinctoria*.

本品ハ北米ニ産スル植物ニシテ少量ハ緩下ノ效アリ大量ハ峻下及嘔吐セシムニ個ノ糖原質則チ「バブチン」及「バブチシン」ト一ノ類鹽基「バブチトシン」ヲ含ム「バブチン」ハ水ニ溶ケ針狀晶ヲ呈シ緩下ノ效アリ「バブチシン」ハ水ニ溶ケス酒精ニ溶ケ易ク球塊狀ヲナス毫モ效ナシ

此植物根ヨリ流動越幾スヲ調製シテ之ヲ赤痢、猩紅熱、窒扶斯ニ用ヒ其根ノ煎劑ヲ白帶下及耳漏ニ注入ス又粉末狀ヲナセル越幾スヲ窒扶斯ノ特效劑トス其流動越幾ス五乃至十五滴ヲ用ユ可シ

○「バシチン」 *Basin*.

本品ハ咖啡混含有ノ規尼涅化合物ニシテ白色ノ粉末ヲナシ水ニ容易ニ溶解スクライドマン氏ニ由レバ其作用規尼涅ヨリハ約三倍強ク而モ不快ノ副作用ヲ起サズ本品ノ溶液並ニ他ノ「アルカロイド」即チ「アトロピネ」、「ヒヨスチアミン」、「ピロカルピン」、「スコボラミン」、「ストリキニーネ」ノ如キ物ト共ニ皮下注射又ハ内服トシテ急性傳染病、麻拉利亞、慢性關節痲質斯、不眠、偏頭痛、流行性感冒ニ投ス「アトロピネ、バシチン」溶液ハ殊ニ脊髄癆及喘息ニ於テ莫兒比涅ニ代用スルニ適スゴールドマン氏ハ顔面丹毒、猩紅熱、麻疹、濾胞性咽喉炎、傳染性耳下腺炎ニ應用セリ本品ハ結核性疾患ニハ他ノ「アルカロイド」ノ有無ニ關セズ皮下ニ注射ス可ラス

規尼涅劑

收斂劑

用量ハ大人ニハ一回〇・五ニノ一日二、〇皮下注射ニハ一回量〇・三ニノ一日量ハ一、二ナリ本品ト同時ニ酸類及亞兒加里ヲ用ユルヲ禁ス可シ

○「バイクル」根 *Baykuru*.

此根ハ無臭ニシテ收斂苦味アリ單寧一二、七五%樹脂一、六六%及類鹽基「バイクリン」ヲ含ミ依的兒及嘔囉仿謨ニ溶ケ易シ

流動越幾ス、丁幾劑、浸劑トナシ下利等ニ收斂劑トシテ用ユ

○麥芽越幾斯(即チ水飴ニシテ「マルツ」越幾スヲ見ヨ)

○麥芽鐵越幾斯(即チ鐵飴煎ニシテ「マルツ」鐵越幾スヲ見ヨ)

○「ハヤ」 *Haya*.

麻酔藥

「ハヤ」ハ亞非利加ノ矢毒ニシテ黒褐色無味無臭甚引濕性ニシテ水ニ溶ケ易ク酒精及依的兒ニ溶ケズ其有效成分トシテ「エリトロフレイン」ヲ含ム此「ハヤ」ハ漸次局所麻酔ノ效ヲ奏シ古加乙涅ヨリモ長ク持續ス又本品ハ「ヂキタリン」ノ如ク心臟ニ感應シ「ピクロトキシ」ノ如ク痙攣ヲ緩解スリ「ブライヒ氏」ニ由レバ「ハヤ」毒ハ「エリトロフレイン」ヲ含有セスト現今現全ク無用ノ品ナリ

○「ハマメリス、ウイルギニカ」 *Hamamelis virginica*.

本品ハ北米ニ産スル灌木ニシテ其苦味ナル皮ヲ流動越幾ス等トナシ諸種ノ出血殊ニ痔疾ニ強壯藥及收斂藥トシテ用ユ其用量ハ流動越幾ス〇・五—一、〇其稠厚トナセル者則チ「ハマメリ

バブチシア、チンクトリア、バシチン、バイクル根、ハヤ、ハマメリス、ウイルギニカ

止血防腐藥

「〇」ヲ丸劑トナシ用ユ

○「ハゼリネ」Haseline.

性状 「ハゼリネ」ハ前章ノ「ハマメリス、ウイルギニカ」ト稱スル灌木ノ葉ヲ蒸餾シ製シタル無色透明ニノ刺スカ如キ臭氣ヲ帯ヒ爽快ナル收斂性ノ味ヲ具フル液體ニノ止血、消炎ノ效アリ

應用 殊ニ子宮及卵巢出血ニ稱用ス又粘膜炎、毒蟲咬傷ニ用ヒ又防腐藥トス止血ノ目的ヲ以テ下血喀血ニハ三十滴ヲ少許ノ水ニ和シ一日三回分服セシメ外用ニハ純品ヲ布片ニ浸シ或ハ軟膏トナシ用ヒ尿道注射、結膜炎ニハ三倍ノ溶液ヲ用ユ又生皮ヲ丁幾或ハ越幾ストナシ用ユル人アルモ效ナシ

○「ハゼリネ」三、〇 單舎 一五、〇 水 一〇〇、〇

右毎二時一食匙 (子宮出血)

○麥角流動越幾斯 *Extractum Secalis cornuti fluidum.*

「ドクトル」フロリー氏ハ頑固ナル定期性頭痛患者十名ニ毎日四、〇ヲ規那丁幾一二、〇ニ加用シ頗ル良效ヲ得タリ即チ患者ハ凡テ三日内ニ頭痛消散セリ多數ノ場合ニ其奏效ハ正確ナリシ他ノ患者ニ於テハ頭痛ハ數月ヲ經テ再ヒ起レリ然レモ再ヒ之ヲ用ユルキハ亦久時之ヲ忘レタリ不快ノ副作用ハ未ダ曾テ認メス

○半夏 *Typhonium divaricatum.*

頭痛藥

嘔吐劑

半夏ハ醫學士江馬賤男氏カ脚氣、慢性腎炎、肝膿瘍、慢性胃加答兒ニ因ル頑固ノ嘔吐、胃潰瘍ニ因ル嘔吐ニ用ヒ良效アルヲ報セリ用量ハ一日六、〇—八、〇ナリ

○半夏(一五、〇)三〇〇、〇 生薑舍利別二〇、〇

右一日三回二分服

「ドクトル」佐伯理一郎氏ハ半夏ノ妊婦嘔吐ニ奇效アルヲ中外醫事新報第三百八、九、十三、十四、十五號ニ詳細報告セラレタリ同氏ノ處方ハ半夏九、〇 荅茯四、五 薑根二、五 水一八〇、〇ニ煎出シ一日三回ニ溫服セシメ或ハ「かわらけ」二五、〇—三五、〇ノモノヲ赤熾シ七〇〇、〇ノ湯中ニ投シ暫クノ土器ヲ去リ其液體即チ伏龍肝汁ノ全量ヲ單味ニ溫服セシメ或ハ半量ヲ前記ノ半夏煎ニ加ヘ用ユルニ在リ

○「ハ—シシユ」Haschisch.

「ハ—シシユ」ハ亞拉比亞及ヒ印度人ノ嗜好品ニシテ印度大麻ノ製劑ナリ

催眠劑

性状 或ハ固形或ハ越幾斯狀ヲナシ或ハ液體ヲナスシコロフ氏ノ證ニ由レハ少量ヲ服スレハ初メ脈搏ヲ減退シ後常度ヨリ増進シ瞳孔散大シ觸覺ヲ減シ熟睡或ハ嗜眠ス大量ヲ試用スルニ數日間昏睡シ神識知覺及反射機ヲ脱失シ八、〇乃至一二、〇ハ人ヲ斃スニ至ル又嗜好品トシテ常用シ麻酔スレハ神識變調スナケ—氏ノ說ニ由レハ喜怒哀樂交代ニ來リ或ハ放歌シ或ハ憤怒シ又騎馬游泳等ヲナスノ感ヲ發ス

應用 「ハ—シシユ」ハ良效アル催眠藥ニシテ、〇三ヲ丸劑トナシ内服セシムレハ一二時間

ハゼリネ 麥角流動越幾斯 半夏 ハ—シシユ

強壯藥

ノ後爽快ナル睡眠ヲ發ス又セー氏ハ腸胃神經症及消化不良ニ用ヒ鎮痛及食思催進ノ效アリ
一回ノ極量ハ〇、〇四—〇、〇五ナリ

〇「ハイモーズ」Hainose.

本品ハ血液ヨリ製造セル品ニ鮮紅褐色殆ト無臭全ク無味ノ粉末ヲナシ水ニハ殆ト溶ケス
胃液及腸液ニ溶解ス本品ハ萎黃病、貧血、尙僕病、急性亡血者、傳染病、胃病、營養不給ニ投ス
大人ニハ一日二三茶匙、小兒ニハ一二茶匙ヲ冷水或ハ微温湯ニ加用シ最良キハ冷乳ニ加用
ス

〇薄荷腦 *Mentholum*. $C_{10}H_{16}O$. 「メントール」 「メンタカンフェル」

「ベツフェルミシツカンフェル」

局所麻酔及
防腐藥

性状 薄荷腦ハ薄荷油中ノ硬性香竇油ニシテ日本及支那ニ産スル薄荷油ハ間々全ク薄荷
腦ヨリ成ル者ナリ六角系統ニ屬スル無色ノ結晶ニ依的兒、酒精ニハ容易ク溶解スト雖凡
冷水及脂肪油ニ溶解シ難シ攝氏四十二度ニ熔融シ百十二度ニ於テ沸騰ス

作用 薄荷腦ハ殺菌ノ性ヲ具ヘ局所ニ外用スレバ知覺麻酔及鎮痛ノ效アリベルラカニ
氏ノ説ニ由レハ薄荷腦ハ脊髓上ニ麻酔作用ヲ致シ反射運動ヲ減却シ知覺ヲ廢止ス小量ヲ與
フレハ心臟ヲ刺戟シ大量ヲ與フレハ血壓ヲ増進シ甚大量ニ在テハ呼吸中樞ノ麻痺ニ由テ斃
ル但シ薄荷腦ハ體中ニ於テ「メントール、グリコ、ウロン」酸トナリ尿中ニ排出ス

應用 外用 齒痛、神經痛、偏頭痛、癢痒刺戟、昆蟲ノ螫刺(本品一分依的兒十分ノ者ヲ塗

布ス)ニ外用シ又鼻ヨリ起ル反射神經病、鼻ノ實布埜里ニ於テハ薄荷腦油ヲ浸セル綿球ヲ送
入シ喉頭結核ニハシユライベル氏吸入器ヲ以テ吸入セシメ或ハ喉頭ニ注射スル「アリアル
ベルト、ローゼンベルグ氏」ハ諸藥中、喉頭結核ニ十乃至二十%ノ「メントール」油ヲ塗布シテ
最良ナリト云ヒブレツトン氏ハ千倍溶液ヲ外科的防腐藥中最良ナリト報告セリ〇内用 結
核ニ用ヒ其他胃痛、疝痛、妊婦ノ嘔吐、下痢、虛脫ニ供ス又痙攣性疾患ノ鎮靜劑トス
醫學博士岡田和一郎氏ハ醫事新聞第六百十三號ニ於テ喉頭結核ノ療法ヲ詳論セリ其一節ニ
曰ク本品モ亦吸入ニ賞用セル藥劑ニシテ二〇—三〇%ノ「メントール」油トナシ鐵
瓶中ニテ吸入セシムルカ或ハ結晶「メントール」ヲ熱シテ吸入セシムルモ亦妙ナリ該品ハ殺
菌及鎮痛ノ效アルヲ以テ好シテ之ヲ應用ス云々

「ドクトル」小此木信六郎氏ハ一%重曹水ヲ熱シテ殆ト百度ニ至ラシメ之ヲ「ガーゼ」栓塞ト
ナシ臭鼻性鼻腔一面ニ詰メ凡三十分ヲ經テ之ヲ去レバ鼻腔内ノ結痂ハ容易ニ除去セラレ尙
殘餘アルキハ「バラフィン」ヲ以テ溶解除去シ後「メントール」重曹ノ混合粉末ヲ吹入スルキ
ハ結痂ヲ除キ防腐作用ヲ爲シ且粘膜炎ヲ刺戟シ從來ノ方法ニ勝ル「遠シト云ヘリ

用量 外用 齒痛ニハ齶齒腔内ニ本品ノ結晶ヲ填塞シ其上ヲ蠟ニテ閉鎖ス「塗布料トナ
スニハ本品一分ト五乃至十分ノ酒精、油類、或ハ軟膏トナス」綿球ノ填塞及喉頭内注射ニハ
一分油類五分ノ者」偏頭痛ニハ所謂偏頭痛筆トナシ用ユ〇内用 〇、一—〇、五—一、〇ヲ一
日數回丸劑、酒精溶液(糖ニ加フ)又酒精或ハ油ニ溶シテ膠囊ニ包ミ「散劑ナレバ」ラブラー

トニテ用ヒシム結核ニハ一日量六〇―九〇ヲ用ヒ一回量〇、一―一、五ヲ供ス

○薄荷腦一、〇 阿列布油〇、五 「ラノリン」八、五

右爲軟膏 (偏頭痛軟膏)

○薄荷腦〇、七五 「ザロール」 阿列布油各一、五 「ラノリン」五〇、〇

右爲軟膏、一日二三回塗擦 (皮膚癢)

○薄荷腦五、〇ヲ 阿列布油四五、〇ニ溶解シ 石灰水五〇、〇ヲ加フ

右爲擦劑、外用 (火傷)

○薄荷腦〇、二 (鹽酸古加乙涅〇、一ヲ加フルヲアリ) 咖啡 白糖各五、〇

右爲散末、(感冒)

○薄荷腦一〇、〇ヲ「トルオール」三十六

立方仙迷 強酒精六十二立方仙迷 過格魯兒鐵液四立方仙迷ニ溶解ス

右外用塗布料 (實布埜里)

此溶液ヲ綿球ニ浸シテ強ク患部ニ塗布シタル後約十秒時間義膜ニ壓著スベシ

病初ニ於テハ毎三時、後ニハ一日三回行フ

○薄荷腦一〇、〇「トルオール」三十六立方仙迷 強酒精六十二立方仙迷 「ラノリン」ニ立方仙迷

右外用塗布料用法同上 (實布埜里)

○薄荷腦 四、〇 阿列布油 二〇、〇

右一二滴ヲ喉頭ニ塗布ス

○薄荷腦 二、五 酒精 四〇、〇 水六〇、〇

右每時半食匙 (頑固ノ嘔吐)

○薄荷腦一、五―二、五 酒精五〇、〇

各一、〇 餾水適宜ヲ加フ

右膠囊ニ包ミ二十個トナス

○薄荷腦 一、〇 酒精 二〇、〇 水一五〇、〇

右每一二時一食匙 (妊娠ノ嘔吐)

處方

右塗布料 (皮膚癢)

○薄荷腦〇、三―〇、五 呀囉仿讓五、〇

右一乃至六滴ヲ手巾ニ注キ鼻、口ノ前ニ保持ス (感冒、流行性感冒)

○薄荷腦 二、〇 白糖 亞刺比亞護膜本品ノ製劑ニ左ノ諸品アリ

安息酸薄荷腦 格魯兒薄荷腦 油酸薄荷腦

薄荷腦屈利設林乳皮 薄荷腦筆 薄荷腦綿

是ナリ

薄荷腦筆 *Mentholisifit* ヲ外科ニ用ユルノ目的トシテ製スルニハ柯々阿酪ニ三乃至五%ノ單

蠟ヲ加ヘ重湯煎上ニ溶シ稍放冷スルモ尙流動セル者ニ二乃至四%ノ薄荷腦ヲ加ヘタル者

トス其流動セル者ヲ適宜大ノ硝子管ニ注キ放冷シ適宜ノ鑛線或ハ硝子杆ヲ以テ之ヲ壓出シ或ハ適應ノ鑄型ニ注キ製ス

○破傷風治療血清 *Tetanusheilserum*

破傷風ノ治療血清ハペーリング及北里兩氏ノ研究ニ由リテ得タル所ニシテチツツニー、カタニー氏等モ此血清ヲ製造スルニ至レリ此血清ハ破傷風ノ治療上卓絶ノ效力アル者ノ如シペーリング、クノル氏ノ監督セルヘクストノルチウス社ニ於テ二種ノ血清ヲ製造セリ一ハ乾燥シタル者ニシテ既ニ發病後ニ用ヒ一ハ液體ニシテ豫防的ニ注射スル者トス

破傷風特效劑

破傷風治療血清

吾血清藥院製造ノ者モ液體及乾燥ノ二種アリ左ニ日本藥局方追加ノ全文ヲ掲クベシ
 破傷風血清ハ破傷風毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ニシテ硝子壺ニ容レ封緘ヲ施シ製造所
 名、一立方センチメートル中ノ免疫單位數、一壺中ノ免疫單位數、試驗番號、試驗年月日ヲ
 表記シ光線ニ觸レサル様包裝シタルモノナリ本品ヲ「ブイヨン」並寒天培養基ニ好氣性及
 嫌氣性培養法ヲ行フニ無菌ナラサルベカラズ

(甲)液體破傷風血清 *S. antitoxicum liquidum.*

本品ハ類黃色澄明或ハ微ニ濁濁セル液ニシテ貯藏ノ目的ニ添加シタル防腐劑ノ臭氣ヲ有
 ス本品一立方センチメートル中ニハ五免疫單位以上ヲ有セザル可カラズ但免疫單位ノ
 計算ハ「ペーリシグ」ノ方法ニ據ル本品〇、五立方センチメートルヲ體重十五グラムノ
 南京鼠ノ皮下ニ及其十立方センチメートルヲ「モルモット」ノ皮下ニ注射スルニ之ヲ致死
 セシム可カラズ本品ノ著シク濁濁シ又ハ多量ノ歪滓ヲ含ムモノハ供用ス可カラズ冷暗所
 ニ注意シテ貯フヘシ但一年以上ニ過ク可カラズ

(乙)乾燥破傷風血清 *S. antitoxicum siccum.*

本品ハ乾燥シタル破傷風血清ニシテ透映ノ小葉片或ハ帶黃白色ノ粉末ナリ本品「グラ
 ム」ハ少ナクモ五十免疫單位ヲ有シ防腐劑及其他ノ添加物ヲ含有ス可カラズ本品ヲ十分ノ
 水ニ溶解シタルモノハ液體破傷風血清ト同一ノ外觀ヲ呈スヘシ本品ヲ十分ノ滅菌水ニ溶
 解シタルモノノ試験ハ液體破傷風血清ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ冷暗所ニ注意シテ貯

フヘシ

應用及用量

本品ハ破傷風ニ對スル殆ト特效劑ニシテ實布埜里ニ次テ實地上ニ採用セ
 ラレタル血清療法ノ一ナリ即チ發病後日未ダ久シカラザル初期ノ破傷風ニ適應量ノ本品ヲ
 注射スルキハ確效ヲ奏ス然レモ其急劇ニ來レル重症ニシテ注射ノ時期ヲ失シタル者ニハ奏效
 確實ナル能ハズ是レ蓋シ淺川範彥氏ノ說ニ由レハ破傷風血清其者ノ無効ナルニ非ラス破傷
 風血清ガ同毒素ヲ中和スルヲ恰モ實布埜里血清ガ同毒素ヲ中和スルト毫モ異ナラサルニ拘
 ラズ本血清治療ノ成績實布埜里血清療法ニ比シテ劣ル所アルカ如キ所以ハ兩病ノ爲メニ侵
 サル、所ノ器官ノ貴賤ト急劇ニ侵襲スルヤ否ヤニ關スルナリ幸ニ治ニ赴ク患者ニ於テモ血
 清使用後數日間強直症狀ヲ呈シ極メテ徐々ニ恢復スル者ニシテ實布埜里血清注射後ノ如ク速
 ニ一二日ニシテ恢復セサル理由ハ破傷風毒素ノ爲メニ被リタル神經細胞ノ變化ハ生理的狀
 態ニ復スルヲ實布埜里ニ比スルニ遲慢ナルカ爲メナリト

左ニ本血清ヲ實用スルノ便ヲ計リ血清藥院ニ於テ定メタル血清使用法其他ヲ掲クベシ
 血清藥院製造ノ破傷風血清ハ三種ニシテ其容量及免疫單位數ハ左ノ如シ

第一號血清 容量一〇〇立方センチメートル 免疫單位數 一〇〇〇

第二號血清 容量四〇〇立方センチメートル 免疫單位數 四〇〇〇

固形血清 (重量ハ容器ニ記ス) 免疫單位數 一、〇〇〇

右第一號ハ豫防注射用十回ノ分量、第二號ハ患者一人ヲ治療シ得ヘキ分量ニシテ固形血清

ハ貯藏上ノ便宜ヲ圖リ製造シタルモノトス此三種ハ免疫單位數ニ應シテ使用スル時ハ何種ニヨルモ妨ケナシ

患者治療ノ爲メ血清ヲ用ユル時ハ一回ニツキ二〇、〇立方「センチメートル」(二〇〇免疫單位)「グツ」二三時間ヲ隔テ、二回注射スヘシ症狀ノ劇甚ナルモノニ在テハ同一ノ方法ニヨリテ尙多量ノ注射ヲ要スルコトアルヘシ但初生兒ニハ一回ノ注射量三、〇乃至五、〇立方「センチメートル」トス「家畜(馬其他)ニ應用スル場合ニ於テハ體量症狀ノ輕重ニ從ヒ二〇、〇(二〇〇免疫單位)乃至一〇〇、〇立方「センチメートル」(一、〇〇〇免疫單位)ヲ要ス」

豫防ノ爲メ血清ヲ用ユル時ハ一、〇立方「センチメートル」(一〇〇免疫單位)ヲ注射スヘシ其效力期間ハ凡ソ一ヶ月トス(家畜ニ應用スルトキ例之去勢術ヲ施行スル場合亦同シ)

注射ノ部位ハ成ルヘク感染局部ノ近傍ヲ宜シトス若シ其部位ノ注射ニ不便ナル時ハ胸側、大腿内側又ハ上膊ノ皮下ニ注射スヘシ但注射前其局部ヲ亞爾爾個保爾ニテ洗拭滅菌シ注射後ハ注射針痕部ニ五「プロセント」ノ沃度仿謨古魯胃謨ヲ滴下シ其處ニ凝固セシムヘシ

注射器ハ五「プロセント」石炭酸水若クハ無水亞爾爾個保爾ニテ叮嚀ニ洗滌シ然ル後〇、五「プロセント」石炭酸水ヲ以テ能ク洗滌スヘシ

固形血清ヲ使用セントスル時ハ之ヲ滅菌シタル乳鉢ニ納レ〇、五「プロセント」石炭酸水ヲ初メハ成ルヘク少量ニ加ヘ叮嚀ニ磨碎シ漸次増量シツ、能ク混和シ遂ニ十「プロセント」ノ溶液トナシテ注射スヘシ

血清保存法 此ノ血清ハ光線ニ觸ル、トキハ變質スルノ恐レアルヲ以テ冷カニシテ暗キ場所ニ於テ保存スルヲ要ス

右ノ方法ニヨリ保存シタル血清ハ一箇年間(固形血清ニ在テハ數年間)其效力ヲ持續スヘシ此ノ血清注射後凡一週間内外ニ於テ注射局部若クハ全身ニ蕁麻疹様ノ皮疹ヲ發スルコトアリ然レモ概ネ二三日間ニシテ消散スルヲ以テ別ニ治療ヲ要セス

纖維素溶解劑

〇「ババイン」 *Papaïnum*. (又「ババヨナン」)

性状 「ババイン」ハ南米ニ産スル「カリカババヤ」樹ノ子實ヨリ製セル白色無形ノ粉末ニシテ水ニハ容易ニ溶解ス此液ハ稍收斂性ノ味ヲ有シ煮沸スレハ微ニ混濁ヲ生シ酒精或ハ硝酸ヲ注ケハ沈澱ス其他醋酸鉛、鞣酸ヲ加フルモ亦然リ

「ババイン」ハ蛋白質及纖維素ヲ溶解スル醱母ニシテ其效力ハ殆ト「ペブシン」或ハ「バンクレアチン」ニ類似ス只「ペブシン」ト異ナルハ酸性ニ於テノミナラス亞兒加里性ニ於テモ好ク蛋白ヲ溶解スルニ在リ即チ左ノ試驗ニ由テ明ナリ本品〇、一ヲ五十立方仙迷ノ水ニ溶解シ之ニ少許ノ加里油汁ヲ加ヘ亞兒加里性トナル後チ纖維素一〇、〇ヲ加ヘ攝氏四十度ノ熱ヲ加フルニ纖維素溶解シ只少許ノ滓ヲ殘スノミ本品〇、一五ニ纖維素一〇、〇ヲ混シ鹽酸ヲ以テ酸性トナシ縮水七十五立方仙迷ヲ加ヘ攝氏四十度ノ熱ヲ與ヘシニ十五分時ノ後チ流動シ二時間ノ後チ全ク溶解セリ此品ハ能ク腸胃ニ堪ユルヲ以テ「ペブシン」ノ適スル諸病ニ效アリ

應用 グリネヴ、ラキ、フインクレル氏ハ神經性及潰瘍性消化不良、胃弱及疼痛性膿酸ト酸性嘔氣ト便秘ヲ患フル者ニ本品〇、一以上ヲ乳糖ニ和シ食後一二時間ヲ隔テ亞爾加里性合劑ヲ以テ服用セシムルキハ偉效アリ即チ酸ヲ中和シ之レニ由リ發スル痛ヲ緩解スルニアリ

シユウンメル氏ハ胃病患者ノ舌破裂ノ諸藥效ナキ者二十五人ニ本品ヲ用ヒ意外ノ良結果ヲ得タリ其效用世人ノ信用スルカ如キ消耗作用ニ非ズ却テ上皮剝離部ノ疼痛ヲ遏止シ上皮新生ヲ催進スル者ナリフエンウキタ氏ハ舌及咽頭ノ梅毒性潰瘍ニ「ババイン」ト「コカイン」ヲ配合シ用ヒシニ其面速ニ清潔トナリ直ニ上皮ヲ再生スル效アリト〇格魯布及實布埜利性義膜ニ塗布シ效アリ用法ハ〇、一—〇、二ヲ時器硝子中ニテ一、〇—二、〇ノ水ニ攪和シ筆毛ヲ以テ塗布スベシ又諸般ノ皮膚病ニ塗布藥トス又癌腫腺腫ニ切除術ヲ行フ能ハサル場合ニ注入料トスロースバツハ氏ノ説ニ由レバ二%ノ石炭酸水中ニ〇、〇五ヲ混入スルヲ良トス

用量 内用ニハ〇、一乃至〇、五ヲ重曹ニ伍シ用ヒ或ハ酒、舍利別等トシ外用ニハ五%ノ水溶液トナシ用ユ

〇「ババイン」 〇、二 酒精 〇、二五

硼砂 〇、二五 餛水 七、五

右外用 (實布埜利亞)

〇「ババイン」 〇、七五 硼砂 〇、三

餛水 七、五

右外用 (慢性鱗屑疹)

處方

〇「ババイン」 一、〇 餛水 一〇、〇

屈利設林 一〇、〇

〇麥角酵母(癰腫ニ内用セシメ慢性白帶下ニ外用ス)

〇「パンクレラン」 Pancreon.

破裂)

右筆ニテ一日二回乃至六回塗布(舌

消化藥

本品ハ灰白紅色微細ノ粉末ニ固有ノ稍胡桃様不快ナラサル味アリ水及稀酸類ニ溶解セサレレ輕キ亞兒加里反應ニモ已ニ溶解スコーンハイム氏ハ消化不良及「アキリー」ニ賞用セリ(鹽酸或ハ之ト「ペブシン」トヲ用ユルモ效ナキ者ニモ)本品ノ爲メニ已ニ胃中ニ於テ臍液ニ似タル作用ヲ起シ消化障礙ヲ佳良ナラシムレエブ氏ハ胃性「アキリー」ノ十三例ニ用ヒシニ其九例ニハ確效ヲ得タリ即チ自覺症及他覺的ニ便通ノ障礙ヲ佳良ナラシメタリ
大人ニハ一日三回〇、五ヲ散劑或ハ錠劑トナシ食前又ハ食時中ニ與ヘ小兒ニハ〇、一—〇、一五ヲ投ス

健胃劑

〇「パンクレアチン」 Pancreatinum.

性状 「パンクレアチン」ニ固形流動ノ二種アリ甲ハ哺乳動物ノ臍ニ水ヲ加ヘ浸出シ後チ乾燥シ乙ハ臍ニ依的兒或ハ屈利設林ヲ加ヘ製セル液ナリ褐色ノ塊或ハ褐色ノ液ニ水ニ溶解スレレ酒精ニ溶解セス本品ハ澱粉ヲ糖ニ化シ脂肪ヲ乳化シ亞兒加里性液中ニ於テ蛋白質ヲ「ペプトーネ」ニ化スル性アリトロムスドルフ氏ノ試験ニ由レハ血温ニテ三十乃至三十五分ノ凝固蛋白ヲ「ペプトン」ニ化シ六乃至八分ノ澱粉ヲ糖化シ十分ノ脂肪ヲ乳化セシムトチ

パンクレラン パンクレアチン

フレーン氏ハ九十倍ノ澱粉三十倍ノ卵白四十倍ノ脂肪ヲ消化スルカアリト

應用 消化ヲ催進スルノ目的ヲ以テ其流動製劑數茶匙ヲ與ヘ或ハ其五十乃至七十五瓦ニ細挫肉百五十乃至二百瓦或ハ蛋白、少許ノ澱粉及脂肪ヲ加ヘ滋養灌腸トナス而シテ「バンクレアチン」ハ腸消化ヲ助成スル「怡モ」百弗聖ノ胃消化ヲ助クルニ同シ是レ本品ハ胃液ニ由テ分解セラル、カ故ニ内服セシムルニハ膠囊丸トナスベシ唯萎縮性胃加答兒ニ於テ胃液ノ酸性トナラザル者ニノミ胃ヨリモ亦吸收セラル、ヲ以テ此病ニハ用ユルヲ得可シ

用量 〇、一—〇、五ヲ「ペブシン」ト配伍シ或ハ單味ヲ毎日數回肉羹汁或ハ乳汁ニ混シ用ヒ或ハ丸劑、錠劑トシテ用ユ

〇「バンクレアチン」〇、〇三—〇、〇五 「ペブシン」〇、〇二—〇、〇五

右爲錠劑一個、一日數回二乃至三箇宛(無力性消化不良)

〇「ババヴェリン」Papaverin.

本品ハ阿片ノ類鹽基ニシテ無色細小ノ結晶ヲナシ水ニハ溶解セス酒精ニハ僅ニ溶解シ依的兒ニハ稍容易ニ溶解ス 麻酔藥トシテ用ユルニ毫モ不快ノ作用(頭痛等)ナシ一日數回〇、〇五—〇、〇二散劑トナシテ用ユ

催睡劑

〇「バラアルデヒット」Paraldehyd, C₆H₁₂O₂.

性状 透明無色中性或ハ弱酸性ノ液ニシテ一種固有ノ依的兒樣香氣ト灼樣爽涼ノ味アリ八分ノ水ト隨意ノ比例ニ於テ酒精、依的兒ニ溶解シ百廿九度ニ沸騰シ放冷スレバ凝固ノ結晶

トナルモ十度五分ノ温ヲ加フレバ再ヒ溶解ス

作用 中量ニ於テ安眠ヲ起シ人ニ三、〇—五、〇ヲ投スレバ數分時ニシテ睡眠シ二乃至四時間持續ス其間ハ一分時間ニ呼吸二至、脈搏二乃至八至ニシテ體温ハ數分度下降ス頭充血、瞳孔散大、消化不良ヲ發セス本品ハ速ニ習慣ヲ發スルヲ以テ其用量ヲ増加セサル可ラズ又人ニ由リテハ本品ニ對スルニ大差異アルヲ見ルヲ以テ宜シク注意ヲ加フベシ呼氣ニハ甚シク「バラアルデヒット」臭ヲ放ツ

應用 催睡劑トシテ精神過勞、神經性不眠、酒客及精神病ニ用ヒグールドハルト氏ハ心臟性喘息、酒客譫妄、室扶斯樣譫語ニ一、五ヲ供用セリ本品ハ斯篤里幾尼涅ノ解毒反對劑ニシテ強直症ニモ大量(一日量九、〇ヲ與ヘ或ハ一五、〇ヲ灌腸ス)ヲ投ス之カ皮下注射ハ疼痛ヲ起スヲ以テ行フニ適セスエ、モルゼリー氏ハ癲狂、急性鬱憂病、幻覺性妄想狂、癲癇、歇私の里及他ノ不眠ヲ起ス諸症ニ用ヒシカ癲狂、酒客譫妄及興奮症ヲ來ス精神病ニ最效アルヲ見タリト

本品ノ禁忌ハ胃潰瘍、増進セル肺癆ノ喉頭症アル者はナリ乙症ハ咳嗽、嘔吐、大興奮ヲ催ス又疼痛アルキハ阿片格魯刺兒ヨリモ奏效少シトス

用量 鎮靜藥トシテ内用スルニハ一回量一、〇—二、〇催睡藥ニハ三、〇—五、〇—一〇、〇(一〇、〇ナルキハ之ヲ數回ニ小分シテ用ユ)ヲ三乃至五%ノ水溶液トナシ用ヒ灌腸ニハ五、〇—一〇、〇ヲ用ユ小兒ニハ年齢ニ從ヒ〇、〇五—〇、一ヲ投ス

○「バラアルデヒット」 五〇、〇 薄荷油 十滴 阿列布油適宜ヲ加ヘ百瓦ノ量トナス

右一回ニ六、〇—一〇、〇頓服

○「バラアルデヒット」三、〇—五、〇 水

一〇〇、〇 橙皮舎一〇、〇

右二分シ一分頓服

○「バラフォルムアルデヒット」Paraformaldehyd(CH₂O)₂

「バラフォルム」又「トリヲキシメチレン」

本品ハ不透明結晶性物ニシテ百五十二度ニ熔融スレモ已ニ百度ニ於テ昇華ス冷所ニハ無臭ナレモ溫暖ニ遇ヘハ刺戟臭ヲ放ツ水ヲ加ヘ百度ニ熱スルキハ全ク溶解ス此物質瓦私狀トナルキハ單一形(CH₂O)即チ「フォルムアルデヒット」トナル

本品ハ防腐ノ性アリ動物ニ内用セシムルニ甚大量ニ堪ユ大犬ハ本品ニ由テ死セスアロンソン氏自家ハ三、〇或ハ五、〇ヲ用ヒシモ奏效ナカリキ同氏ハ小兒ノ歐洲虎列拉ニ〇、〇五—一、〇ヲ與ヘタルニ甘朮ヲ以テシタルト同一ノ良效ヲ得タリ故ニ氏ハ本品ヲ以テ腸加答兒、窒扶斯、虎列拉ニ對スル消毒劑トシテ賞用スヘキモノトセリ本品ノ服用時ニハ脂肪ヲ用ユ可ラス

○「バラアルデヒット」二、〇—四、〇 護膜藥 六〇、〇 橙皮舎三〇、〇

右一回ニ頓服

○「バラアルデヒット」五、〇 護膜藥

水各一〇、〇

右灌腸料

防腐藥

解熱劑

外科ニ於テハ本品ハ創面ヲ甚シク刺戟スルヲ以テ用ユ可ラス

○「バラニトロフェノール」Paranitrophenolum.

本品ハ無色無臭ノ針狀結晶ニシテ防腐藥トシテ供ス

○「バラタローゼ」(催眠劑)

○「バライラ」Pareira.

「ブラジル」ノ植物ニシテ殆ト無色苦味アリ「ペロシン」ヲ含有ス利尿劑及膀胱病ニ煎劑又ハ流動越幾ストシテ用ユ

○「バルテニウムヒステロフォルム」Parthenium hysterophorus.

本品ハ東印度其他熱帶地方ニ於テ汎ク存スル植物ニシテ其煎劑(六〇、〇水五〇〇、〇)ヲ解熱劑トナス其他本植物ハ花柳性諸病、潰瘍、海綿様増息等ニ用ヒラル本品ヨリ製セル「グルコシッド」ナル「バルテニン」ハ規尼涅ノ有力ナル代用劑ニシテ顔面神經痛ニ良效アリ「バルテニン」ハ無臭ノ結晶ニシテ苦味アリ冷水ニ溶ケ難キモ熱湯、酒精、依的兒、嚼囉仿謨ニ溶ケ易シウルリチー氏ハ「バルテニン」一、〇ヲ麻拉利亞ニ與ヘ神經痛ニハ〇、〇五ヲ投セリ

○白桃花

本品ハ下泄作用アリ猪子氏ノ動物試驗ニ由レバ腸神經叢ヲ刺戟シテ蠕動ヲ亢進シ以テ下泄ヲ致スナリト本品ハ臨床上四、〇—八、〇ヲ浸劑又ハ煎劑トシテ一日二三回ニ分服セシム其下泄ノ際腹痛ハ輕微又ハ毫モナシ

○白芷(ヨロヒグサ)
本品ハ衝動興奮藥トシテ〇、八―四、〇ヲ用ユ本品ハ安傑利加根ノ一種ナル可シ

○「バンボタノ」皮 *Panboto*

本品ハ「カルリアンドラ」ノ皮ニ「メキシコ」ノ「レグミノーゼ」ナリ本品ハ近時解熱劑トシテ其皮六〇、〇ヲ水一「リ―テ」ニ加ヘ煎劑トナシ用ユ此液ヲ煎煮シテ半「リ―テ」トナシ二十四時間内ニ服用セシム小兒ニハ此半量ヲ投ス殊ニ本品ハ麻拉利亞ニ良效アルハ一般ニ信スル所ナリ然レモ本品中ニ「ハフイルレヤン」氏ニ從ヘハ類鹽基、糖原質其他ノ有效成分ヲ認メズト

○芳香性蓖麻子油 *Oleum Ricini aromaticum.*

本品ヲ近時スタンドケ氏ハ尋常蓖麻子油ニ代用セリ本品ノ作用ハ毫モ減損セス而カモ爽快ノ味アリ

新ニ榨採セル蓖麻子油ヲ屢熱湯ニテ處置シ次テ稀薄舍利別ノ如キ味ヲ呈スルニ至ルマテ「サツカリ」ヲ加フベシ然ル後チ之ニ錫倫產桂皮油ノ「アルデヒッド」及「ワニルレ」ノ混合物ノ痕跡ヲ以テ芳香ナラシム此製劑ハ善ク保存スルニ堪ユ

○「パロジン」(安知必林ノ別名)

○「ニルフアニン」 *Nirvanin.*

性狀作用 本品ハ容易ニ水ニ溶解スル無色稜柱狀結晶ニシテ新製所麻酔藥タリミユンヘ

ン大學ニ於テ「ドクトル」ア、ルキセンブルゲル氏カ行ヘル試験ニ由レバシユライヒ氏液ニ比スレバ有力ニ無害而カモ防腐的ニ殺菌劑タルヲ以テ滲潤麻酔及局所的麻酔ヲ起スヘキ品トシテ熱心ニ賞用セラレタリ

應用用量 外科及齒科手術ニ於テ局所麻酔ニハ二乃至五%ノ水溶液ヲ用ユルモシユライヒ氏ノ滲潤麻酔ニハ〇、二乃至〇、五%ノ溶液ヲ用ユ可シ「ドクトル」カツセル氏ハ喉頭ノ知覺麻酔ニ古加乙涅ニ代ヘテ乳酸ヲ以テ治療スルニ先チ十%液ヲ用ヒタリ而シテ此目的ハ十分ニ達セラレ且貽後痛ヲモ除クヲ得タリ

特ニ本品ノ長所ハ使用シ得ヘキ濃度ニ於テハ確然無毒ナルニ在リトス即チアインホルン及ハイントツ氏ニ從ヘハ本品ハ古加乙涅ヨリモ約十倍毒性弱シト云フ古加乙涅ノ大人極量ハ〇、〇五ナレモ「ニルフアニン」ハ〇、五以上ヲ注射スルモ害ナキハ數多ノ臨牀的實驗家ノ唱フル所ナリルキセンブルゲル氏ハ古加乙涅液ニ比シテ「ニルフアニン」ノ有スル長所ハ實ニ歌兒尼亞ノ根治手術ニ於テ證セラル即チ之ヲ實行スルニハ約八十乃至百立方仙迷ノ滲潤液ヲ要ス然ルニ今若シ第二號シユライヒ氏液ヲ用ユルハ古加乙涅極量ノ約二倍ヲ超過スルニ至ラン之ニ反シテ〇、二五%ノ「ニルフアニン」液百立方仙迷(シユライヒ氏第二號液ニ略同シ)ヲ以テスレバ即チ〇、二五中ニハ「ニルフアニン」極量ノ半量ニ達スルノミ其優レルヤ多言ヲ待タザルナリ

皮下注射の用法 外科手術ニハルキセンブルゲル氏ハ二%液約四立方仙迷ヲ注射スルヲ最

適當トス知覺麻酔ハ最遲キモ九分ニシテ現ハル唯甚シキ炎症ニ於テハ稍久時(約二十分間)ヲ要ス而シテ麻酔ノ持續ハ四十五分乃至一時間ヲ常トス豫メ革帶ヲ以テ結縛スルヲ必要トス殺菌ハ本品ノ作用ヲ損スルコトナキヲ以テ行フベシ極量ハ〇、五ナリ

齒科ニハローテンベルグ氏ハ拔齒術百六十四回ニ用ヒ百五十六回ハ良效ヲ得タリ即チ五%液ヲブライヒスタイネル氏式ノ注射器半筒宛齒齦ノ内側及外側ニ注射シタル後三分乃至五分ニシテ拔齒スルニ微痛アルノミ「ドクトル」ローベルトマルクス氏ハ使用ニ臨ミ注射液ヲ新製スルヲ賞用セリ此目的ニハ各錠〇、二五ノ「ニルファニン」錠ヲ製シ置キ使用一二時前ニ十立方仙迷ノ水中ニ溶解スルナリ「ドクトル」ルドルフドルン氏ハ本品麻酔後拔齒シタルニ屢甚シク浮腫ヲ起シ一例ニ於テハ幸ニ暫時ニ消散シタル中毒ヲモ見タリト

麻酔鎮靜藥

〇「ニトログリセリン」 Nitroglycerinum. $C_3H_5(NO_2)_3$. 「ニトロニタン」 「ニトロノイン」

性狀 本品ハ其全ク純粹品ニ於テハ無色油様ノ液ニシテ寒冷ナル者ハ無臭甘味ナルモ打撞、振盪スルカ或ハ急ニ二百度ニ熱スルキハ劇シキ爆鳴ヲ放ツヘシ比重ハ一、六ナリ本品ハ水(約八百分)ニ溶ケ難ク強酒精四分、依的兒、囉呀仿謨、脂肪油ニハ隨意ノ比例ニ於テ溶解スル本品ハ爆發ノ危險アルヲ以テ唯少量ヲ酒精溶液(一分九十九分)トナシ光ヲ遮リ或ハ油溶液トナシ貯フヘシ

作用 内用 本品ハ亞硝酸亞密兒及亞硝酸曹達ト同シク硝酸ノ分裂ニ由テ感作スル者ニシテ此作用ハ唯甚強烈ニシテ三乃至五分時ニシテ此作用ヲ起シ亞硝酸亞密兒ヨリ長ク持續ス女

子、老人、虛弱家、小兒ハ強壯ノ人ヨリ感受性鋭敏ナリ本品ニ對シテ初期ハ頭痛ヲ起スモ忽チ習慣ヲ來ス

應用 狹心症發作、大動脈動脈瘤ニ由來スル絞心症、神經性喘息、腦貧血ニ於ケル神經症、血管痙攣性偏頭痛、顔面痛、頭痛、貧血性眩暈、注射病、癩癩、舞蹈病、急性腎臟炎、靨雷土病、萎縮腎ニ供用ス本品ハ腦ノ充血狀態ニハ禁忌トス

用量 内用 〇、〇〇〇二—〇、〇〇〇五—〇、〇〇一ヲ一日數回酒精溶液(1%ノ液トナシ二乃至十滴ヲ水ヲ加フ)油溶液(1%ノ溶液トナシ二乃至十滴ヲ砂糖ニ加フ)トナシ用ユマルチンダーレ氏ニ從ヒ柯々阿酪及砂糖ヲ以テ每九百分一「グレン」ノ丸劑ヲ製シ一回一乃至二丸ヲ服セシム又ロスバツハ氏ハ本品〇、一ヲ依的兒ニ溶シテ「シヨコラーデ」末二分阿拉比亞護謨一分ノ混合物二百瓦ト善ク混和シ依的兒ノ蒸散セル後之ニ水ヲ加ヘテ糜粥トナシ之ヨリ二百個ノ錠劑ヲ製ス其各個ハ「ニトログリセリン」〇、〇〇〇五ヲ含有ス(一日數回一二個)

〇「ニトログリセリン」 〇、一 薄荷油 〇「ニトログリセリン」 〇、一 再餾酒

一〇、〇 右混和一日數回二滴乃至十滴

一〇、〇 右一日數回二乃至十滴

〇 葫越幾斯

中條資俊、黒川政吉ノ兩氏ハ千葉病院ニ於テ自ラ葫越幾斯ヲ製シテ之ヲ十二指腸蟲病ニ用

ニトログリセリン 葫越幾斯

解熱及防腐劑

ヒ驅蟲ノ效ヲ得ラレタリ用法ハ一回五、〇ヲ「アブラート」ニ包ミテ頓服セシメ後チ三十分ニシテ蓖麻子油一五、〇ヲ投ス(詳細ハ醫事新聞第六三二號ニ在リ)

〇二沃度撒里矢爾酸 *Acidum diiodosalicylicum. C₆H₂(OH)COOH.*

本品ハ白色針狀ノ結晶様粉末ニシテ冷水ニ溶ケ難ク依的兒及酒精ニ甚容易ニ溶解ス解熱劑及防腐藥ト用ヒ又強烈ノ儂麻質斯藥トノ殊ニ撒里矢爾酸ノ無效ナル症ニ用ヒテ效アリ一日一、五—四、〇「オブラート」ニテ服用セシム

防腐劑

〇二沃度「ナフトール」 *Naphtholum biyodatun.* 「ナフトールアリストール」

本品ハ無臭無味ノ粉末ニシテ光線ニ遇ヘハ綠色トナル水ニ溶ケス一部分依的兒ニ溶解シ酒精及醋酸ニ溶ケス嘔囉仿謨ニ容易ニ溶解ス本品ハ「アリストール」ノ如ク防腐藥トナシ供用セラル

防腐劑

〇二沃度「チナフエン」 *Thiophenum biyodatun. C₆H₄S*

性狀 本品ハ小板狀ノ結晶ニシテ水ニ溶ケス依的兒、嘔囉仿謨及熱酒精ニ容易ニ溶解シ冷酒精ニハ溶ケ難シ不快ナラサル臭氣アリ

作用及應用

本品ハ殺菌、分泌制滅、消臭ノ性アリホック及スビーグレル氏ハ沃度仿謨ニ代用シテ創傷療法、火傷ニ賞用セリ其肉芽ノ形成ハ沃度仿謨ヲ用ヒタルキヨリ遅キモ肉芽ハ細小堅固ニシテ増生ノ傾向少シトス消臭藥トシテ沃度仿謨ニ優レリ直チニ創面ニ散布スルキハ約半時間持續スル灼熱ヲ起ス外用時ニ濕疹、中毒症狀ヲ經驗セス驅梅毒ノ效ナシ

用量

散布末ニハ純品或ハ「デルマトール」ト共ニ供用シ「十」%ノ「ガーゼ」トナス

〇二沃度「チラフエン」 五〇、〇 酒精

〇二沃度「チラフエン」 五、〇 「デルマトール」 一〇、〇

依的兒 各五〇〇、〇 屈利設林 一

右外用散布料

三、〇

右十%ノ「ガーゼ」トナス

〇二沃度「フェノール」(紫紅色無臭ノ粉末ニシテ創傷ノ防腐藥トシ「アリストール」ノ如ク用ユ)

〇二沃度「レゾルチン」(褐色ノ粉末ニシテ防腐藥トス)

〇二「ナオ」撒里矢爾酸那篤留謨 *Natrium diiodosalicylicum.*

解熱劑

性狀 本品ハ灰白色引濕性ノ粉末ニシテ水ニ溶ケ易ク其水溶液ニ格魯兒鐵ヲ加フレハ微紫色ヲ呈ス病者ノ尿中ニハ本品及撒里矢爾酸ヲ證明スル能ハスヒュッペ氏ニ從ヘハ二十%ノ溶液ハ多キモ四十五分時ヲ經レバ脾脫疽ノ芽胞ヲ撲滅シ又虎列刺杆菌及窒扶斯杆菌、灰白色化膿菌及金色葡萄狀菌ニ著ク防腐消毒ノ效アルヲ見タリ此點ニ於テハ遙ニ撒里矢爾酸曹達ニ優レリ

應用 本品ハ關節儂麻質斯及淋毒性儂麻質斯ニ於テ解熱ノ效アリテ撒里矢爾酸ヨリモ少量ヲ以テ強ク奏效シ胃ニモ善ク耐フル者タリ唯大量則チ毎日〇、八以上ニ昇ルキノミ惡心

二沃度撒里矢爾酸 二沃度ナフトール 二沃度チラフエン 二ナオ撒里矢爾酸那篤留謨

及耳鳴ヲ發シ稀ニハ〇、八ヲ與フレハ甚ク發汗スルヲアルノミ本品ハ撒里失爾酸曹達ヨリモ小量ヲ以テ大ニ奏效シ不快ノ副作用ヲ發スルコトナシ午前及午後〇、二ヲ與ヘ必要ニ臨メハ午後ノ一時間以内ニ〇、二ヲ二回投スルコトアリ

〇二沃度「チモール」(防腐藥)

〇乳酸 *Acidum lacticum.*

止瀉劑及腐蝕劑

應用 本品ハ無色舍利別樣酸性ノ液ニシテ近時乳酸ハ下痢ノ療法ニ賞用シハイエルン氏ハ

毎日一〇、〇—一五、〇ヲ用ユルモ決シテ消化障礙ヲ發セズト云ヘリ而シテ乳酸ハ一日一〇、〇以上ヲ與フレバ速ニ尿中及大便ニ於テ證明ス可キカ故ニ大量ニ輸送セラル、酸ハ變化セスシテ腸中ニ達シ直接ニ之ニ感作スル者ナルヲ知ルベシ本品ハ小兒ノ綠色下痢及結核ニ效アリ

モウゼニチヒ氏ハ乳酸ヲ腐蝕藥トシテ狼瘡及皮膚癬ニ稱用ス是レ健康部ニ病毒ノ浸淫スルヲ防クノ效アルヲ以テナリ即チ乳酸ヲ布片又ハ綿ニ浸シテ患部ニ貼ス喉頭咽頭等ノ粘膜炎殊ニセラドル氏ハ喉頭結核ニ稱用スカイメル、クラウセ、ア、ゾコロスキ、氏等ハ喉頭結核ニ乳酸ヲ試用シ良效ヲ得タリカイメル氏ノ實驗中ニ名肺結核ヲ發セスシテ治セリ氏ハ「コカイン」水ニテ粘膜炎ヲ麻酔セシメ二十%乃至三十、四十、五十%ノ乳酸水ヲ塗布セシガ本品ハ結核潰瘍ヲシテ癩痕ヲ結ハシム

醫學士多田貞一郎氏ハ舌結核ニ五%ノ乳酸ヲ用ヒ潰瘍速ニ治ニ赴キ又咽頭結核ニモ奏效ヲ

見タリ

廣田信讓氏ハ他ノ諸藥效ナキ赤痢ニ本品ヲ試用シタルニ下痢著ク減少シ熱度下降シ痛癢緩解シ裏急後重退キ精神爽快卒然佳候ヲ呈セリト中外醫事新報第三百二十四號ニ報告セリ

「プロフッソル」ルムブ氏ハ本品ニ強利尿及石灰分排泄催進作用アルヲ以テ血管ノ石灰化ニ由來スル絞心症ニ用ヒ甚良效ヲ得ラレタリ但食餌ハ石灰ニ乏シキ者ヲ用ユベシ故ニ乳汁、乾酪、卵、人參、菠薐菜ノ如キ石灰分ニ富メル食品ヲ禁ス可シ

用量 小兒ニハ一日二、〇水劑トナシ大人ニハ一日一〇、〇—一五、〇ヲ用ヒタリ

〇乳酸 一〇、〇—一五、〇 水 八〇 〇十倍乳酸水 一〇、〇

〇、〇 單含 二〇〇、〇 右塗布料(喉頭結核)

右廿四時中ニ半蓋宛、食時外ニ服セ 〇純乳酸 一〇、〇

シム(下痢) 右塗布料(喉頭結核)

〇乳酸桿 *Bacilli Acidi lactici.*

腐蝕藥

此桿條ハ膠、乳酸、水各五〇、五ヨリ成リ之ニ微温ヲ加ヘテ流動性トナシ次ニ薄荷腦三〇、〇ヲ加ヘタル後テ之ヲ製桿器ニ注入シ氷架上ニ置キ二十四時ニシテ之ヨリ除去シ桿條ヲ格魯兒石灰ヲ容レタル乾燥器上ニ乾カスベシ而シテ此桿條ニ古魯胃膜ヲ被包セシムルハ善ク保存スルニ足レリ薄荷腦ヲ加フルノ目的ハ乳酸使用部ノ疼痛ヲ減退スルカ爲ナリ此桿ハ結核性瘻管ヲ治療スルニ適ス

乳酸 乳酸桿

○乳漿 *Serum Lactis*. 「モルケン」

性狀及成分 淡綠色ノ液ニノ酸性ナラザル淡泊ノ味アリ本品ハ甚少量ノ「カゼイン」及脂肪ヲ含ミテ鹽類ノ一部ヲ除去シタル乳汁ナリ本品ハ平均九三、二四%ノ水〇、八五%ノ蛋白及「カゼイン」〇、二三%ノ脂肪四、七%ノ乳糖〇、六五%ノ鹽類ヲ含ミ食鹽及磷酸加里ニ富ム

作用及應用 本品ハ滋養ノ效甚僅少ナレモ大量ノ本品ヲ用ユルキハ新陳代謝ヲ催ス性アリ毎日半乃至「リール」ヲ投スルニ善ク之ヲ堪フルト雖モ亦同量ニシテ已ニ下痢或ハ便秘ヲ來ス人アリ大量ハ常ニ消化不良及腸加答兒ヲ起スベシ本品ハ腺病、肺癆、慢性氣管枝炎、喉頭炎、腹部充血ニ應用セラル

用量 一日二〇〇、〇—一〇〇〇、〇ヲ溫服セシム初メハ少量ヲ投シ漸次增量シ每十五分時ヲ隔テ、一五〇、〇—二〇〇、〇ヲ飲用セシム

○「ニオリ」 *Niori*.

「ブラシル」ニ在ル「フミリユム、フロリブンドユム」樹ノ皮ヨリ採レル拔兒撒謨ニノ安息香ノ臭氣アリ骨拜巴拔兒撒謨ノ如ク淋疾ニ用ヒ又其煎劑ハ良好ノ咳嗽劑タリ

○「ニール」 *Nirpa*.

本品ハ「インジカ、サマデラ」ノ皮ニノ紅褐色苦味收斂性ニノ唾液ヲ紅色ナラシム糖原質及類鹽基ヲ含ミ解熱劑トナス

○「ニーモ」木(興奮強壯藥)

○日本紙(薄葉紙) *Charta Japonica*.

本品ハ瑞香科植物タル鴈皮ノ纖維ヨリ成レル甚輕ク柔軟ニシテ撓メ易ク而カモ堅牢ニシテ抗抵抗力アル物ニア、ホフマン及リーゲル氏ハ藥劑ノ被包料トナシ「ラブラート」及膠囊ニ代用セリ其六平方仙迷ノ小片ヲ切り紙片ノ中央ニ藥劑ヲ盛リテ之ヲ卷纏シ「ラブラート」ノ如ク水ヲ以テ嚙下セシムルナリ胃中ニ至レハ紙片忽チ開展シ藥劑ハ速ニ吸收セラル

○人參

本品ハ古來支那及吾國ニ於テハ漢法醫家カ最貴ノ興奮藥トナシ賞用シ殊ニ朝鮮ノ産品ヲ最良トセリ猪子氏ノ實驗ニ由レバ殊ニ危急ノ際ニハ無効ニシテ唯數日若クハ數週持長ノ多少營養ノ佳良トナルノミ其有效分ハ未タ詳ナラズ富田長壽氏ハ脈搏微弱ノ者ニ用ユレバ血壓増進スト一日ニ四、〇—一〇、〇ヲ煎劑トナシ用ユ

○硼酸石炭酸 *Acidum boro-phenylicum*. $C_6H_5Bo_3 \cdot (H_2O)$

硼酸石炭酸ハ石炭酸ニ硼酸ヲ溶シ製シタル者ニシテ冷水ニ溶ケ難ク熱湯、酒精、依的兒ニ溶ケ易ク微ニ芳香性ノ臭味アリ其防腐力ハ石炭酸ヨリモ強シ強劑ノ防腐藥ニシテ且解熱ノ效アルモ不快ノ副作用(頭痛、耳鳴、眩暈等)アルヲ以テ内用ニ供セス

○硼酸撒里失爾酸 *Acidum boro-salicilicum*.

硼酸撒里失爾酸ハ一分ノ硼酸ヲ五分ノ熱湯ニ溶シ二分ノ撒里失爾酸ト十分ノ酒精トノ液ニ

加へ重湯煎上ニ乾燥ノ稠厚ナラシメ製シタル者ニシテ白色結晶狀ノ粉末ヲナシ冷水ニ溶ケ難ク熱湯及酒精ニ溶ケ易ク強苦味及防腐ノ效ヲ有ス防腐藥トシテ撒里失爾酸ニ代用ス可シ

○抱水「テルペン」 Terpinum hydratum $C_{10}H_{16}2H_2O + H_2O$

分泌制減及止血藥

性狀 本品ハ光輝アル無色殆ト無臭ノ稜柱狀結晶ニシテ弱苛烈様苦味アリ加熱スルハ昇華シテ細針狀結晶トナル百十六度ニ溶融シ水ヲ失ヒ溶融點ハ百〇二度ニ低降ス白金板上ニ熱スルハ明輝アル火焰ヲ放チテ燃燒シ殘燼ヲ殘サス本品ハ冷水二百五十分沸湯三十二分冷酒精十分沸騰酒精二分依的兒百分嘔囉仿謨二百分沸騰醋酸一分等ニ溶解ス本品ニ硫酸ヲ加フレバ橙黄色ヲ呈シテ攝取セラル又熱水溶液ニ硫酸ヲ加フルニ混濁シツ、芳香ヲ發生ス本品ハ的列並底油様ノ香氣ヲ放タス熱水溶液ニ「ラクムス」紙ヲ浸スモ變色セズ

作用及應用 少量ヲ投スレバ氣管枝粘膜ノ分泌ヲ催シ分泌物ヲ溶解スルニ由リテ祛痰ヲ容易ナラシム然レモ大量ハ却テ分泌ヲ制限スル效アリ其他利尿ノ效用アリ一、〇ヲ與フレバ恰モ的列並底油ノ如ク神經系ニ感應ス

少量ハ亞急性及慢性ノ氣管枝炎、大量ハ氣管枝膿漏ニ投シ瘰癧、其他止血藥トシテ結核初起ノ咯血ニ處シ利尿藥トシテ慢性腎臟炎ニ投シ又神經痛ニ與フ

用量 希望スル作用ニ從ヒ一日三回〇、一〇、五ヲ水、酒精溶液或ハ丸劑トナシ毎日三、〇ヲ與フ腎臟炎ニ於テハ一日量〇、五ヲ超越スルヲ許サズ小兒ノ瘰癧ニハ年齢ニ從ヒ一回量〇、五―一、〇トシ一日量一、五―三、〇ヲ投ス

○抱水「テルペン」二、〇 酒精 水

薄荷舍利別各五〇、〇

右一日三乃至六回一食匙

○抱水「テルペン」一〇、〇 酒精

一五〇、〇 水一〇〇、〇

右一日三回一食匙

○抱水「テルペン」三、〇 甘草末一、〇

精製甘草羔二、〇

右爲三十九、一日三回二九宛

催睡劑

○抱水「アミールン」 Amylenhydrat $(CH_2)_2C_2H_5$

性狀 抱水「アミールン」則チ第三「アミール」亞爾爾保兒ハ無色澄明水様中性ノ流動體ニシテ一種固有依的兒様ノ苛烈臭ト灼クカ如キ味アリ比重〇、八一五―〇、八二〇ニシテ水八倍ニ溶ケ酒精、依的兒、嘔囉仿謨、石油偏陳、屈利設林及脂肪油ニハ適宜ノ比例ニ於テ溶解シ攝氏九十九度乃至百〇三度ニ沸騰ス

作用及應用 本品ハフオン、メーリング氏カ催睡藥トシテ賞用セル所ニシテ中量ニ於テハ其作用主トシテ大腦ニ現ハレ呼吸、脈搏、血壓ニハ影響セズ大量ハ脊髓及延髓ニ感作シ反射消失、呼吸靜止シ終ニ心臟運動停止ス本品ハ使用スヘキ催睡劑ニシテ其效力抱水格魯拉兒ヨリ弱キモ「バラアルデヒット」ヨリハ強シ〇不快ノ副作用ハ或症ニ於テ惡心、嘔吐ヲ起ス「ア」是レメーリング氏ニ由レバ製劑ノ不良ニ因ルト食思缺損、便秘、神識朦朧、興奮ハ稀ナリ心臟機能ノ不整ハ屢經驗スレモ危險ノ偶發症ヲ發セス〇ウイデルムト氏ハ本品ヲ癲癇殊ニ頻發ノ發作ニ用ヒタリ即チ癲癇ニ於テ貌魯謨中毒ヲ發メ臭剝ヲ休止スベキ者ニ代

用シ又夜發癲癩ニ臭剝ト交代使用シ新發症ニハ亞篤魯必涅ト併用ス此療法ノ間ニ期望セサル副作用トシテ屢、持久シタル睡眠ヲ發シタリ本品ハ久用スルキハ習慣ヲ來スヲ以テ六乃至八週使用シタル後作用ヲ廢絶ス人ニ於ケル致死量ハ甚高シ或一例ニ於テハ本品二十七瓦ヲ用ヒタル爲メ甚危重ノ中毒症狀ヲ起セシモ死亡ヲ招カザリキ

神經家ノ不眠、精神過勞、老人、恢復期患者、貧血家、肺癆家ノ不眠ニ殊效アリ、關節痠麻質斯麻痺狂、癲狂、酒客譫妄ニモ同效ヲ奏シ癩咳ノ小兒ニ〇、二ヲ與ヘ效アリ

用量 内用ニハ水劑或ハ每個一、〇ヲ含有セル膠囊トナシ用ヒ一回量三、〇—五、〇其他灌腸一回ノ料五、〇ヲ水溶液トナシ供ス

處方

〇抱水「アミーレン」七、〇 水六〇、〇
甘草越幾斯一〇、〇

右毎夕就眠前半量ヲ服用(催眠劑)

〇抱水「アミーレン」五、〇 水五〇、〇

護膜漿二〇、〇

右灌腸料

〇抱水「アミーレン」六、〇—七、〇
鹽酸莫兒比涅〇、〇—二、〇、〇—三、〇
六〇、〇 甘草越幾斯一〇、〇

右毎夕半量服用

〇抱水「アミーレン」七、〇 橙花水五〇、〇

橙皮舍三〇、〇

右日哺時半量服用

〇「ボルドー」 *Baldo*.

「ボルドー」葉ハ南米ノ知利ニ産スル常綠樹葉ニシテ卵圓形赤褐色ノ厚葉ヲナシ下面ハ平滑

ニノ上面ハ數多ノ小結節アリ二%ノ依的兒性油ヲ含ミ又「ボルジン」ナル類鹽基及「ボルドー」ナル糖原質ヲ含有ス

本品ハ消化不良、肝病、膽石、膀胱病、淋疾等ニ應用シ一、〇水一〇〇、〇ノ浸劑トシ一日數回與ヘ一分ト五分ノ丁幾二十滴トナシ用ユ

〇「ボルジン」ハ黄色無形ノ粉末ニ依的兒、酒精等ニ溶解スルモ水ニ溶ケ難シ本品ハ催眠ノ效アリ

〇「ボルドー」ハ黄色含利別様ノ芳香液ニシテ「ボルジン」ニ由レバ催睡、膽汁、唾液及尿ノ分泌ヲ催ス效アリ〇、一ノ膠囊トナシ一日五乃至六個ヲ用ユ

〇「ボルドール」(淋疾藥)

〇「ボローネ」 *Borol*

本品ハ無色無臭ノ硝子様塊ニシテ水ニ容易ニ溶解ス防腐藥ニシテ腦膜炎、丹毒、格魯布性氣管枝炎ニ服用シ又實布埜里、臭鼻、鱗屑疹ニハ用内及外用ニ供シ淋疾及創傷療法ニ外用ス用量ハ大人ニハ一日五乃至六回二十%ノ液三十乃至五十滴、小兒ニハ同溶液ヲ一日五六回水ニ加ヘテ用ユ實布埜里ニ外用スルニハ一乃至二%ノ液ヲ以テ鼻腔及咽頭ヲ洗注シ淋疾及臭鼻ニハ一乃至二%ノ液ヲ注射ス

〇「ボビナイン」 *Bovinin*.

本品ハ牛血、少許ノ「ウイスキー」酒及乾燥シタル雞蛋白ヨリ成ル者ニシテ「ドクトル」プレツ

ヒ氏ハ毎日四回乃至六回食前ニ一五、〇—三〇、〇ヲ貧血、萎黃病、一般營養不良、神經性衰弱ニ與ヘタリ又皮下注射并ニ或潰瘍ニ於テハ外用ス純牛血ヲ善ク貯藏スルニハ〇、一ノ硼酸ヲ加フベシ

○「ボラーン」 Borax (硼酸酒石酸礬土)

本品ハ白色或ハ微黃色無臭無形ノ結晶ニシテ引濕性ナラス微ニ收斂性ノ酸味アリ温湯ニハ徐々ニ多量ニ溶解ス本品ハ醋酸礬土ニ代用ス化膿性中耳炎ノ洗滌料(十%液)トナシ又外聽道ノ濕疹ニハ十%ノ軟膏トナシ供用ス

○「牻牛兒」 (現ノ證據、現ノ奇特、忽チ草、醫者泣セ、痲病草)

近頃赤十字社病院醫員岩井禎三氏ハ「我民間赤痢ノ特效藥トシ古來汎ク賞用セラル、牻牛兒ニ就テ」ト題スル小冊子ヲ頒布シ其試用ヲ望マレタリ今其大略ヲ抄記セシ(詳細ハ同書ヲ見)救荒本草ニ曰ク牻牛兒ハ田野路傍ニ多シ冬枯レス葉形毛茛葉ニ似テ大サ一寸許五岐ニシテ鋸齒アリ葉面紫黒斑點ヲ生スル者アリ兩々相對シ夏月葉間ニ淡紅花ヲ開ク其形梅花ノ如シ又紫色白色ナル者アリ俱ニ微毛アリ花後莢ヲ生ス云々此葉莖ヲ陰乾シテ痲疾ニ用ヒ奇藥トス本品ノ赤痢ニ奇效アルヲ報告セラレタル郭氏報告ノ略ニ曰ク明治廿六年赤痢流行ノ際牻牛兒煎ヲ内服ト注射トニ途ニ用ヒテ四十人ヲ療シ内十八人ハ全治シ殘ル二人ハ死亡シ五%ノ成績ヲ得タリ同時ニ種々ノ事故ニ妨ケラレ本療法ヲ終始施行シ能ハザリシ者十五名其中全治七名死亡八名ナリシ事ヲ記シ又同流行時和歌山縣廳ノ調査ニ係ル同患者二十五人中全

赤痢藥

治十四人死亡七一人ナリシヲ比較シ以テ「ゲン」ノシヨウコトノ實效アルヲ證セリ同氏ノ療法ヲ結約スレハ即チ(イ)初期ニ甘汞下劑(〇五—〇、六)ヲ反覆シ(ロ)本煎劑(一〇、〇)ニ〇〇、〇ヲ大人一日ノ量トナシ三回ニ分服セシメ兼テ同煎(一五、〇)一〇〇〇、〇ヲ三分シ一日三回注射シ(ハ)腹部ヲ温蒸シ身體ヲ安靜ニシ(ニ)一切ノ固形食品ヲ嚴禁スルニ在リ而

ノ本品ヲ注射ニ用ユルハ氏ノ新案ニ出ツト云フ
岩井氏ハ專ラ郭氏ノ用法ニ從フト雖モ甘汞ニ代ユルニ蓖麻子油ヲ以テシ或ハ兩々相併用スルヲアリ又腹痛若クハ裏急後重甚キ者ニハ内服又ハ注射劑ニ至テ二十滴ノ阿片丁幾ヲ加フルカ或ハ別ニ阿片坐藥ヲ用ユルヲアリ其他體力衰脫セルモノニハ卵「ブランデー」赤酒、樟腦等ヲ用ヒタリ此法ニ由テ岩井氏ハ良效ヲ得ラレタリ又同氏ノ勸誘ニ由リテ鈴木萬二郎氏モ多ク試用セラレ其效力遙ニ從來用ヒ來リシ諸藥ノ上ニ出ツト云ヘリ

東京駒込病院ニ於テ南川親祇氏ハ入澤博士示導ノ下ニ明治三十一年數多ノ赤痢ニ本品ヲ實驗シ其成績ヲ東京醫學會雜誌第十三卷第七號ニ詳報セリ其成績ハ(一)一昨年及昨年東京市内ニ流行セル赤痢ニシテ吾人ノ最モ恐ル、所ノ卒然虛脫ニ陥ルモノヲ救フ力ヲ有セズ(二)特效藥ニアラサルモ硝酸銀、「ザロール」ノ上ニ位スル者ノ如シ然レモ本品ノミヲ以テ赤痢ヲ治セシメントスルハ至難ナルベシ(三)時ニ著效ヲ奏シ時ニ無効ナルヲ恰モ蒼鉛劑ニ於ケルト同一ナリ(四)恐ル可キ副作用ヲ有セズ唯時トノ齒牙ヲ黒染スルヲアルノミ(五)時トノ嘔吐或ハ惡心ヲ以テ使用ニ堪ヘサルヲアルモ稀鹽酸「メンタ」水等ニテ之ヲ避ケ得ル者多シ

ボラーン 牻牛兒

(六)未タ中毒ニ接セズ(七)初メニ便通減少ヲ來タシ終ニ便性ヲ變スル者多シ(八)慢性赤痢ニ對シテハ内服殆ト無効ニシテ灌腸ハ比較的ニ其效ヲ收ムル者ノ如シ(九)大量ヲ與フルモ食慾ヲ變セズ

東京駒込病院ノ伊藤米二郎氏ハ下山博士示導ノ下ニ本品ノ成分ヲ研究シ(東京醫學會雜誌第十三卷第四號)來歴、種類、形狀、成分等ヲ報告セリ主成分ハ單寧(乾燥品中一七、六八二%)粘液質ニシテ其單寧ハ柘榴根皮中ノ者ト同一ナリトセリ

○「ボンドック」實 *Bonduksamen.*

本品ハ光輝アル藍色或ハ帶黃綠色球狀ノ子實ニノ「ハッケル氏」ハ一ノ苦味質則チ「ボンドック」ニシテ發見セリ此「ボンドック」ハ白色ノ粉末ニシテ苦味アリ酒精、醋酸、脂肪等ニ溶解シ水及石油ニハ全ク溶ケズ鹽酸ヲ加フレバ紅色ヲ以テ溶解ス間歇熱ニ「ボンドック」〇、一〇、二〇「ボンドック」實末一、〇一、二〇ヲ毎日與ヘ效アリト云フ

○硼酸「グリセリン」 *Boroglycerin.*

本品ハ製後、放冷スレバ黃色透明ノ物質トナリ水ニ溶解シ酒精ニ僅ニ溶解シ依的兒ニ全ク溶ケス水溶液トナシ創傷ノ防腐療法ニ供用ス

○硼酸屈利設林加兒叟硝子機破碎シ易キ物質ニ引濕性アリ作量ノ水及酒精ニ溶解ス

○硼酸屈利設林那篤性狀前同如シ

此二品ノ應用ハ共ニ硼酸「グリセリン」ノ如シ

解熱劑

○硼砂溶液 *Borax-Lösung.*

本品ハ近時金屬製器械ヲ貯藏スルニ賞用セラル而シテ其已ニ鏽ヲ生シタル器械ニテモ此液中ニ浸スニ數週ニ及ヘバ再ヒ滑澤トナル

○抱水「ブローム」 *Bromalhydrat. CBr₃COH + H₂O.*

本品ハ無色中性反應アル針狀結晶ニシテ水ニ溶解ス鎮靜藥及鎮痙藥トシテ舞蹈病、癲癇等ニ〇、一〇、一〇ヲ一日數回用ユ

○抱水「ブチルクロラール」 *Butylchloralhydrat.*



性状 絹絲様光輝アル細小白色ノ結晶ニシテ一種固有ノ芳香及味アリ冷水ニハ溶ケ難キモ熱湯、酒精、依的兒ニ容易ニ溶解ス七十八度ニ溶解シ比重一、六九ナリ抱水格魯刺兒ニ類スル催睡藥ニシテ少量ハ其效確實ナラザルモ大量ハ知覺脫失ヲ起シ初メ頭部ヨリ軀幹及四肢ニ及ヒ遂ニ熟睡ス

應用 催睡、知覺麻痺、鎮靜藥トシテ用ヒ三又神經痛、齒痛、痙咳等ニ應用シベアツ氏ハ歇私的里性癲癇ニ於テ良效ヲ見タリト

用量 神經痛ニハ毎二時〇、一〇、四 催睡藥ニハ一、〇一、二、〇以上ヲ供ス

○「ホムアトロピネ」 *Homatropinum. C₁₀H₁₁NO₃.*

本品ハ油狀ノ物質ニシテ全ク純粹ナル「ホムアトロピネ」ハ無色稜柱狀ノ結晶ナリ

催眠及知覺麻痺劑

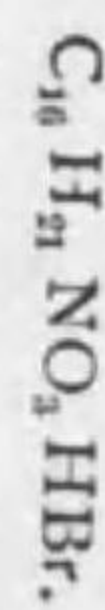
瞳孔散大劑

ホムアトロピネ 硼砂溶液 抱水プロモール 抱水ブチルクロラール ホムアトロピネ 七七

瞳孔散大劑

本品ハ亞篤魯必涅ノ散瞳作用アレモ大量ノ後始テ此作用現ハル、モ亞篤魯必涅ヨリハ速ニ消失ス本品ハ殆ト唯左ノ鹽類ヲ用ユルノミ

○貌魯謨水素酸「ホムアトロピネ」*H. Hydrobromicum.*



性状 本品ハ白色無臭ノ結晶様粉末ニシテ水ニ溶解シ易シ水溶液（一分水二十分）ハ「ラクムス」紙ヲ變色セス本品ハ鹽酸ヲ以テ酸性トナセル後單寧酸及格魯兒白金溶液ニ由リテ沈澱セズ之ニ沃度溶液ヲ加フレバ褐色、加里滴汁ヲ以テ僅ニ飽和スルキハ白色沈澱ヲ生ス本品ノ水溶液ニ硝酸銀溶液ヲ加フルキハ黃色ノ沈澱ヲ生ス本品〇、〇一ニ發烟硝酸五滴ヲ加ヘ重湯煎上ノ磁皿ニ於テ蒸發スルキハ微黃色ノ殘物ヲ殘留ス此殘物放冷シ酒精性加里滴汁ヲ注加スルキハ忽チ消散スル紫色ヲ呈ス最注意シテ貯フベシ

作用及應用 本品ノ作用ハ亞篤魯必涅ニ同シト雖モ之ニ比スレバ毒性少ク且其作用長ク持續セス本品ハ眼科ニ於テ散瞳藥トシテ殊ニ檢眼鏡検査ニ適ス點眼後十五分乃至半時ニシテ瞳孔散大シ一時間ノ後其極點ニ達シ約六時ノ後消失ス調節機麻痺ハ速ニ消散ス肺癆家ノ盜汗ニ對シテ稀ニ皮下注射或ハ内用ス

用量 散瞳藥トシテ點眼スルニハ一%ノ溶液ヲ用ヒ皮下注射或ハ内用ニハ〇、〇〇〇五—〇、〇〇一ヲ用ユ（極量一回〇、〇〇〇一、日〇、〇〇三）
○貌魯謨水素酸「ホムアトロピネ」〇、〇〇一
○貌魯謨水素酸「ホムアトロピネ」〇、〇〇一

〇二 餹水二、〇

右點眼料（瞳孔散大）

鹽酸「ホムアトロピネ」及撒里失爾酸「ホムアトロピネ」モ亦前者ト同ク應用セラル

○鹽酸「ホムアトロピネ」*H. Hydrochloricum.*

本品ハ白色結晶性粉末ニシテ水ニ容易ニ溶解ス眼科ニ供用ス

○鹽酸「ホムアトロピネ」〇、一 餹水一〇、〇

右點眼料

○「ホンチーン」*Hontin.* 膠化蛋白質

腸收斂藥

本品ハ灰白褐色無臭無味ノ粉末ニシテ水ニ溶ケス一部ハ酒精及亞兒加里ニ溶解ス本品ニ亞酸化鐵鹽ヲ加フルキハ黒藍色ヲ呈ス本品ニ酒精ヲ加フルキハ單寧析出セラレ酒精分蒸散シテ殘渣ヲ水中ニ溶解スルキハ膠質及蛋白沈澱セラル
本品ハ腸收斂藥トシテ賞用セラル胃中ニハ「タンナルピン」ヨリモ溶解スルヲ少シ用量ハ乳兒ニ一日三回〇、三—〇、六「大兒ニハ〇、五—一、〇」大人ニハ一日三乃至五回一、〇—二、〇ヲ投シ一日量一〇、〇トス

○「ホロカイン」*Holocain.*

性状 「ホロカイン」ハ「ベ、ジエトヲキシエテニールジフェニールアミジン」ニシテ「フェナチエチン」ト「ベ、フェチジン」ノ混合ニ由リテ得ル者ナリ本品ハ美麗ノ結晶性鹽基ニシテ水ニ

知覺麻酔劑

靨魯謨水素酸「ホムアトロピネ」 鹽酸「ホムアトロピネ」 ホンチーン ホロカイン

ハ溶解セズ百二十一度ニ溶解シ善ク結晶スル溶ケ難キ鹽類ヲ形成ス即チ白色針狀ノ結晶ヲ
ナセル鹽酸「ホロカイン」ハ沸湯ニハ容易ニ溶解スルモ冷水ニハ唯僅ニ二、五%溶解スルノ
ミ水溶液ハ微ニ苦味アリ中性反應ヲ呈シ煮沸スルモ變化セス時トノハ溶液ノ混濁スルヲ見
ルコアリ此混濁ハ硝子器屢、少量ノ遊離亞兒加里ヲ沸湯ニ與フルト此亞兒加里ニ由リテ不
溶性ノ「アミジン」鹽基ヲ遊離スルトニ因由ス硝子器ニ代テ陶器ヲ以テ煮沸スルキハ溶液全
ク澄明ナリ

作用及應用

グ、グットマン氏ハ本品ヲ眼科ニ於テ實驗セリ氏ハ三十回試用セシカ内
八回ハ健眼、十三回ハ角膜ノ異物、二回ハ角膜炎、七回ハ眼科手術ニ施セリ即チ一%ノ水溶
液三乃至五滴ヲ點眼スルキハ約半分時間持續スル輕キ灼熱ヲ覺ユルノ外他ノ刺戟症狀ヲ認
メス一分時ニノ角膜全ク知覺ヲ失ヒ其觸覺、痛覺及反射機廢絶セリ結膜ノ知覺脫失ハ角膜
ノ如ク完全ナラス知覺麻酔ノ時間ハ五分乃至十五分時ニノ平均九乃至十分ナリ此時間ハ更
ニ點眼スルニ由リテ延長スルヲ得ベシ角膜ハ知覺麻酔ノ全時間中ハ滋潤、滑澤ニシテ光輝ア
リ眼球内壓及調節機ハ變化ナシ此試驗ニ於テハ瞳孔ノ大小ハ變化セザリシモヒルシユベル
ク氏ハ一二回縮小スルヲ見タリト

本品ヲ炎症ノ眼目ニ用ユルモ亦知覺麻酔ヲ發シ既存ノ充血ハ亢進セスグットマン氏ハ本品
ヲ眼内異物ヲ除去スルニ用ヒシニ更ニ反射感受機ヲ呈セザリシ角膜潰瘍ノ電氣燒灼、角膜
白翳、斜視手術、軟性内障翳ノ手術ニ用ヒタルニ全ク痛ヲ覺エザリキ

本品ハ之ニ由リテ頗ル古加乙涅ニ優レリ殊ニ知覺麻酔ヲ發スルヲ速ナリ然レモ本品ノ應用
ハ毒性ノ大ナルカ爲メニ制限セサルヲ得ス〇、〇一ハ既ニ家兎ニ於テ劇甚ノ痙攣ヲ發スル
ヲ以テ手術ニ際シテ眼瞼ニ皮下注射シ又ハ淚管ニ注入スルニ用ユルヲ能ハサルナリ此目的
ニハグットマン氏ノ意見ニ從ヘハ「ライカイン」Bヲ宜シトセリ

醫學士山縣正雄氏(日本眼科學會雜誌第二卷第三號)ハ古加乙涅ト比較シ奏效速カナルカ故
ニ時間ニ利益アリト報告セリ即チ一%ノ液一乃至二滴ヲ點眼シ半分時乃至一時間ノ後奏效
アルヲ以テ異物除去、「トラホーム」ヲ排除等ニ宜シト云フ

○「ホベイン」Hopinum.

「ホベイン」ハ亞米利加ニ産スル葎ノ一種ヨリ製ス或ハ莫兒比涅ト同一物ナリト或ハ異ナリ
トシ未ダ確説ナシ藥學者ノ一問題トナレリ而シテイロー氏ハ「ホベイン」ヲ以テ動物試驗ヲ
施行セシニ興奮期短クシテ麻酔及ヒ睡眠ヲ起シ體溫、知覺等ニ變化ナク七八時ノ後醒覺セ
リ病者ニ試用スルニ良效ヲ具フル催眠藥ニシテ知覺麻酔藥ニアラス故ニ同氏ハ疼痛ニ起因
セサル不眠症ニ〇、〇二ヲ丸劑トナシ一回或ハ二回ニ服セシムルニ八乃至十時間最モ佳良
ノ睡眠ヲ取り醒後少シモ頭痛等ノ餘症ヲ殘スコナカリシト又メルケル氏ハ「ホベイン」ヲ胃
痛ニ用ヒタリシニ始メハ嘔吐、暖氣ニ苦ミタレモ其症忽チ止ミ二三日ニシテ消化シ易キ食
物ノ少量ヲ攝取スルニ好ク堪ヘ且ツ鼓脹症減シ自然ニ便通アリシ又同氏ハ慢性胃加答兒、
胃ノ圓形潰瘍、胃痛等ニ試用スルニ疼痛、膨滿共ニ消退セリト

○「ポドフィルリン」 Podophylin.

「ポドフィルリン」ハ黄色樹脂様脆弱ノ物質ニシテ水及依的兒ニ一部分溶解シ酒精ニ全溶ス峻下劑トシテ用ユルニ屢、輕キ痲痛ヲ起スヲ以テ少許ノ菲沃斯越幾斯或ハ葺荳越幾斯ヲ加ヘ一回ノ通利ヲ取ルニハ〇、〇五—〇、一ヲ用ヒ常習便秘ニハ〇、〇〇五—〇、〇二ヲ與ヘ小兒ニハ此半量ヲ投ス

○「ポドフィルロトキシシン」 Podophylotoxin.

「ポドフィルロトキシシン」ハ白色無形ノ粉末ニシテ熱湯、稀酒精、嘔囉仿謨、依的兒ニ溶解スルモ石油依的兒ニ溶ケズ本品ハ「ポドフィルム」根及「ポドフィルリン」ノ有效成分ニシテ本品二十乃至三十%ヲ含有ス毒性甚強キガ故ニ治療上不用ナリ用量ハ大人ニ向テ〇、〇〇一—〇、〇〇一五ナリ

○「ピクロポドフィルリン」

○「ポドフィルム、エモジ」此兩品ハ用ユルコト少キ不用品ナリ

○「ボゴノブス、フェブリフグス」(解熱劑ニ供ス)

○「ポリゴヌム、アフィクラーレ」(虎列刺ニ用ユ)

○「ポリゴヌム、ヒドロビペロイデス」(月經閉止ニ用ユ)

此三品ハ無用ノ品ナリ

○「ポリソルウエー」 Polysolue. (又「スルフォ、リチン」酸)

諸藥品ノ溶解劑

本品ハ五分ノ蓖麻子油ニ三十乃至四十分ノ硫酸ヲ注キ強ク放冷セシメ製ス茲ニ生セル舍利別様粘稠ノ物質ニシテ其放冷後微温ノ曹達液ヲ以テ中性トナシ全夜放置シ翌朝ニ至レバ鹽類様水様ノ滲汁ヨリ分離シ「スルフォ、リチン」酸曹達ヲ生スル者トス

性状 中性ノ稠厚舍利別様黄色ノ透明液ニシテ其緊要ノ性質ハ適宜ノ比例ニ於テ水ニ溶解シ且數多ノ不溶解及溶解シ難キ物質ニ向テ有力ノ溶解劑ナルニ在リ

應用 本品ハ數多ノ物質則チ「ザロール」「フェノール」「ナフトール」「クリソファン」酸、樟腦等ノ溶解劑ニシテ且其中ニ溶解セル物質ヲ伴フテ容易ニ動物膜ヲ透過スル性質アリ故ニ數多ノ藥劑ヲ外用スルニ當リ或ハ液劑、軟膏、硬膏、或ハ石鹼トナシ供用ス

○「ボンガミア、グラブラ」(癩麻質斯并ニ皮膚病ニ用ユ無用ノ品ナリ)

○「ポニア」(本品ノ根ノ乳液ヲ驅蟲劑トシテ用ユ)

○「ボウシシグアルチア」(止血藥トシテ本品ノ煎劑ヲ子宮出血ニ用ユ)

○「牡丹皮」 Peonia Moutan Ait.

藥學雜誌第七十七號ニ長井長義氏報告シテ曰ク牡丹皮ヨリ一新化合物ヲ發見シ「ペヲノール」 Peonol $C_9H_{10}O_2$ ト名ケタリ針狀ノ結晶ニシテ芳香ト辛味アリ古來同皮ハ痔疾、月經不順ニ用ヒタリ

○「ベベリン」 Beberinum. $C_{10}H_{12}NO_2 + 1\frac{1}{2}H_2O$

「ベベリン」ハ白色輕鬆ノ粉末ニシテ水ニ溶ケ難キモ酒精及依的兒ニ溶解シ苦味アリ強壯劑及

強壯兼解熱劑

ポドフィルリン ポドフィルロトキシシン 牡丹皮 ベベリン

解熱劑トノ屢治療上ニ應用シ規尼涅ノ良代用劑ナリ一日數回〇、〇五—〇、一ヲ散劑、丸劑或ハ溶液トス〇硫酸「ベベリン」ハ黃褐色ノ苦味アル粉末ニノ用法上ニ同シ

〇「ベラ」實 *Bela.*

本品ハ林檎大ノ球狀或ハ卵狀或ハ梨子狀ノ果實ニノ平滑堅硬ナル黃綠色ノ殼ト酸甘ノ味アル果肉六乃至十個ノ核ヲ有ス近時、赤痢及下痢ニ一回一、〇—三、五ヲ與フ

〇「ベラヘー」皮「マダガスカル」ニテ解熱劑トス

〇「ベスト」豫防接種

ハフキン氏ハ四人三百四十五名中百五十四名ニ注射シ其中五名發病セリ殘餘ノ注射ヲ受ケサル人員中八十二名發病セリト其後氏ハ千八百九十七年一月十日ヨリ五月六日ニ至ルマテ一萬千三百六十二人ニ注射シ内四十五人發病シ十二人死亡者ヲ出セリ助手ボイアレス氏ハ千六百四十五人ニ注射シ九十人發病シ三十五人ノ死亡者ヲ出セリ氏ノ實驗ニ由レバ強反應アル者ハ發病少ナク反應弱キ者ハ發病多カリシト云ヘリ

製法。牛酪ヲ混シタル肉羹汁培養基ニ強毒ノ「ベスト」菌ヲ移植シ時々振盪シテ三十度ヲ保テル孵卵器ニ置クヲ三十日之ヲ振盪シテ平等ニ混合シ試験管ニ入レ火熱ヲ以テ試験管ノ上部ヲ熔合シ之ヲ七十度ノ溫ニテ殺菌スルヲ一時間ニシテ次テ用ニ供ス時トシテハ之ニ〇、二五%ノ石炭酸ヲ加用ス

注射量。大人一回三乃至三十五立方仙迷、婦人ニハ二乃至二、五立方仙迷、小兒ニハ一歳ノ

モノニハ十分一—二歳ヲ増ス毎二十分一立方仙迷宛ヲ加ヘ十歳ノ者ニハ一立方仙迷トス用法。注射部ハ上膊ヲ可トナシ十日後ニ第二回ノ注射ヲ賞用セリ

○東京醫科大學助教授醫學士横手千代之助及北豐吉ノ兩氏ハ明治三十三年大坂ニ「ベスト」發生ノ際六十名ニ注射シタル成績ヲ東京醫學會雜誌第十四卷第十四號ニ報告シテ曰ク(一)局所反應。注射部ノ腫脹、紅色、疼痛、痒感(稀ニ)同側腋窩腺ノ腫脹疼痛(二)全身反應。頭痛、惡寒、發熱、發汗、違和、倦怠、不快、食慾缺損、胸内苦悶、嘔吐、嘔氣、蕁麻疹、蛋白尿(僅少ノ)等ナリ此等ノ症狀ハ多クハ二三日ニシテ去リ稀ニ一週間ニ瀰ルヲアリシモ危險ノ症狀ヲ發シタル者一人モナシ氏ノ結論ニ由レバ本法ハ奏效未タ確實ナラサルモ然カモ之カ爲メニ危害ヲ來スコナケレバ益々試用シテ其效果ヲ決定スヘキヲ論セリ

〇「ベルラドンニン」 *Belladonninum.*

純粹ノ「ベルラドンニン」ハ無色無形護謨狀質ニシテ微苦苛烈燥樣ノ味アリ亞兒加里反應ヲ呈シ水ニ溶ケズ瞳孔散大ノ效用アルモ唯稀ニ用フルノミ

〇「ベントニアヒツド」 *Benzanthion. C₉H₉NH₂CO₂C₆H₅.*

本品ハ白色結晶狀粉末ニシテ水ニ溶ケス依的兒ニ溶ケ難ク五十八分ノ冷酒精及七分ノ熱酒精ニ溶解スカーン氏ハ解熱劑トシ殊ニ小兒科ニ賞用シ肺炎、腦膜炎、肺癆、氣管枝炎等ニ用ヒ其效、安知歌貌林ノ如シ虛脫及蒼青症ハ經驗セズ

小兒ノ一回量〇、一—〇、四トシ大人ニハ〇、六—一、〇ニシテ一日極量三、二トス久用スレバ

解熱劑

ベラ實 ハスト豫防接種

ベルラドンニン ベントニアヒツド

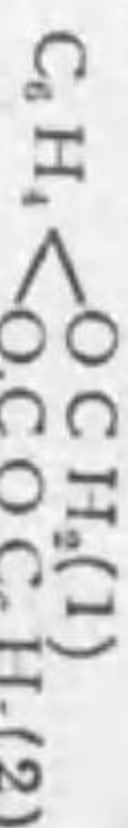
肺癆藥

身體ニ習慣スルヲ以テ大量ヲ與フ可キニ至ル

○「ペンツオイン」(下脚潰瘍ニ軟膏トシ用フ)

○「ペンツオバラクレソール」(防腐藥)

○「ペンツオソール」Benzosol. (安息香酸「グアヤコール」及「ペンツオイルグアヤコール」)



性状 本品ハ純粹ノ「グアヤコール」ト安息香酸ノ抱合物ニシテ無色無臭無味ノ結晶様粉末ヲナシ其溶解點ハ五十度ニシテ水ニ全ク溶ケス。嘔囉仿謨、依的兒、熱酒精ニ容易ニ溶解ス。胃腸ニ至レバ忽チ分解シ「グアヤコール」及安息香酸トナル。此液ハ一部已ニ胃中ニ吸收セラレ、モ主トシテ小腸ニ於テ吸收セラレ

應用 ブシャール及ゾンメルブロード氏ガ肺癆療法ニ結麗阿曹篤ヲ用ヒタル以來、其有效成分ハ「グアヤコール」ナルヲ知レリ。然ルニ「グアヤコール」ハ其味不良ナルト不純ノ「クレソール」ノ局所刺戟作用アルヲ免レス。爲メニ胃ノ障礙ヲ起スヲアリ故ニボンガルツ氏ハ之ヨリ「ペンツオソール」ヲ製シ其不快症ヲ免ル可ク且有害ノ混合物ト不良ノ臭味ヲ脱却スルヲ得、且結麗阿曹篤則チ「グアヤコール」ノ良效ヲ奏スルヲ得タリ。「ペンツオソール」ハ胃液ニ由リ漸次分解セラレ「グアヤコール」ノ腐蝕作用ヲ甚ク減少ス。「ワルツエル氏」ニ由レバ「ペンツオソール」ハ分解シテ安息香酸及「グアヤコール」トナリ此兩物ハ胃腸中ニ於テ甚速ニ吸收セラレ半時ノ後已ニ「グアヤコール」ハ尿中及唾液ニ出ルヲ以テ格魯兒鐵(赤褐色)ニ

由リ證明スベシ

用量 本品ハ薄荷油糖ヲ以テ散劑トシ或ハ柯々阿及砂糖ヲ以テ丸劑トナシ一日三回食後

○、二五ヲ與ヘ増量ノ一日三回○、八ニ至ル可シ此量ハ結麗阿曹篤一、五ニ適應ス。グットマン氏ニ從ヘハ一日一、〇ヲ服スレバ結核桿菌ノ發育ヲ制止スト云ヘリ



本品ハ白色結晶性無臭無味ノ粉末ニシテ水ニ殆ト溶解セズ酒精及嘔囉仿謨ニ容易ニ溶解スルモ依的兒ニハ溶ケ難シ

本品ヲ内用スルキハ變化セズ胃中ヲ通過シ腸中ニ至リテ「ペンツオエ」酸及「ナフトール」トナル。本品ハ腸内ノ防腐藥トシテ「ナフトール」或ハ「ベトール」ニ代用ス。又老人瘡癬ニ用ユ○、五ヲ散劑トナシ「ラブラート」ニ包ミ用ユ一日量五、〇ナリ小兒ニハ一日二、〇トス

○「ペンツオフェノナイド」(百倍ノ水溶液ヲ角膜化膿、角膜炎ニ用ユ)
○「ペンツオイルライゲノール」Benzoylengentol. 「ペンツオイル」酸「ライゲノール」

防腐藥

本品ハ無色無臭ノ針狀結晶ニシテ弱苦味アリ溶解點ハ七十度五分ナリ水ニ溶ケ難ク熱酒精、嘔囉仿謨、依的兒及「アチエトン」ニ溶ケ易シ

本品ハ「ライゲノール」ニ代用シテ治療上ニ用ヒラル、防腐藥ニシテ「フェノール」及「グアヤコール」ノ如キ性質アリ「グアヤコール」ノ如ク結核ニ用ヒラル其用法ハ「ペンツオソール」ニ於ケルト同シ

「ペンツオソール」 「ペンツオオナフトール」 「ペンツオイルライゲノール」

○「ペンツアチエチン」 Benacetinum 「アチエチン」
 サリチル酸
 本品ハ水ニ溶ケ難キ無色ノ結晶ニシテ酒精ニ溶ケ易シライス氏ハ神經痛其他興奮症、不眠(神經性、歇私的里性、貧血性婦人ノ)ニ一日二回乃至三回〇、五—一、〇ヲ「ラブラート」ニテ服セシム

○「ペンツアチエチン」一〇、五 咖啡混〇、九 枸橼酸〇、六
 右爲十包、「ラブラート」ニテ一日一二包服用

○「ペンツオヨドセドリン」 Benzoydhydrin.

本品ハ觸ル、キハ脂肪様感アル結晶ニシテ依的兒、酒精、嘔囉仿謨ニ溶解スヘナル氏ハ本品ヲ沃度加里ニ代用セリ蓋シ毫モ沃度中毒ヲ起サス沃剝ヨリモ少量ニシテ同作用ヲ營メバナリ一回量〇、一三ニシテ此中ニハ沃度〇、〇五安息香酸〇、〇五及格魯兒〇、〇一四ヲ含ミ沃度加里一、〇ニ適應ス

○「ペンツマイル」莫兒比涅 Benzyl-morphinum.

本品ハ光輝アル稜柱狀結晶ニシテ水ニ溶ケス酒精、依的兒ニ溶ケ易シ莫兒比涅ヨリ著シク強キ麻醉作用アリテ而モ其不快ナル副作用ナシ

○「ペンツオイルアミドフニール」醋酸(腸ノ消毒劑)

○「ペンツオイレクゴニン」(咖啡混ニ類セル效アリ)

○「ベルベリス、アキイフオリア」 Berberis aquifolia.

解熱兼強壯

此植物根ヨリ製セル流動越幾斯ヲ強壯及變質藥トシ梅毒、鱗屑疹等ノ皮膚病ニ〇、五—三、〇ヲ一日四回服用セシム

○「ベルベリン」 Berberin. $C_{20}H_{17}NO_4 + 4\frac{1}{2}H_2O$.

性狀、應用 黄色細微ノ針狀結晶ニシテ無臭、強苦味アリ冷水、冷酒精ニ溶ケ難ク熱湯及熱酒精ニ溶解ス百二十度ニ溶解ノ樹脂様質トナリ高温ニ於テハ分解シ中性反應ヲ呈ス

(イ)鹽酸「ベルベリン」 Berberinum hydrochloricum $C_{20}H_{17}NO_4 \cdot HCl + 2\frac{1}{2}H_2O$.

性狀 本品ハ黄色細針狀ノ結晶狀粉末ニシテ甚シキ苦味アリ冷水六十乃至八十分ニ溶解シ熱湯及酒精ニ溶解シ易シ

作用及應用 本品ハ苦味劑ノ作用アリ血管收縮ヲ起シ脾及腸管ノ收縮ヲ確定シ又動物ニ於テ子宮收縮ヲ來タス

本品ハ苦味健胃劑及強壯劑トシ消化不良、熱性病後ノ恢復期、慢性腸加答兒及赤痢ニ用ヒ又間歇熱(伊太利ニ於テ)及脾腫ニ賞用シ近時ハ女子生殖器ノ出血、妊婦ノ嘔吐ニ用ユ

用量 〇、〇三—〇、〇五ヲ一日數回水兼酒精溶液トシ用ユ

(ロ)磷酸「ベルベリン」 B. phosphoricum. $C_{20}H_{17}NO_4 \cdot 2H_3PO_4$

本品ハ黄色ノ強苦味アル結晶狀粉末ニシテ冷水一〇、四三分ニ溶解シ稀酒精ニ稍溶ケ難ク依的兒及嘔囉仿謨ニ溶解セズ水ニ溶解シ易キヲ以テ前者ニ代用セラル〇、〇三—〇、〇五ヲ一日數回丸劑或ハ溶劑トナス

ペンツアチエチン ベンツオヨドセドリン ベンツマイル莫兒比涅 ベルベリスアキイフオリア

(ハ) 枸橼酸「ベルベリン」

(ニ) 硫酸「ベルベリン」

○「ベツリン」及「リスツリン」 *Betulin u. Lactulin.*

本品ハ無臭及無味ノ物ニシテ水ニ溶ケス酸類及鹽基ト化合セズ酒精ニ溶ケ難キモ依的兒、的列並底油、扁桃油ニ容易ニ溶解ス本品ハ「リスツリン、フェイルメツドリント」(無水焦性「ベツリン」ヲ被包シタル布片)「ボロリスツリン」(微細ナル硼酸末ト無水焦性「ベツリン」トノ混合物)油質物即チ華攝林或ハ「ラノリン」ト混和シテ軟膏トナシ用ユ

○「ベテール」 (芳香性興奮藥ナリ)

○「ベテール」油(防腐劑トシテ實布匠里等ニ含嗽セシム一滴水百瓦外用)

○「ヘトクレソール」 *Helokresol.* 桂皮酸「メタクレソール」

本品ハ白色乃至微黄色無毒性ノ結晶性粉末ニシテ水ニ溶解セズ熱酒精、「ペンツツアール」、嘔囉仿謨、氷醋ニ溶解ス本品ニ加里滴汁ヲ加ヘテ煮沸スルキハ桂皮酸及「メタクレソール」ニ分解ス

本品ハランデーレル氏等ハ結核ノ外科的療法ニ用ヒタリ用法ハ口内ヨリ吹入シ或ハ溶液トナシテ噴霧セシメテ用ユ(一分ヲ十乃至二十分ノ溶液)局所ニ注入スルニハ嘔囉仿謨ニ浮ヘテ(一乃至二分ヲ水一乃至八分ニ加フ)毎週一回乃至二回〇、五—一立方仙迷ヲ注射ス

○「ヘトール」 *Hehol.* 桂皮酸那那留酸

肺結核藥

本品ハ白色結晶性粉末ニシテ水ニ溶解ス本品ハランデーレル氏ガ結核ニ對シテ靜脈内注射ニ賞用シタル所ナリ又關節腔内及腎筋内ニモ注射スクロキウイツ氏ニ由レバ靜脈内注射ハ概シテ唯肺結核ノ最初期ニ賞用スベク且唯少量ニシテ〇、〇〇〇五ヲ以テ始メ三四日ヲ隔テ、注射シ最多キモ〇、〇〇五ヲ限リトス其間體重減少シ熱候等ノ如キ他ノ副症狀現ル、キハ全ク中止スベシ

醫學士村田豐作氏ハ東京醫學會雜誌第十五卷第七號ニ「ヘトール」療法論理ノ梗概ヲ述ヘ明治三十三年十一月ヨリ三十四年二月ノ間鹿兒島病院ニ於テ靜脈内注射ヲ施行セル六十七人ノ患者中十四回以上ノ注入ヲ受ケタル入院外來四十四名ノ治驗ニ就テ其效果ノ概略ヲ豫報セリ約言スレバ「ヘトール」療法ハ結核療法中有效ナル一療法ニシテ慢性輕症者及初期輕症者ニ向テハ從來諸多ノ療法ニ卓越スト云フニ在リ然レモ末期衰弱者若クハ混合傳染著明ナル症ニハ一層増悪ヲ急速ナラシムト

「ドクトル」松山陽太郎氏ハ東京醫學會雜誌第十五卷第十一號ニ於テ結核患者ノ「ヘトール」靜脈内注入ヲ行ヒ良效(八十%以上)アルヲ報セリ即チ歴史、理論、局所症狀、一般症狀、體溫、體重、「ジアツツ」反應ノ關係ヲ論述シ左ノ結論ヲナセリ(一)注射局部ニ疼痛ナク局所症狀殆トナシ(二)注射時全身ニ著明ノ變化ナシ(三)發熱患者ニ施スヲ得(四)發熱徐々ニ下降スルヲアリ(五)無熱患者ニ施スモ毫モ體溫ニ影響ナシ(六)體重常ニ増加ス(七)自覺症狀頓ニ恢復シ咳嗽喀痰減少ス(八)尿中「ジアツツ」反應消失ス(九)咯血、月經時ニ於テハ一時中

ベツリン及リスツリン ヘトクレソール ヘトール

止スヘキヲ

其他本品ニ就テハ賛否ノ論未タ歸著セス醫學士佐藤勤也氏ハ好生館ニ於テ實驗セル成績ヲ好生館醫事研究會雜誌第八卷第五六號ニ報告シ「ドクトル」緒方銈次郎氏ハ大坂醫學會雜誌第一卷第三號ニ又福岡病院ノ春野廉平氏ハ杏林ノ葉第十四卷第三號ニ報告セリ

劑腐兼解熱

○「ベトール」又「ナフタロール」 C6H4(OH)COOC6H5

性状 「ベトール」ノ純粹ノ者ハ白色光輝アル結晶ヨリ成レル粉末ニシテ臭味共ニ存セス九十五度ニ溶解シ冷水及温湯ニ溶ケ易カラス屈利設林ニハ溶解セス冷酒精及冷「テレペン」油ニ溶解シ難キモ沸騰酒精及依的兒「ペンツオール」并ニ熱胡麻油ニハ溶解シ易シ

應用 「ベトール」ハ防腐及解熱劑ニシテ甚タ「ザロール」ニ近キ者トス不快ノ副作用ナク種種ノ膀胱加答兒殊ニ淋疾性膀胱炎ニシテ尿ノ亞兒加里性分解アル者ニ宜シク腸加答兒又急性關節僂麻質斯ニ良效アリ種々ノ腸中腐敗症ニ效アリ

用量 内用ニハ一日四回〇.三—〇.四(丸劑、散劑)ヲ急性關節僂麻質斯ニ用ヒ外用ニハ淋疾ニ一分ノ「ベトール」及四分ノ柯々阿酪ノ尿道挿入薬トナシ用ユ

○「ベトール」 C10H10O 白糖三、〇

右爲十包一日四回一包(膀胱炎、急性關節僂麻質斯)

○「ペンタール」 C5H10

知覺麻酔藥

性状 本品ハ無色ノ揮發シ易ク且頗ル發火シ易キ流動液ニシテ偏陣ニ似タル臭氣アレシク

シク竄透性ニシテ芥子油ニ似タル所アリ比重ハ零度ニ於テハ〇.六七九ニシテ沸騰點ハ攝氏三十七乃至三十八度ナリ水ニハ殆ント溶サレモ嘔囉仿謨或ハ依的兒ニハ種々ノ比例ニ於テ混合スヘク九十%ノ酒精ニモ亦然リ本品ハ沃度ニ遇ヘハ覆盆子様紅色ヲ呈ス

應用 本品ハ小手術ニ於テ知覺麻酔劑トシテ吸入セシムルニ凡一分間ニシテ麻酔ヲ來シ不快ノ症狀ト續發症狀ヲ招來セス心臟機能、呼吸ニハ影響セス又麻酔ヲ發セシムルニハ大人ニ於テハ十五乃至二十五立方仙迷ヲ要ス之ヲ用ユルニ當リテ本品ハ揮散シ易キヲ以テ吸入覆面ニ氷様結晶ヲ生スルカ故ニ注意スヘシ

近時「ペンタール」ヲ用ヒ爲メニ數回死亡ニ陥レルヲ見タリ是レ蓋シ心臟病或ハ知覺脫失過度ニ歸スル者ナレモ要スルニ受術者ニ用ユルニハ須ク謹慎スベシ

甚大ナラサル器ニ入レ善ク密栓シ冷處ニ貯フベシ日光ヲ防遮スルヲ要セザレモ本品ハ失火ノ恐アルヲ以テ注意ヲ加フベシ

○「ヘドナル」 C10H16O

催睡藥

本品ハ無色ノ結晶ニシテ冷水ニハ殆ト溶ケス熱湯ニ溶ケ易シ本品ハ水溶液ヲ加ヘ煮沸ス可ラズ是レ水蒸氣ト化合シテ揮發スレバナリ本品ノ溶液ハ薄荷様ノ味アリ本品ハ催睡藥トシテ賞用セラル殊ニ精神病科ニ於テ鬱癡狂、癡狂、歇私的里狂、酒客譫妄、慢性酒毒症、麻痺狂等ニ一、五—二、〇ヲ與フ本品二、〇ハ格魯拉兒亞密度二、〇或ハ「トリヲナル」一、〇ニ適應ス本品ハ「エチールウレタン」ヨリ十倍有力ニシテ同時ニ利尿ノ效アリ其他古加乙涅中毒ノ解

ベトール又ナフタロール ペンタール ヘドナル

毒劑タリ本品ハ乾燥ノ粉末ヲ「アブラート」ニ包ミテ投スルヲ最良トス

東京大學藥物學教室ニ於テ醫學得業士久保收氏ハ「ヘドナル」ヲ動物試驗ニ徴シ抱水格魯
拉兒「スルフオナル」等ニ比シテ其優劣ヲ論セリ要スルニ本品ハ實地上催眠藥トシテ應
用スルモ決シテ危險ナシト云ヘリ全文ハ東京醫學會雜誌第十六卷第一號ニ在リ

○「ヘドナル」一〇、〇 酒精五〇、〇

○「ヘドナル」六、〇 稀酒精 桂皮舍各

水二五、〇 橙皮舍七〇、〇 茴香油二

三〇、〇 「カルウイー」油二滴

滴

右一食匙「ヘドナル」一、五ニ應

右臨時必要ニ臨ミ一二食匙ヲ半杯ノ

ス）宛

水ニ加用ス（一食匙ハ「ヘドナル」

一、〇ニ應ス）

○「ヘルコソール」 Helcosol. 無性没食子酸苺鉛

本品ハ帶綠黃色無臭無味ノ粉末ニシテ水、酒精、依的兒ニハ溶解セサルモ酸類ニハ溶解ス
本品ハ消毒藥トシテ腸胃ノ傳染病、種々ノ皮膚病等ニ〇、三—一、〇ヲ散、丸トナシ用ユ

○「ベエルハウイア、ジッファーザ」 (利尿、下泄、健胃劑一日量六〇、〇浸劑)

○「ヘドウイギア、バルサミフェラ」 (南米地方ノ利尿劑又創傷劑)

○「ヘリアンツス、アヌス」 (解熱劑)

○「ヘリクテレス、イソラ」 (鼓脹驅風劑)

○「ヘリチナ」 (肺癆藥)

○「ヘバチカ、トリロバ」 (收斂兼強壯劑)

○「ヘラクレウム、ラナーツム」 (癩劑)

○「ヘルニアリア、グラブラ」草 (利尿劑)

○「ヘアジン」 (頭痛ニ用ユ)

○「ヘモスタート」 Haemostat.

鮮血靜止劑

本品ハ安息香酸加豚脂、硫酸規尼混、純單寧酸ヨリ成ル軟膏ニシテ「ドクトル」キムミツヒ氏等
ガ鼻出血ノ即時鎮止劑トシテ熱心ニ賞用セル所ナリ(皮膚ニ擦入ス)又鼻出血再發ノ豫防劑
トス之ヲ用ユルニハ鼻翼、鼻背即チ眉間及眉毛部ニ丁寧ニ此軟膏ヲ擦入スルニ在リ然レモ
之ヲ眼目及鼻孔ニ竄入セシム可ラス

○「ヘモトロフィン」製劑 Haemotrophin-Präparat.

滋養強壯劑

本品ハ牛血ヨリ製シタル者ニシテ變形セサル狀況ニ於テ血液ノ「ヘモグロビン」其他蛋白質及
鹽類ヲ含有ス本品ハ適當ノ殺菌法ヲ行ヒ「コンニヤツク」酒ヲ加フルニ由リテ閉鎖並ニ開口
シタル壘中ニ長ク貯フルヲ得ベシ鐵ハ〇、〇五%ヲ含ム(夏ハ穴倉、冬ハ熱セサル室内ニ貯
藏スベシ)

(一)純「ヘモトロフィン」 滋養強壯劑トシテ恢復期患者、營養不良ノ小兒、肺癆家ニ與フ
大人ニハ一日三回一五、〇—二〇、〇宛、小兒ニハ其半量ヲ或ハ稀釋セス或ハ隨意ノ飲料

ニ加用ス食前一時ニ用ユルヲ最良トス消化障礙アルルハ食後暫時ニ投ス
(二)含鐵「ヘモトロフィン」
「ヘモトロフィン」ト有機性鐵鹽類トノ化合物ニシテ糖ヲ加ヘタル液ナリ貧血及他ノ衰弱状態ニ投ス大人ニハ一日三回一食匙宛、小兒ニハ一茶匙宛食後ニ與フ

其他「ヘモトロフィン」ハ左ノ諸藥ト伍用セラル

結核ニハ「グアヤコール」劑○神經衰弱ニハ屈利設林磷酸鹽○頑固ノ萎黃病、腺病、結核、間歇熱、皮膚病ニハ砒石○腺病、梅毒、水銀中毒等ニハ沃度ト伍用セラル

○「ヘレン」 Helennium. $C_6H_{10}O$.

「ヘレン」ハ土木香ノ根ヨリ製セル白色針狀ノ結晶ニシテ酒精、依的兒、脂油ニ溶解シ水ニ溶ケズ防腐藥ニシテ氣管枝炎、癆咳、麻刺利亞、結核、加答兒性下痢等ニ用ヒ又實布垚里ニ效アリ一回量〇、〇一ヲ用ヒ一日量〇、一〇、二ナリ

○「ヘルレボリン」 Helleborinum. $C_{20}H_{14}O_{11}$.

性狀應用 無色針狀ノ結晶ニシテ水ニ溶ケ易ク僅ニ酒精ニ溶ケ依的兒ニ溶ケズ心臟病ニ於テ實麥答利斯ノ代用トシ丸劑ヲ用ヒ或ハ皮下注射シ近時ウエントリニ一氏ハ眼科手術ニ本品ヲ用ヒタリ是レ唯角膜ノミヲ知覺脫失セシメ其他ノ部分ハ感受性ヲ存スルヲ以テ古加乙涅ニ優レリ而シテ知覺脫失ハ古加乙涅ヨリモ長ク持續シ毫モ瞳孔ニ變狀ヲ呈セズ内用ニハ一日四乃至五回〇、〇一〇、〇二ヲ用ヒ一日極量〇、一ナリ

知覺麻酔藥

○「ヘリヲトロピン」 Heliotropinum.

本品ハ「ボルトリコ」、印度、交趾支那等ニ産スル植物ニシテ此植物ノ液汁ヲ癰腫及脾脫疽癰ヲ吸收セシムルニ用ヒ阿布答及咽頭潰瘍ノ特效劑トナスモノアリ

○「ヘンミトール」 Henmiol.

本品ハ「ウロトロピン」ト無水「メチーレン」枸橼酸トノ化合物ニシテ其奏效作用ハ「フォルムアルデヒット」ノ分解ニ由ルナリ枸橼酸ノ如キ味アリ水ニ溶ケ易シ本品ハ副作用少ナク腎臟モ能ク之ニ堪ユ尿中ノ遊離「フォルムアルデヒット」ノ存在ハ「フロログルチン」溶液ニテ檢スルヲ得(十立方仙迷ノ尿中ニ「フロログルチン」溶液數滴ヲ加ヘ振盪シテ後チ二立方仙迷ノ加里滴汁ヲ注ケバ微褐色ヲ呈ス)

本品ハ淋疾、膀胱加答兒、慢性攝護腺炎等ニ應用ス一回量一、〇一、五ニシテ一日三、〇一四、〇トス

○「ヘロイン」 Heroin. (二)醋酸莫兒比涅) $C_{17}H_{17}NO(C_2H_3O_2)_2$.

性狀 本品ハ白色結晶性無臭ノ粉末ニシテ苦味ト亞兒加里性反應トアリ水、冷酒精、油ニ溶解セサルモ酸性トナセル水、熱酒精、嘔囉仿謨、「ベンツアル」ニ溶解シ依的兒ニ溶ケ難シ本品ニ強硫酸ヲ加フルモ無色ナルベシ之ニ一滴ノ硝酸ヲ加フルニ帶黃紅色ヲ呈シ熱スルハ血紅色ニ變ス本品ニ強硫酸ト一滴ノ格魯兒鐵液ヲ加フルハ帶藍綠色ヲ呈ス
作用 莫兒比涅ノ作用ヲ及ボスハ各個ノ一臟器ニ限局セスト雖モ「ヘロイン」ハ主トシテ

ヘレン ヘルレボリン ヘリヲトロピン ヘルミトール ヘロイン

其作用ヲ呼吸器ニ及ホスノ性質ヲ具フル者タリ即チ之ニ由リテ呼吸ノ休歇及吸氣ノ持續ヲ延長シ呼吸運動ノ力ヲ増強シ全身ニ向テ大ニ筋肉ヲシテ休息セシムル者トス此鎮靜作用ニ由リテ「ヘロイン」ハ莫兒比涅ニ均シク酸素ノ需要ヲ減少ス是ヲ以テ本品ハ肺癆并ニ氣管枝喘息ニ賞用セラル、所以ナリトス「ヘロイン」ハ便秘ヲ起サズ又莫兒比涅ニ比スレバ動脈血壓ニ影響スルコト少シ且之ヨリモ頗ル強ク體溫減降ノ作用ヲ具フ而シテ大量ノ古達乙涅ニ於テ見ル所ノ痙攣作用ノ如キハ比較的ニ大量ノ「ヘロイン」ニ由リテ發スルコトアルノミ

應用 レヲ氏ハ本品ノ治療的效力ヲ評シク曰ク「ヘロイン」ノ呼吸機ニ及ホス作用ハ恰モ實、麥答利斯ノ心臟ニ及ホス作用ニ比スルヲ得ベシト即チ實、麥答利斯ガ代價機ヲ失ヘル心臟機能ヲ善ク整理シテ脈搏ヲ減少シ同時ニ心臟力ヲ増強スルカ如ク「ヘロイン」モ亦機能不全ナル肺臟ヲ能ク整正且増強ヲ期スルヲ得セシム故ニドレーゼル氏ハ種々ノ呼吸器病ニ賞用スルヲ得ベシト稱セリ

概シテ「ヘロイン」ハ許多ノ場合ニ忽チ卓越ナル鎮咳作用アリ遲クモ半時間ノ後ニ至レバ奏效ス此特效作用ハ殊ニ氣管枝炎、咽頭炎、喉頭炎、呼吸困難、肺加答兒ニ於テ現ハル、者トス（ストルーベ、ワイス、レラーフローレット、ホルトカムプ、ツルナウエル、メーデア、マイエル氏等）
急性喉頭炎及氣管枝炎ニ於テ劇咳ノ爲メ夜間安眠ヲ妨ケラル、者及神經性不眠ニ於テハ爽快ノ睡眠ヲ得セシム

流行性感冒及瘧疾ニモ亦本品ハ著シク咳嗽刺戟ヲ減ジ且疼痛ヲ緩解ス本品ノ鎮痛作用ハ婦人科（月經痛、子宮周圍炎）ニモ賞用スベシ又莫兒比涅ニ代用シテ皮下注射トナスニ宜シ其他肋膜炎、胃痛、坐骨神經痛、筋痙攣質斯、一般神經敏過患者ニ於テモ之ヲ投ス尙左記諸症ニ就テ詳論セン即チ乾性氣管枝炎ニ於テ本品ヲ投スルトキハ祛痰大ニ容易トナル是レドレーゼル氏ノ説ニ由レバ呼吸筋ノ働作力ヲ催進スルニ由ルト云ヘリ

慢性氣管枝炎ニシテ屢屢肺氣腫ヲ兼スル者ニ於テハ急性炎ニ於ケルカ如ク著效アラスト雖少クモ莫兒比涅及古達乙涅トノ效力ニ同シ此患者ノ高齡者ノ多數ニ於テハ〇、〇〇五—〇、〇〇一ヲ以テ良效ヲ收メ又七十一歳ノ重症肺氣腫家ニシテ強劇ノ咳嗽、呼吸困難、苦悶等ヲ訴ヘシ者ニ一日數回古達乙涅ヲ用フレ殆ト効力ナク莫兒比涅ハ少量ニ於テモ堪ヘ難ク眩暈及惡心ヲ起セシガ「ヘロイン」〇、〇〇一ヲ三回乃至四回供用セシモ副作用ヲ呈セス著ク輕快セリ肺癆ノ初起及稍増進シタ者ニ於テフロレット氏ハ本品ト炭酸「グアヤコール」トノ散劑（炭酸「グアヤコール」〇、五「ヘロイン」〇、〇〇五—〇、〇〇一ヲ一包トナシ一日三四回一包宛）ヲ用ヒ良效ヲ得タリ則チ全身調和佳良トナリ自覺症消散シ他覺的肺變狀ノ著シク減退スルヲ見タリ盜汗モ減退セシガ「ヘロイン」ノ此解熱作用ハ通常解熱劑ノ作用ニ於ケルカ如ク體溫奪却ノ増加ニ由ル者ニアラスノ本品ハ酸素ノ需要ヲ減制シテ溫産出減少スルニ在リ氣管枝喘息ニ於テモ「ヘロイン」ハ發作ノ度數、持續及強度ヲ著シク減少スルヲ見ル瘧疾ニ於テモ之ニ似タル良效アリ第三歳、四歳及八歳ノ患兒ノ著明ナル痙攣期ニ〇、〇〇一

五〇〇、〇〇五ヲ一日數回供用セリ「ヘロイン」ノ投劑後發作著シク稀疎トナリ且微弱ニ赴キ全身調和頗ル佳良トナリ毎夕發熱セシ患兒モ本品ノ服後忽チ解熱セリ凡テ小兒ハ「ヘロイン」ニハ能ク堪ユレモ不良ノ副作用ノ痕跡ヲ起スコナシ

流行性感冒ニ併發シ若クハ續發セル呼吸器病ニ於テモ良效ヲ奏スルヲ認ム即チフロレツト氏ハ流行性感冒三十二例中(其二十二例ハ氣管枝加答兒ヲ兼ネ六例ハ肋間神經痛、二例ハ乾性肋膜炎、一例ハ滲出性肋膜炎、一例ハ氣管枝肺炎ヲ兼ネタリ)ニ於テ本品〇、〇〇五ヲ「ザロフエン」一、〇ト配伍シ散劑トナシ一日數回投劑セシニ顯著ノ自覺症輕快シ熱度速ニ常溫ニ降リ疾患ノ持續頗ル短縮セリ

「ドクトル」カール、ミルトル氏ハ本品ヲ子宮周圍炎及其附屬器病ノ疼痛ヲ緩解スルカ爲メニ左ノ溶液ニ綿球ヲ浸シテ外用シタリ「ヘロイン」一、〇ヲ餛水五〇、〇ニ溶シ醋酸少許ト屈利設林九五〇、〇ヲ加フ近時ハ水及屈利設林ニ善ク溶解スル鹽酸「ヘロイン」ヲ用フ則チ此溶液一〇、〇一五、〇ヲ綿球ニ浸漬セシムベシ(故ニ〇、〇一〇、〇一五)此用法ニ於テハ本品ニハ甚善ク堪フルノミナラズ頗ル良效ヲ奏セリ唯新發ノ喇叭管炎ノ甚劇痛アル片ニハ六百倍ノ溶液即チ每綿球ニ「ヘロイン」〇、〇一五一〇、〇二五ヲ浸シタル者ニノ始テ效ヲ奏シタリ

有馬才三氏ハミルトル氏ニ從ヒテ子宮外膜炎性疼痛、子宮癌ノ疼痛等ニ千倍ノ鹽酸「ヘロイン」屈利設林ヲ製シ此液一〇、〇ヲ一回量トシ一日一回栓塞シタルニ皆疼痛緩解セリ或患者

中毒ノ例

ニハ數週間反覆持長シタルモ副作用ヲ起セシ者ナカリシト(産科婦人科雜誌第五卷第一冊)本品ハ莫兒比涅ニ於テ認ムルカ如キ不良ノ副作用(惡心、嘔吐、食思缺乏、便秘等)ヲ呈スル「ナシマンダス」氏ハ唯一二回輕ク神識ノ朦朧トナルヲ認メタレモ甚タ微弱ニシテ莫兒比涅及古達乙涅ノ如ク爾カク屢、現ル、者ニ非ヌ又本品ハ連用スルモ習慣スルニ至ラヌ

「ヘロイン」中毒ノ例ハ喘息ヲ患フル四十歳ノ婦人ニ〇、〇一五ノ「ヘロイン」ヲ六包ニ分チ(一回量〇、〇〇二五)與ヘシニ第一包ノ服後已ニ患者不快ヲ感シ醫ヲ招ケリ服後四時間ニノ已ニ高度ノ脱力、視力減衰、甚シキ瞳孔縮小、脈細小遲徐(四十至)體溫低下(三十度)四肢ノ痙攣及搖動、惡心ヲ發セリ依テ速ニ濃煎ノ咖啡ヲ投シタリ而シテ其間ニ藥劑師ニ問合シタルニ其助手「ヘロイン」〇、〇一五ヲ誤テ一、五ト讀過シ斯クテハ甚高價トナルヲ以テ唯其一、〇ヲ調劑セリトノ報告ヲ得タリ之カ爲メニ患婦ハ一回ニ〇、一六七ノ「ヘロイン」ヲ服シタルナリ咖啡ノ服後頻々嘔吐及尿利失禁ヲ起セリ依テ更ニ咖啡涅ヲ皮下注射シ初回〇、一ノ咖啡涅ノ皮下注射後已ニ視力恢復シテ安眠ニ就ケリ第三回ノ注射後少量ノ暗色尿ヲ泄シ第三日ニシテ全快シタリ(「ドクトル」カールボネリー、ソレス氏)

「ドクトル」ウイルヘルム、クリンク氏ノ報告ニ由レハ本品ハ往々或患者ニ於テハ惡心、眩暈、頭痛、虛脫等ノ如キ中毒症狀ヲ實驗セリハルナツク氏ノ如キハ此實驗ニ由リテ本品ノ使用ヲ戒メントセリ或人ハ之ヲ用ヒテ寸效ヲ得サリシト云ヒ或人ハ之ニ由リテ著效アリシト云ヘルモクリンク氏ハ之ニ由リテ本品ヲ無効ノ品ト斷スルヲ得サレモ「ヘロイン」ハ

鹽酸「ヘロイン」

莫兒比涅ニ比スレバ毒性甚大ナラスノ本品ニ於テモ亦人々ニ由リテ差異アルヲ認ムヘシト云ヘリ

鹽酸「ヘロイン」ハ水(一分ト二分ノ比例)及酒精ニ容易ニ溶解シ水溶液ハ中性ニシテ數日貯フルモ變化セス格魯兒鐵ヲ加フルモ反應セズ丸劑及散劑トシテ處スルキハ純「ヘロイン」ト同效ナリ然レモ鹽酸「ヘロイン」ヲ處方スルニ當リ亞兒加里性藥劑例之、重曹、安母尼亞茴香精ノ如キ者ヲ配伍ス可ラス然ラサレバ沈澱ヲ生スレバナリ而シテ皮下注射液ヲ調製スルニハ應用スヘキ餾水ヲ豫メ煮沸スベシ其放冷シタル餾水中ニ本品ヲ溶解シ二回之ヲ濾過セサル可ラス

用量 一日二三回ニ一回量〇、〇〇三—〇、〇〇五ヲ投ス可シ特別ノ理由アルニ非ラサレバ此量ヲ超過ス可ラス一回ノ最大量ハ〇、〇〇一ナリ小兒ニハ一回量〇、〇〇〇五(半密瓦)ヲ用ヒ年齡ニ應シテ漸次〇、〇〇〇二マテ與フ

皮下注射ニハ〇、〇〇〇五—〇、〇〇一即チ二%ノ溶液〇、二五—〇、五立方仙迷(四分一筒乃至半筒)ヲ注射ス
用法ハ散劑或ハ丸劑トス滴劑或ハ合劑并ニ皮下注射ニハ水及酒精ニ溶解シ易キ鹽酸「ヘロイン」ヲ賞用ス用量ハ凡テ尋常ノ「ヘロイン」ニ同シ

〇鹽酸「ヘロイン」〇、一 苦扁桃水 二〇、〇

右一日三四回十五乃至二十滴ヲ糖水加用(鎮咳劑)

〇鹽酸「ヘロイン」〇、一 沃刺六、〇 水二〇、〇

甘草膏及同末適宜

右一日三四回十五乃至二十滴

〇「ヘロイン」〇、〇〇五「トリヲナル」

〇「ヘロイン」〇、一五 龍膽越幾斯二、〇

右與五包、毎夜臨臥時一包

〇「ペルウツシン」Perussin

本品ハ含糖「チミー」草越幾斯ニソゼナートル氏ハ氣管枝加答兒ニ於テ無害ノ祛痰劑トナシ又或人ハ殊ニ癆咳ニ賞用セリ大人ニハ一日三四回半乃至一食匙、小兒ニハ毎二三時一二咖啡匙ヲ投ス

〇「ペルウツシンニヤック」又「ペルコ」Perkognak. (Perco)

百露拔兒撒謨ハ往時實ニ結核ニ用ヒタル藥劑ノ一ナリシカ其後結核ニ對スル效力ハ全ク世人ノ遺忘スル所トナレリ然ルニ近時米國ノ外科醫サイレ氏ハ之ヲ椎骨炎ノ膿瘍ニ用ヒ其速ニ治療スルヲ認メタリ此報告ノ公ニセラル、ヤランデレル氏ノ注意ヲ催シ同氏ハ其試驗ニ基キテ百露拔兒撒謨ヲ結核治療ニ用ヒ靜脈内注射ニ供セリ其後氏ハ百露拔兒撒謨ノ有效成分ノ桂皮酸ナルコトヲ知レリ而シテランデレル氏ハ百露拔兒撒謨若クハ桂皮酸乳劑ノ靜脈内注射ハ管ニ皮膚、骨及關節ノ結核ニ效アルノミナラス肺結核ニモ奏效アルヲ見タリ

結核藥

ペルウツシン ペルウツシンニヤック又ペルコ

然ルニ百露拔兒撒謨并ニ桂皮酸モ結核ニ對シテ内用シタルコトナカリシカ(僅ニ氣管枝膿漏或ハ分泌饒多ノ慢性氣管枝加答兒ニ用ヒタルノミ)「ドクトル」シユメー氏ハ百露拔兒撒謨ヲ膠囊ニ容レテ内用ニ供セリ其後シユメー氏ハ用法ヲ改正シテ所謂「ベルウコンニヤック」トナシテ内用セリ此「ベルウコンニヤック」ハ其「リール」中ニハ少クモ純粹ノ桂皮酸十%ヲ有スル最良ノ百露拔兒撒謨二十五瓦ノ效力ヲ含有スル者タリ

茲ニ注意セサル可ラサルハ百露拔兒撒謨ニハ頗ル屢、賈造物アルコト是ナリ故ニ天然ノ百露拔兒撒謨ヲ用ヒスノ「チンナモイン」ト桂皮酸トヲ巴拉賓ニ混合シタル者ヲ用フルヲ可トステルマン社ノ製ニ係ル「ベルウコンニヤック」ヲ用フベシ

「ベルウコンニヤック」ヲ結核ニ與フルニ皆良結果ヲ收メ全身ノ調和頗ル佳良トナリ食思充進シ體重増加ス從來未ダ曾テ不快ノ副作用ヲ認メズ殊ニ腎臟ニ不良ノ影響ヲ及ホセシ「ナシ夫」ノ百露拔兒撒謨ヲ用ヒタル後甚シキ腎臟炎ヲ發セシ者ハ其罪本品ニ非スシテ皆依的兒性油ヲ以テ製セル賈造物ニ依レリシユメー氏ノ「ベルウコンニヤック」ハ全ク依的兒油ヲ含マサルヲ以テ腎臟ヲ刺戟スルノ恐アルコトナシ

「ベルウコンニヤック」ハ肺結核、喉頭結核ニハ内用ノミナラズ吸入セシムベシ而シテ殊ニ小兒ノ結核ニ效アリ用量ハ十二歳許ノ小兒ニハ毎二時一茶匙ヲ乳汁ニ加ヘテ投シ大人ニハ毎二時一食匙ヲ乳汁ニ加用セシム○「ベルウコンニヤック」ハ食思催進ノ效アルヲ以テ非結核患者ニハ單純ノ健胃劑トシテ用フルニ足レリ○シユメー氏一二回腸窒扶斯ニ用ヒテ良

效ヲ得タリ

○「ヘマトーゲン」 Haematogen

本品ハ有機性鐵抱合物ニ容易ニ體中ニ吸收セラルビオ、マルフォリー氏ガ本品ヲ製スルノ法ハ先ツ加里滷汁ニ於テ蛋白ノ濾過液ニ酒酸鐵ヲ加ヘ之ニ醋酸ヲ加ヘテ「ヘマトーゲン」ヲ沈澱セシムルニ在リ此沈澱ヲ洗滌シ乾燥スベシ即チ莖黃色ノ粉末ニ弱亞兒加里中ニ容易ニ溶解ス本品ハ〇、七%ノ鐵ヲ含有ス

○「ヘムアルブミン」(乾燥粉末ニ小兒ニ一日三四回一茶匙、大人ニハ一食匙ヲ水或ハ蒸麥漿ニ溶シテ用ユ)

○「ヘマチン、アルブミン」 Haematin-Albumin.

本品ハ牡牛血及豚血ヨリ採收シタル者ニ特ニ「アルブミン」質(「ヘモグロビン」及「セルムアルブミン」)ヲ含有ス本品ハ褐色無臭無味ノ粉末ニ水ニハ溶解セズ脂肪ヲ含マサルカ故ニ胃弱者ニモ能ク堪フル所ニ且齒牙ヲ侵サズ本品ハ含鐵營養品トシテ貧血、萎黃病等ニ一日二三回一茶匙ヲ水、乳汁、柯々阿ニ加用ス

○「ヘモール」製劑 Haemolum

(イ)亞砒酸「ヘモール」 *H. arseniatum*

本品ハ褐色ノ粉末ニ百分中ニ亞砒酸一分ヲ含有セリバルテル氏ハ之ヲ卓效アル亞砒酸劑トシテ一日三回〇、一ヲ一丸トシテ與ヘ毎四日ニ一丸宛増量シテ一日十九ニ達ス

○亞砒酸「ヘモール」五、○ 甘草膏一、二五 護謨漿適宜
右爲五十九丸、用法ハ前記ノ如シ

(ロ) 貌魯謨「ヘモール」 *H. bromatum*

緩和ノ貌魯謨劑ニシテ貌魯謨二、七%ヲ含有ス癩癩及歇私的里ニ朝一、○晝及夕二、○「ラブラート」ニテ投ス

(ハ) 銅化「ヘモール」 *H. cupratum*.

本品ハ二%ノ銅ヲ含ミ「シヨウコラデ」様褐色ノ粉末ニノ水ニ溶解ス本品ハ非寄生物的及強壯的作用アルヲ以テ萎黃病、濕疹、腺病等ニ用ヒ又強壯劑トシテ虎列拉、赤痢、小兒ノ下痢、其他梅毒ニ賞用セラル一日三回〇、一—〇、五ヲ「ラブラート」ニテ或ハ丸劑トナシ用ユ

(ニ) 含鐵「ヘモール」 *H. ferratum*.

本品ハ褐色ノ粉末ニノ稀薄ノ亞兒加里ニ溶解ス本品ハ貧血、萎黃病ニ一日三回食前ニ〇、五ヲ投ス

(ホ) 沃度汞「ヘモール」 *H. hydrargyro-jodatum*.

本品ハ帶褐紅色ノ粉末ニシテ梅毒ニ用ユ他ノ汞劑ニ比スレバ鐵ヲ含メルト不快ノ副作用ヲ起ス稀ナルトヲ長所トスリルレ氏ハ左方ヲ用ヒタリ

○沃度汞「ヘモール」二〇、〇 阿片末〇、八 卵白適宜
右爲五十九丸、石松子ヲ衣トス一日三回食後二丸宛

(一) 沃度「ヘモール」 *H. jodatum*

本品ハ褐色ノ粉末ニシテ沃度一六、六%ヲ含有ス沃度劑トシテ一日三回食餌中ニ〇、一—〇、三ヲ丸トシテ用ユ

(ト) 亞鉛「ヘモール」 *H. zincatum*.

本品ハ「シヨウコラデ」様褐色無味ノ粉末ニシテ亞兒加里性及有機性硝酸鹽ニハ紅色ヲ呈シテ溶解ス本品ハ貧血、萎黃病、歇私的里、下痢、舞踏病等ニ〇、五ヲ用ユ

○「ヘマトール」 *Haematol.* 芳香性殺菌性「ヘモグロビン」

本品ハ衛生學專家ドクトルニーマン氏ガ不斷監督ノ下ニ牛血ヨリ製シタル者ニシテ爽快ノ味アリ溶解シ易キ製劑即チ「ヘマトール」カカヲ「及」ヘマトールシヨコラデトナシ貧血及衰弱狀態ニ用ユ小兒(一乃至五歲)ニハ毎日食前一二茶匙、大ナル兒及大人ニハ食前一時ニ一二小杯ツ、投ス

○「ヘモフォルム」 *Haemoforn*.

本品ハ味ナク水ニ溶解スル鐵蛋白粉末ニノ小兒ニ賞用ス一日ニ二、〇—一五、〇ヲ與フ

○「ペラギン」(船量ニ用ユ)

○「ペレチーリン」 *Pelletrin*.

性状 「ペレチーリン」ハ柘榴根皮ヨリ製セル黃色或ハ無色油様揮發性ノ液體ニシテ攝氏百九十度ニ沸騰シ大氣ニ接スレハ忽チ黃色ニ變シ遂ニ暗褐色トナル而シテ一種不快ノ臭氣ヲ

驅逐劑

觀管膜「ヘモール」 銅化「ヘモール」 含鐵「ヘモール」 沃度汞「ヘモール」 沃度「ヘモール」
亞鉛「ヘモール」 ペレチーリン

有シ水、酒精、依的兒、嚼囉仿謨、油溶液ニ溶解ス

作用 「ペレチーリン」及其鹽類ハ殺蟲ノ性アルヲ以テ條蟲ニ對シテ柘榴根皮ニ代テ實用スヘキモノナリ然レモ虛弱家、婦人及小兒ニ於テハ副作用即チ眩暈、視力朦朧、惡心、嘔吐、心機亢進、筋肉振顫、腓腸痙攣ヲ發スルヲアリ此副作用ノ症狀ハ吸收セラレ易キ硫酸「ペレチーリン」ニ於テハ單寧酸「ペレチーリン」ヨリモ強劇ナリトス驅條藥トシテハ硫酸鹽ハ單寧酸鹽ヨリモ奏效確實ナラス

應用、用量 ドュシヤルダンボーメ氏及ラブルベース氏ハ「ペレチーリン」及「イゾペレチーリン」ヲ數多ノ條蟲患者ニ試用シ特效アルヲ證セリ該藥ハ容易ク水ニ溶解スルニ由リ胃中ニ多分吸收セラル、ヲ以テ充分腸管ニ達セザルガ故ニ不溶解性トナス爲メ少量ノ鞣酸ヲ加ヘ〇、三乃至〇、四ヲ一回ニ用ユ即チドュシヤルダン、ボーメ氏ノ法ニ從ヒ前タヨリ消化シ易キ淡泊ノ食品及ヒ緩下劑ヲ投シ翌朝胃腸ノ空虚ナルニ乘シ散劑トナシ或ハ水劑トナシ或ハ膠囊ニ包ミ内服セシメ一二時間ヲ經テ旋那等ノ下劑ヲ投スルニアリ又該藥ハ血壓ヲ急ニ増加セシムルカ故ニ動脈瘤、血管「アテローム」變性等ニ供用スルヲ禁ス
之レニ臭素水素酸「ペレチーリン」(〇、二五—〇、四)硫酸「ペレチーリン」(〇、三—〇、五)鞣酸「ペレチーリン」(〇、五—一、〇)アリ

- 〇硫酸「ペレチーリン」〇、三 鞣酸
- 〇、五 餛水 三〇、〇
- 右頓服 (雜蟲)
- 〇硫酸「ペレチーリン」〇、三—〇、五

乳糖 適宜

右頓服

〇單寧酸「ペレチーリン」〇、一五
綿馬越幾新一、〇
右爲丸頓服 (雜蟲)

〇「ペルジナミン」 *Perdynamin*.

強壯劑

本品ハ動物性含鐵蛋白ニ貧血及衰弱狀態(恢復期ニ於ケルガ如シ)ニ實用セラルドクトルレピン及ブレスラウエル氏ガ分析上ニ基キテ説明スル處ニ由レバ本品ハ全ク消化且吸收セラル(「トリブシン」消化及「ペブシン」消化ニ於テ)鐵ハ全ク蛋白ニ結合シ「ヘモグロビン」トナリ存在ス或鹽類ニ由リテ蛋白質ヲ除ケル溶液ハ毫モ鐵分ヲ認知スルヲ得ス之ヲ以テ「ペルシナミン」ハ管ニ其味美ニシテ而カモ其鐵分體中ニ全ク攝取セラル、鐵劑タルノミナラズ亦營養物トシテ其營養力ハ雞卵ヨリモ二倍ノ效力アル者ナリト
大人ニハ一回一二食匙、一日六乃至八食匙ヲ投ス

〇「ペルロタン」 *Pellotin*.

本品ハ「アンハロニウム」ノ類鹽基ニ催睡ノ作用アリ其鹽酸「ペルロタン」ハ水ニ溶解ス催睡劑トシテ〇、〇二—〇、〇五ヲ散劑、溶液トナシ與ヘ又ハ皮下注射ニ供スジョルリー氏ハ精神病患者ノ不眠ニ用ヒ良效ヲ得タリ

〇「ペロニン」 *Peronin*.

性狀作用 本品ハ汚穢白色輕鬆ノ細末ニシテ苦味アリ臭氣ナシ冷水ニ溶ケ難ク熱湯ニハ

鎮咳劑

ペルジナミン ペルロタン ペロニン

隨意ノ比例ヲ以テ善ク溶解ス酸類、強酒精、嘔囉仿謨ニハ溶解セズメーリンク氏ハ本品ヨリ
麻酔劑ヲ發見シタルカ其作用ニ由テ見レハ莫兒比涅ト古垚乙涅トノ中間ニ位スルモノナ
リト本品ハ安眠ヲ催スハ古垚乙涅ニ優リ又有害ノ副作用ヲ呈セサルハ莫兒比涅ニ勝レリ
ノワック氏ハ之ヲ良好ノ鎮咳劑トナシ安眠セシムルモ不快ノ結果ヲ來スヲナシト云ヘリ氏
ハ實驗シタル少數ノ者ニ於テ唯氣管ノ輕キ灼熱ト少量ノ發汗ヲ見タルノミ

應用及用量

ドクトルエム、エベルソン氏ハ本品ヲ十六名ニ使用セリ用量ハ大人ニ

ハ〇、〇一〇、〇二ヲ一日三乃至四回投シ小兒ニハ其年齡ニ應スル密瓦量ヲ用ヒ舍利別溶
液、散劑、錠劑トナシ服セシム又「ヲブラート」ニ包ミ用ユルキハ苦味ト喉頭ノ灼感トヲ免ル
ハ得ベシ食思、血行器及他ノ身體調和善良ニシテ變化ナク加之、熟睡スルカ爲メニ佳良トナ
ル氏ハ健者或ハ肺癆家ニ本品ヲ與ヘテ多量ノ發汗ヲ見タルコト一回モ之ナシト云フ本品ハ祛
痰ヲ効クルカ如シ故ニ小水泡音アルモノニハ吐根浸ニ本品ヲ加ヘテ投スルヲ可トス三名ノ
瘧咳ニ本品ヲ與ヘタルニ卓效アリ

此實驗ニ基キテ氏ハ左ノ結論ヲ下セリ(一)「ペロニン」ハ實用スヘキ鎮咳劑ニシテ莫兒比涅ニ
代用スベシ(二)急性氣管枝炎ニ於テハ暫時ニシテ全治セシム(三)本品ハ慢性氣管枝炎、肺結
核ヲ迅速確實ニ佳良ナラシメ咳嗽刺戟ヲ減シ安眠ヲ來タシ祛痰ヲ容易ナラシム(四)本品
ハ心臟及消化器ヲ害セザルヲ以テ持長スルモ此等ノ器臟善ク之ニ堪ユ(五)持長スルモ中毒
症狀ヲ發セズ唯一回(二歳ノ小兒)之ヲ投スルモ安眠セサリシ爲メニ休藥セシノミ(六)本品

ハ主トシテ咳嗽ヲ輕快シ歇私的里及瘧咳ニ效アリ

○蜀葵根煎九〇、〇 「ペロニン」〇、〇八 蜀葵舍利別一〇〇、〇

右一日三咖啡匙宛(四歳小兒ノ瘧咳)(一咖啡匙中「ペロニン」四密瓦)

○「ペロニン」〇、五 水一〇〇、〇

○「ペロニン」〇、三 甘草膏及末適宜

右毎夕一茶匙

右爲三十九毎夕二三丸宛

○「ペグニン」 Peginin.

乳汁醱酵素

本品ハ牛乳ニ加ヘテ之ヲ凝固セシムル醱酵素ニシテ 固物ハ振盪ニ由リテ再ヒ微細ニ分解
セラル恰モ人乳ノ凝固時ニ生スルカ如ク微細ノ雲絮ヲ生シ浮游スルヲ見ルベシ、ドクトル
フオン、ドュンゲルン氏ノ方法ニ由レバ乳兒ノ胃中ニ於テ牛乳「カゼイン」ノ有害ナル塊狀
凝固ヲ最單簡ニ避クルヲ得ベシ、即チ同氏ニ從ヘハ斯ク處置シタル乳汁ハ其味ト外觀トニ於
テハ尋常ノ牛乳ト區別シ難クシテ小兒モ亦好シテ飲用ス然レモ胃中ニ於テ微細ニ凝固シタ
ル乳汁ハ毫モ粗大ノ凝塊ヲ生セサルカ故ニ正常ノ乳兒營養ハ此方法ニ由リテ處置セサル牛
乳ト類似スルノ點ヲ異ナリトス此方法ヲ以テ初生時ノ乳兒モ亦僅ニ稀釋シタルカ或ハ毫モ
稀釋セザル牛乳ヲ以テ營養スルコトヲ得ベキガ如シ乳兒ノ營養ニ於ケルト同シク牛乳ニ此處
置ヲ加フルハ患者ノ營養ニモ亦效用アリ殊ニ消化腺作用減衰シタル胃病及傳染病ニ於テ然
リ已ニ此ノ如キ患者ニ良成績ヲ奏シタル「ケファイル」ノ消化シ易キハ醱酵後ハ胃液ト亦共ニ
凝固セサルニ至レル「カゼイン」ノ變化ニ基ク者ナリ

用法 (1)之ニ用ユル諸器具及壘子并ニ栓子ハ善ク清潔トナシ器具及壘子ハ曹達液ヲ加ヘテ煮沸ス栓子ハ必ス使用前ニ十分間沸騰スル湯中ニ煮沸スベシ而シテ再三煮沸スルヲ避クルカ爲メニ一日間ニ用ユル栓子ヲ一回ニ煮沸シ之ヲ當該器中ニ藏セシメ必要ニ應シテ栓子ヲ採用スベシ然レモ使用後尙殘餘ノモノヲ徒ニ再用ス可ラス

(2)一日間ノ使用ト定メタル乳汁ハ購入後直チニ大壘子ニ充タス但シ此壘子ハ全滿セシム可ラス之ヲ冷水或ハ微温湯ヲ盛レル壘中ニ置キテ水ヲ煮沸シ約半時間ニ及フベシ(此方法ヲ以テスレバ壘子ノ破裂スルヲ最モ確實ニ免レシム殊ニ壘子ヲ布巾中ニ包メルキニ於テ然リ)乳兒用ノ乳汁ハ初メニ水ヲ加ヘテ稀釋ス可ラス

(3)乳汁ハ煮沸後殆ト列氏三十二度(攝氏四十度)ニ放冷セラル(壘子ノ破裂ヲ防ク爲メ素ヨリ放冷ハ急劇ナル可ラス)或ハ若シ已ニ甚シク寒冷ナルキハ再ヒ列氏三十二度ニ加温スベシ

(4)此温度ニ於テ「ベグニン」ヲ加フ即チ「リール」中ニハ一食匙、内容二百瓦ノソキスレート壘ノ乳汁中ニハ一茶匙ヲ加フベシ然ルキハ此粉末ハ乳汁ヲ暫時振盪スルニ由リ細分セラレテ乳汁凝固スルニ至ルヲ待ツベシ通常二三分間ヲ要ス(乳汁一回ニ凝固セサルキハ水ヲ乳汁ニ加ヘタル者ナルヲ甚タ信ス可キカ如シ)

(5)乳汁凝固シタル後壘子ハ煮沸シタル清潔ノ栓子ヲ以テ閉塞シ(最良ナルハ硝子栓又ハ堅牢護謨栓子ナリ)數分間強ク振盪シテ凝固物全ク消散スルニ至ルベシ

(6)茲ニ於テカ乳汁ハ使用ニ適ス此乳汁ハ強ク加熱ス可ラス水ヲ加ヘ稀釋ノ必要ナルキハ(最幼稚ナル小兒ニ於テ)之ヲ行フベキモ而カモ乳汁ハ多クモ同量ノ水ヲ以テ稀釋スベキノミ而シテ善ク煮沸シタル水ヲ加フベシ

斯ク調製シタル乳汁ハ壘子ニ容レ能ク密閉シテ冷所ニ貯フ可シ
必要ニ應シテ乳汁ハ尙一回稍振盪シタル後適當ノ哺乳壘ニ充タシ體温ノ度(列氏三十度即チ攝氏三十七度半)ニ温メテ小兒ニ與フベシ
乳汁ヲ體温度ニ加温スルハ微温湯ヲ最良トス若シ強ク加熱スルキハ微細ノ凝結物ヲシテ再ヒ大塊ヲ生セシム然ルキハ哺乳壘ニ於テ再ヒ振盪セサル可ラス微細ニ凝固シタル乳汁ヲ適當ニ得タルキハ護謨哺乳器ノ細孔ニ由ルモ亦容易ニ之ヲ哺乳スルヲ得ベシ

- 「ペダリウム、ムレックス」(尿器病、淋疾等ニ用ユ)
- 「ベガスム、ハルマラ」(通經劑)
- 「ペラルゴニウム、アコトファイルム」(赤痢及下痢ニ用ユ)
- 「ペナワル、ジャムビー」(止血藥トシテ外用ス)
- 「ペロバ、ルクマ」(解熱劑)
- 「ベチウリア」(發汗及利尿劑)
- 扁桃酸安知必林 (「ツッソール」ヲ見ヨ)
- 「ペレイソン」 *Peperinum.*

間歇熱劑

本品ハ「バラ、ペレイロ」ノ皮ヨリ製シタル類鹽基ニシテ白色無形ノ粉末ヲナシ水ニ僅ニ溶解シ酒精、依的兒及嘔囉仿謨ニ善ク溶解ス之ニ鹽酸、鹽及纈草、酸鹽ノ兩種アリ其鹽酸「ペレイロ」ヲ間歇熱ニ用ユルニ却テ規尼涅ニ優ルガ如シ將ニ來ラントスル發作ニ先ツ「四時」ニ〇、五—二、〇ヲ用ユベシ

○「ペレチア」 *Peresia*.

此根片集合シテ根ヲナス根片ハ厚キ褐色ノ屑ヲ以テ被ハレ根ハ羽管狀ニシテ暗灰白色ヲナシ皺縮ス断面ニ分泌細胞アリテ黄色樹脂ヲ出ス則チ有效分タル「ビビアホイン」酸ヲ充實ス峻下劑ニシテ内用スレバ尿ヲメ綠色ヲ呈セシム用量ハ四、〇—八、〇ナリ

○「ペルスカピン」及「ペルチール」 *Peruscabin u. Perual*.

疥癬蟲藥

性狀應用

「ペルスカピン」ハ「エルドマン氏」ニ從ヘハ「チンナマイン」、「スチラチン」及桂皮酸ト共ニ百露拔兒撒謨ノ有效成分ヲ含有スル安息香酸「ペメチール」ニシテ集成的ニ製造セラレ殆ト無臭無臭ノ稀薄液ナリ左品トナシ應用ス

○「ペルチール」ハ「ペルスカピン」ニ二十五%ヲ含メル蓖麻子油溶液ナリ○「ナイセル」及「ザツクス」氏ハ疥癬蟲藥トシテ百露拔兒撒謨ニ代ヘテ實用セリ即チ強キ殺蟲ノ效力アルヲ特色トス而シテ百露拔兒撒謨ニ優レルハ無臭無臭ナルニ在リ且襦衣ヲ汚染セズ殊ニ小兒及衰弱者ニ妙ナリ用法ハ「ナイセル」氏ニ從ヘハ先ツ石鹼ヲ以テ皮膚ヲ洗滌シ五分乃至十五分間「ペルチール」ヲ塗擦シ二三日塗擦ヲ反覆シ二日乃至四日ノ後入浴洗滌スベシ

○「ペトロスルフオール」 *Petrosulfol*.

本品ハ「イヒチチアル」ニ類シタルモノニシテ元來奧國製「イヒチチアル」ト稱シ販賣セララル本品ハ「エールマン」氏ガ皮膚病殊ニ濕疹、膿疱疹、癬腫、毛瘡ニ實用シ其他凍瘡、手足ノ發汗過多ノ如キ慢性充血及攝護腺炎、尿道周圍炎ニ用ユ〇五乃至十%ノ軟膏又ハ撒布末トナシ、五乃至十%「ペトロスルフオール」コロジウムトナシ又ハ五%ノ酒精溶液トナシ單用シ或ハ五%ノ撒酸ヲ加フ

○「トリピリン」 *Tolypyrinum*. 又「トリアン」 $C_{12}H_{11}NO$.

解熱藥及鎮痛藥

性狀

本品ハ無色ノ結晶ニシテ攝氏百三十六乃至百三十七度ニ溶解シ甚苦味アリ十分ノ水ニ溶解シ酒精ニ溶ケ易キモ依的兒ニハ殆ト溶ケズ水溶液ニ格魯兒鐵ヲ加フレバ濃紅色ヲ呈シ硝酸ヲ加フレバ綠色トナル又「トリピリン」ヲ二十五%ノ硝酸ヲ以テ熱スルハ此溶液ハ葡萄酒様紅色トナリ安母尼亞ヲ注ケバ鮮紅色ニ變ス

應用 本品ハ安知必林ノ如ク解熱及ヒ鎮痛ニ供用シ大人ニハ一日四、〇トシ一回量一、〇トス

○「トリザール」 *Tolysal*. $C_{11}H_{11}N_2O_4 \cdot C_7H_6O_2$.

本品ハ無色ノ結晶ニシテ苦味アリ水、依的兒ニ溶ケ難ク酒精ニ溶ケ易シ一日量四、〇—八、〇ヲ與フレバ解熱ノ效アリ少量（一、〇—三、〇）ハ鎮痛ノ能アリ

○銅抱合物 *Cuprum-verbindingen*.

銅抱合物

ペレチア、ペルスカピン及ペルチール、ペトロスルフオール、トリピリン、トリザール

(イ) 亞砒酸銅 *Cuprum arsenicosum*. $CuHAsO_6$

性狀應用 硫酸銅液ニ亞砒酸加里ヲ加ヘ製スル者ニシテ通常セーレ氏綠色素ト稱スルモノ是ナリ近時アウルデ氏ハ胃腸症、虎列刺下痢、疝痛、赤痢、小兒吐瀉症等ニ用ユ則チ本品一分乳糖百分ノ比例ヲ以テ丸劑トナシ每丸〇、六ノ重量ヲ有セシム此混合劑ハ每丸亞砒酸銅〇、〇〇〇六ヲ含有ス而シテ此丸ヲ百二十瓦ノ水ニ溶シ初メハ每十分時後ニハ毎時一茶匙ヲ服セシム小兒ニハ此半量ヲ投ス

(ロ) 脂酸銅 (暗綠色蠟狀質ニシテ潰瘍等ニ外用ス)

(ハ) 磷酸銅 (結核ニ〇、〇一ヲ丸劑トシ與フ)

〇「トイクリン」 *Ticin* 精製スルシニ越幾斯

催炎刺戟劑

性狀 本品ハ黑褐色ノ草狀臭氣アル液ニシテ苛辣ノ味ト酸性反應及比重一、一五アリ各種ノ比例ニ於テ水ニ澄明ニ溶解シ乾燥スルキハ二〇、八%灰化スルキハ四、六%ノ殘留物ヲ殘ス本品十瓦ヲ中性トスルニハ十分一定規那篇倫滴汁一一、四立方仙迷ヲ要ス

作用及應用 モゼチッヒ、モールホーフ氏ハ本品ヲ寒膿瘍、結核、肉芽性腺炎、狼瘡、放線狀菌症等ニ於ケル病竈ノ近傍ニ注入スルヲ賞用セリ此注入後一乃至三時多キモ四時ヲ經レバ暫時持續スル惡寒ニ由リテ十乃至十二時間持續スル熱ヲ發ス健康人ニ於テハ注入部ニ潮紅疹痛アリテ輕キ浮腫ヲ來ス然レモ病竈ノ近傍ニ於テ注入スルキハ已ニ其即時ニ特異ノ充血狀態ヲ來シ注入後第一日及第二日ニ至レバ最顯著トナル而シテ寒膿瘍ハ二回注入スルキ

ハ二十四時内ニ熱膿瘍ニ變シ其部ノ皮膚ハ潮紅シテ熱ク且知覺過敏トナル又乾酪變性セル結核病竈ハ脱落シ乾酪變性セサル淋巴腺ハ縮小シ漸次消散ス

用量 當該患部ノ皮膚ヲ嚴重ニ皮脂ヲ除キ清潔トナシ消毒シ本品三、〇ヲ三、〇ヲ收容スル防腐シタル注射器ニ容レ病竈最近部ノ皮下結締織中ニ注射ス其注射口ハ一片ノ絆創膏ニ由リテ粘着セシムヘシ寒膿瘍ニ於テハ通常注入後第三日ニ於テ切開シテ内容物ヲ除クベシ内容物ノ排除ヲ妨害セサルカ爲メニ壓抵綑帶ヲ施ス可ラス約八日乃至十日ニ切開部癩痕ヲ結フ

〇「トリクレソール」(「クレソール」ヲ見ヨ)

〇「ドラジルラ」(便秘及月經不調ニ用ユ)

〇「ドウンダケ」(解熱劑、強壯劑)

〇「ドロセラ」(喘息、痙攣、肺癆家ノ咳嗽〇、一五—〇、ニヲ用ユ)

〇「ドルミーン」(古加乙涅ノ如キ效アリト云フモ全ク偽藥ナリ)

〇「ドユラツイルロ」(熱性病及下腹痛ニ用ユ)

〇「トボシ」 *Toboshi* (此項ハ猪子博士及本田氏ノ説ニシテ京醫事新誌第六百六十號ヨリ抄出)

「トボシ」又「エブリコ」ハ一種ノ菌叢ニシテ落葉松ニ寄生スルモノナリ形チ稍圓ク表面黃白若クハ黃褐色ヲ帶ヒ凸凹アリテ平等ナラス之ヲ切斷スルニ内部充實シテ毫モ空虚ナク其色白ク其質陶土ノ如シ試ミニ一小片ヲ取り嘗ムレハ初メ特異ノ味ナキモ咀嚼スルニ從ヒ漸々苦

制汗藥

トイクリン トボシ

キヲ覺ユ大サハ手拳大ヨリ人頭大ニ及フ學名未詳ナラズ案ズルニ「ポリボルス」亞屬ノ一種ナラン「アイノ」人ハ非常ニ之ヲ珍重シテ諸般ノ疾病ニ用ユト云フ

○「トボシ」ヲ分析シテ二個ノ物質ヲ得タリ曰一種ノ有機酸曰一種ノ華爾斯様化合物是レナリ○有機酸ハ無色ノ結晶物ニシテ冷水ニ溶解シ難ク熱湯ニハ漸々泡沫ヲ發シテ溶解スレモ冷ユルニ從ヒ復タ析出ス但シ亞爾個保兒ニハ容易ニ溶解スルノ性アリ而シテ其ノ亞爾加里鹽ハ水ニ溶解シ重金屬鹽即チ拔留母鹽銀鹽等ハ不溶解ナリ此般ノ性狀ハ所謂「アガリクス」酸ト殆ト全ク符合ス蓋シ同一物ナルベシ○華爾斯様物質ハ前記ノ亞爾個保兒溶液ヨリ容易ニ精製スルヲ得ルナリ

○「トボシ」ヲ大量ニ服用スルハ吐瀉ヲ發スト試ミニ三、○ヲ犬ニ與フルニ半時間ヲ經テ嘔吐セリ猪子氏自ラ○、ニヲ服セシカ半日ノ後稍軟便ヲ泄セリ○消化器ヲ刺戟スル物質ハ何レノ成分ナルヤヲ知ランカ爲メ余等ノ製造セル有機酸○、五ヲ一犬ニ與ヘ華爾斯様物質一、○ヲ他ノ一犬ニ各乳劑トシテ與ヘシニ甲ハ二十分ヲ經テ嘔吐ヲ發シタレトモ乙ハ異常ヲ呈セス由テ彼ノ有機酸ハ刺戟性アルヲ知レリ尙ホ此ノ酸ヲ動物ニ就テ試驗セシニ一種固有ノ效力アルヲ確定セリ他ナシ汗腺ノ分泌ヲ抑壓スル所ノ作用是ナリ此ノ作用ハ赤蛙ニ於テ最モ著シ試ミニ該酸○、○三ヲ注入スルトキハ二十三分ノ後皮膚粘滑ノ性ヲ減シ次テ斯ク乾燥ス殊ニ觸診上容易ニ之レヲ感スルヲ得ベシ此性タル彼ノ「アガリクス」酸ト全ク同一ナリ

○右ノ試驗ニ由テ「トボシ」ノ制汗作用ヲ確認シタレハ進テ病牀上、盜汗ニ用ユ可キノ念ヲ生セリ(一)三十五年ノ梅毒患者毎夜盜汗アリ「トボシ」○、○六ヲ與フ盜汗依然タリ次日同量ヲ與フ盜汗稍減ス第三日○、○八ヲ與フ盜汗全ク止ム(二)三十四年ノ脚氣後ノ衰弱、盜汗アリ「トボシ」○、○六ヲ臨臥服用稍減ス次日同量ニテ盜汗全ク去ル(以下病牀日誌ヲ略ス)○凡テ患者ハ不快ナル副作用ヲ呈セス○用量ハ一回○、○六―○、一處方ハ「トボシ」末○、○六―○、一白糖○、三臨臥頓服一回ニテ效ヲ奏セサレハ數日間持長シテ害ナシ但シ多量ヲ投セント欲セハ往々下痢ヲ發スルノ恐れアリ阿片ヲ加フベシ

跋(とくだみ)

醫學士若杉喜三郎氏ハ東京醫學會雜誌第十六卷第二號ニ於テ遺尿ノ病理、療法ヲ論シ俗間ニ外用内用スル葦澄茄ト同シク胡椒科ニ屬スル「とくだみ」ヲ單純遺尿症ニ試用シ意外ノ好結果ヲ得タリトテ七例ヲ報告セリ用法ハ煎劑トシテ五六歳ヨリ十歳迄ハ一日量四、○―七、○「十二三歳ヨリ十七八歳マテハ一〇、○ヲ用量トシ配伍ニ苦味丁幾其他兼用ニハ重曹、硝蒼等ヲ與ヘタルヲ多シ著效アルハ二三日遅キハ二週乃至三週間ニシテ輕快ニ赴キ遂ニ治癒ス副作用ヲ認メス其效用ハ骨拜巴拔兒撒謨、葦澄茄ノ如ク尿ニ對シ防腐作用ヲ有スルカ或ハ收斂ノ效ヲ奏スルモノナルヤ或ハ膀胱粘膜ノ末梢神經ニ影響スルモノナルヤ未タ詳ナラズ藥物學者ノ研究ヲ須タン云々

○「ドユルナン」 Dulcam (「スクロール」又「エトキシフエニール」尿素)

性状 本品ハ無色針狀或ハ鱗片狀結晶ニシテ甘味アリ百七十三度乃至百七十四度ニ溶解シ熱湯百五十分、冷水八百分其他強酒精二十五分等ニ溶解シ本品ノ甘味ハ尋常ノ砂糖ヨリ二百乃至二百五十倍強シトス

應用 本品ハ「サツカリン」ノ如ク甘味物トシテ用ヒラルエワルド氏ニ由レバ本品ハ「サツカリン」ヨリモ甘味少キヲ以テ患者モ「人工的ノ甘味」ナルヲ覺エヌト此品ハ蜜尿病、肥胖、酒精飲料ノ甘味料或ハ菓子ニ用ユ即チ本品ノ生理的作用ヲ試驗シテ此應用時ノ用量ニシテ眞ニ無害ナルルルニノミ之ヲ投スベシ

エワルド氏ハ消化不良患者ニ三週間毎日「ドユルチン」錠十六個其所含ノ本品全量約八、〇ヲ與ヘタルニ消化ヲ害スルコトナク能ク之ニ堪ヘタリ又一日量一、五ヲ投セシニ有害ノ作用ナカリキ

○「ドルミチアル」 *Dormiel*, 「アミールンクロラール」
本品ハ無色油樣液ニシテ特異ノ樟腦樣香氣ト清爽灼クカ如キ味アリ冷水ニ溶ケス長ク沸騰スルルハ分解シテ溶解ス又「アチエトン」、依的兒、酒精、脂肪油ニ溶解ス

本品ハ善良無害ノ催睡劑ニシテ、五ヲ服用後十五分乃至半時ニシテ現ハレ數時間持續ス但皮下注射用ニハ適セズ何トナレバ刺入部ニ於テ輕キ刺戟ヲ起セバナリ此故ニ内用ニハ膠囊ヲ以テスベシメツツレル氏ニ從ヘハ本品ハ抱水格魯拉兒ニ比スレバ遙ニ睡眠ヲ催スコト遲シ其毒性ハ同一ナリ

用量ハ一回〇、五—三、〇ニシテ一日量六、〇ナリ

東京醫科大學ニ於テ久保收氏ハ「ドルミチアル」ヲ動物ニ試驗シテ曰ク(一)催眠力ハ抱水格魯拉兒、「バラアルデヒッド」、「トリヲナル」ト殆ト同一ニシテ睡眠中體溫ノ下降ヲ致ス(二)大量ヲ用ユルルハ呼吸數減少シ次テ靜止ス少量ナレバ著害ナシ(三)五十%ノ水溶液〇、五—一、〇立方仙迷ヲ注射スレバ比較的速ニ血壓降低シ心臟ハ呼吸靜止ニ遅ル、コト二分時ニシテ靜止シ又脈搏ハ漸次其數ヲ減スレモ不正ノ状態ヲ呈スルコトナシ(東京醫學會雜誌第十六卷第五號)

○陶土 *Bolus alba*, (*Argilla, Thon*, 白土)

陶土ノ防腐及制腐的作用アルハドクトルスツンムブ氏ノ唱フル所ナリ依テ其防腐的及制腐的綑帶料トシテ應用ニ就テドクトルメガール氏ハ詳細ノ實驗ヲ施セリ元來陶土ハ石英ノ風化スルニ由リテ成ル者ニシテ「アルミウム」ノ外ニ屢、尙少許ノ鐵分ヲ含有ス此鐵分ノ爲ニ多少紅色ヲ呈スルナリ陶土ハ凡テ水、酸類、亞兒加里ニ溶解セス水ヲ加レバ一種塑像樣物質ヲ生ス「陶土ヲ醫用ニ供スルハ丸劑ノ調製(植物粉末ヲ用ユレバ分解スル藥品ノ)殊ニ藥物鹽ノ丸劑、齒磨粉、散布末、入浴料トナシタルノミ又工業上ニモ應用セラレタリ(即チ粘着料、其他鍍金者、畫工)然ルニスツウンブ氏ハ創傷療法ニ於ケル陶土ノ乾涸作用ニ重ヲ置ケルカ故ニメガール氏モ亦此性質ニ就テ詳細ニ試驗セリ即チ犢牛ノ肝臟ヨリ重サ十瓦ノ一片ヲ切截シ之ヲ硝子蓋内ニ容レ之ニ陶土ヲ充填シテ肝臟切片ヲ周圍ヨリ包被シタリ之ト對比

スルガ爲ニ他ノ硝子蓋ニ肝臟切片ヲ容レ鋸屑、削リタル木片、穀粉、綿帶、「ムル」ヲ充タシ被包セリ此試驗ハ室溫ニ於テ行ヘリ

然ルニ陶土ハ肝臟片ニ強キ乾燥作用ヲ及ホスヲ確定シタリ則チ十四日ノ後肝片ハ其重量ノ五十一%ヲ失ヒ無臭ニシテ全ク乾燥シ皮革狀ヲナセリ他ノ物質ヲ以テ充填セラレタル肝片ハ斯ク甚シク乾燥セザリキ但シ鋸屑及穀粉ニ於テモ肝片ハ無臭トナリキ」肝臟片ニ代ヘテ他ノ試驗ヲ行ヘリ則チ同形ノ牛肉ヲ乾燥性物質ヲ以テ善ク被包シ布片ニ包ミ試驗室内ニ懸吊セリ其成績ハ最初ノ試験ト同一ニシテ肉片ハ陶土中ニ於テ石ノ如ク硬化シタリキ又煮熟脱殻シタル雞卵ニ於テモ之ニ似タル成績ヲ得タリ卵殻ヲ具フル生卵ヲ陶土中ニ納メ温室ニ於テ乾燥セシニ單ニ氣中ニ乾燥セシヨリモ速ニ重量即チ水分ノ五倍ヲ失ヘリ

此ノ如ク陶土ノ著シキ乾燥力ハ其防腐作用ノ原因ト看做スベキ者タリ抑モ微菌ハ一定ノ水分アラサルハ發育ヲ遂クルヲ能ハス酸酵及腐敗ノ作用モ亦然ラサルハナシ故ニ陶土ヲ以テ被包セル創傷ニ於テハ陶土ノ吸收性及乾燥性作用ノ爲メニ微少ノ分泌物アルモ忽チ吸收セラレ微菌ノ培養地タル性質ヲ廢絶セシムル者ニシテ從テ陶土ハ創傷ノ綿帶劑トシテ防腐的及制腐的作用ヲ能ク發展スル者タルヤ疑フ可ザルナリ

「ドクトル」ハンスフイシエル氏ハ數年來麻痺ヲ患フル患者ノ兩足踵ニ十一月ノ末頃速ニ進行スル壞疽ヲ發セルヲ見タリ(患者ハ五十歳ニシテ全ク失明シ久シク臥蓐セリ)壞疽部ノ皮膚ハ病勢速ニ廣ク且深ク蔓延シ惡臭ヲ放テリ依テ久時「リゾール」等ノ足浴、沃度仿謨及他ノ防腐劑ヲ用ヒタレモ無効ニシテ壞疽ノ急進ヲ制止スル能ハサリキ當局ノ外科醫「プロフエツソル」クラウスネル氏ハ兩足ノ切斷術ヲ行ハントセシモ其目的ヲ達セサリシ依テ陶土ヲ試用セント決シタレモ之ニ多效アルヲ期セス兼テ過滿掩酸加里ノ持久足浴ヲ行ヒ夜間ハ多量ニ陶土ノ粉末ヲ散布シ創面ハ全ク陶土ヲ以テ被包セラレタリ然ルニ其效ハ赫著ニシテ使用後三日ニシテ惡臭消散シ創傷ノ外觀佳良ニ赴キ其後ノ經過益々善良ナリシ十二月十日ニハ全ク臭氣ヲ認メス毎日綿帶ヲ交換スルモ分泌極メテ少許ニシテ創縁ニハ良肉芽ヲ生シタリ同月廿五日ニハ右足踵ノ創傷ハ全然肉芽發生シテ癒合ニ就カントシ翌二月ニハ全創面數日來殆ト癒合シ結痕セリ

「ドクトル」ホツベル氏ハ指ノ切斷及離斷ト足潰瘍トニ殺菌シタル陶土ヲ用ヒタレモ良效アラサリシ唯創面ニ痂皮様物ヲ生シ其下ハ化膿セリ故ニ足潰瘍ニ於テハ陶土ヲ以テ開放療法ヲ行ヘリ氏ハ一日三回硼酸液ヲ以テ嚴ニ創面ヲ洗滌シテ陶土ヲ散布シ其上ニ「ムル」壓抵布ヲ貼セシニ其效甚タ善良ナリキ又同氏ハ子宮癌ノ甚シキ出血アリテ惡膿ヲ分泌スル者ニ陶土ヲ用ヒシニ八日ノ後困苦ノ症狀消散シタリキ故ニ陶土ハ之ニ似タル症及潰瘍ニハ開放療法ニ用ユヘシト

「ドクトル」ゲラルギー氏ハ頑固ノ子宮頸管加答兒ニ陶土ヲ用ヒ良效ヲ得タリ則チ腔内、腔部、頸管ヲ適宜ニ清潔トナセル後チ子宮口ノ周圍ニアル粘液囊腫ヲ亂刺刀ヲ以テ切開シ出血ノ閉止シタル後嚴ニ陶土ヲ以テ子宮頸管ニ壓抵シ腔部ハ全ク陶土内ニ埋没シ且半子宮

鏡ヲ以テ充實シタリ此ノ如クシテ必要ニ從ヒ陶土ヲ使用シタルニ其奏效甚タ佳良ニシテ腔部ノ病的變狀消退スルト共ニ下腹ノ自覺症及白帶下モ亦全ク消散スルヲ見タリキ

○「トラウマトール」(Traumatol) (沃度「クレシネ」)

防腐藥

性状 本品ハ沃度仿謨ノ代用品ニシテ其卓拔ナル性質ヲ具ヘテ而カモ其不快ノ性質ヲ有セサル品ナリ本品ハ紫紅色無形ノ非常ニ微細輕鬆ノ粉末ニシテ臭氣ナシ化學上ノ構成ハ石炭酸兒「クレソール」ノ「クレシール」酸ト沃度トヨリ成ル者ニシテ約五四、四%ノ沃度ヲ含有ス本品ノ重量ハ〇、六七(沃度仿謨ハ二、〇)ヲ有ス水及酸類ニ溶解セズ強硝酸或ハ硫酸ニ遇ヘバ沃度ヲ放チテ分解セラル酒精ニハ殆ト溶ケス依的兒ニ僅ニ溶解シ嘔囉仿謨、強亞兒加里ニ容易ニ溶解ス硫化炭素ニハ最モ溶解シ易シ本品ハ亞兒加里性溶液ヨリ稀硫酸ニ由リテ沈澱セラル又光線及空氣ニ遇フモ變化セズ

作用 「ドクトル」リラン氏ハ本品ヲ以テ微菌學的試驗ヲ行ヘリ即チ研究室内ノ空氣中ニ放置セル培養膠質ニ沃度仿謨ヲ散布セシニ多量ニ増殖物アルヲ認メ「トラウマトール」ヲ散布セシニ數週間全ク變化ナカリキ又黃色葡萄狀球菌ノ培養基ニ沃度仿謨ヲ散布セシニ四十八時間ノ後全ク溶流シタレモ同培養基ニ「トラウマトール」ヲ散布シタルニ十一日間變化ナカリキ初メ僅ニ「リンゼン」豆大ノ混濁ヲ生セシモ尙溶流セサリキ氏ハ此試驗ニ基キテ(一)「トラウマトール」ハ沃度仿謨ト同ク直接ニ觸接スルニ由リテ萌芽ノ増殖ヲ制御スルモノ、如シ然レモ之ヲ撲滅スルコトナク若シ之ヲ適當ノ培地ニ致スキハ更ニ發育スルノ性能ヲ有ス

(二)本品ハ薄層ニ於テ膠質穿刺培養基ノ表面ニ散布スルキハ幻微有機體ノ發生ヲ遲延セシメ且沃度仿謨ニ於ケルヨリモ頗ル久時ノ間培養基ノ溶流スルヲ妨害スル者ナリト

本品ノ無毒性ヲ證スルカ爲メ一二ノ動物試驗ヲ行ヘリ體重五百瓦以上ノ豚鼠ニ本品ノ粉末一、五ヲ浮ベタル液ヲ皮下ニ注射セシニ其多量アリシカ爲メニ(浮游ニ供セル)「バラフィン」ト共ニ使用甚タ容易ナラサリキ依テ更ニ一、〇ノ粉末ヲ直チニ體重三百五十瓦ノ豚鼠ノ腹腔ニ致セシニ二回トモ中毒症狀ヲ發セスノ能ク本品ニ堪ヘタリ其無毒ナルハ此量ヲ以テ明ナリ是レ沃度仿謨、「デルマトール」及「アイロール」ニ反スル所ナリ沃度仿謨ハ既ニ一、〇ニノ體重一機瓦ノ豚鼠ヲ斃スニ足リ「デルマトール」「アイロール」ハ體重每一機瓦ニ一及二瓦ヲ以テ斃スニ足レリ

應用 此新防腐藥ノ應用及價值ニ於ケル報告ハ未タ甚タ多カラズ佛國ニ於テハ本品ヲ外科及眼科ニ使用シタルニ其成績甚タ善良ナリシト云フ之ヲ用ユルニハ純粉末「ガーズ」、華攝林、屈利設林トナシ又古魯胃謨等トナス其他五乃至十%ノ「トラウマトール」亞鉛泥劑、十%「トラウマトール」、ラノリン、ワゼリン」及十乃至五十%ノ「トラウマトール」嘔囉仿謨ヲ製シテ供用ス

本品ハ梅毒性疾患、外科、皮膚病ニ供用スベシ梅毒性疾患ニ於テハ先ツ下疳ニ用ユルニハ一日二回厚層ニ撒布スルキハ下疳毒ノ發育ヲ制止ス瘻管及潰瘍并ニ尿道内ニ送入スルニハ「トラウマトール」桿ヲ用ヒテ良效アリ此品ハ沃度仿謨ヨリモ溶解シ難キニ由リテ久時藥力

ノ感應スルヲ得ル利アリ」陰部ノ小糜爛其他陰部水泡疹ニハ被覆劑トシテ「トラウマトール」古魯胃謨ヲ用ヒ卓效アリ二三回之ヲ塗布セル後ハ水泡乾涸シテ速ニ治ス」而シテ「トラウマトール」古魯胃謨ハ著シキ粘着力アリテ小裂瘡及手ノ損傷ヲ被覆スルニ適ス即チ皮膚ハ認め難キ不透性ノ被膜ヲ以テ被包セラレ數時間乃至數日屢洗滌スルニ拘ラス粘著スルノ性アリ

本品ハ粘膜病殊ニ口腔及咽頭ノ梅毒性疾患、梅毒性潰瘍等ニ吹粉器ニ由リテ粉末ヲ散布シ或ハ「トラウマトール」嚼囉仿謨(多クハ五十%ノ溶液)トナシ用ユ之カ使用ハ常ニ自覺ノ苦惱ナク善ク堪ユル所ニシテ狀況忽チ佳良トナル勿論此療法ハ同時ニ行ヘル水銀療法或ハ沃度加里ノ内服ノ補助ト爲スベキノミ」之ニ反シテ陰莖、陰囊、肛圍及肛門入口、女子生殖器ノ濕性蕾疹ニ於テハ水銀療法ヲ行ハスシテ唯局所ニ本品ノ粉末ヲ散布スルノミニシテ此疾患ノ治スルヲ見タリ

子宮腔部ノ糜爛、淋疾、慢性子宮加答兒ニハ粉末ヲ散布シ或ハ本品ノ粉末若クハ軟膏ヲ以テ被包セル綿球ヲ挿入シテ甚タ良效アリ又直腸粘膜ノ糜爛、直腸潰瘍ニモ同法ニ由リ使用スベシ

新手術創ノ被包、包莖手術ノ縫合部、腺腫瘍ノ除去、便毒ノ全摘出ニハ本品ノ粉末及「ガーズ」ト用ヒ其上ニ繃帶ヲ施ス之ニ反シテ小手術例之、乳嘴腫、疣贅、粉瘤ノ除去ニハ已ニ上述シタル古魯胃謨ヲ以テ單ニ被覆スレバ足レリ背側切開又ハ環狀切開ヲナセル包莖手術ニ於

テモ此法ヲ施ス即チ此場合ニハ其縫合部ニ「トラウマトール」古魯胃謨ヲ塗布シ其上ニ一片ノ「ガーズ」ヲ置キ之ヲ更ニ薄層ノ古魯胃謨ヲ以テ附著スベシ此法ハ陰莖ノ纏絡繃帶ニ比スレバ勝レリ蓋シ繃帶内ニ尿ノ流入スルニ由リテ汚染シ從テ其尿分解シテ更ニ炎症ヲ發スレバナリ

開放セル潰瘍創及空洞創ニハ本品ハ善良ノ防腐的作用ヲ奏ス即チ繃帶ノ交換後創液善ク吸收セラレ潰瘍面清潔トナリテ新鮮赤色ノ肉芽ヲ生スルヲ見ル

本品ハ乾燥ニシテ無刺戟性ナルヲ以テ非梅毒性皮膚病ニ用ヒタリ龜頭炎、皸裂等ニ於テハ頗ル速ニ分泌減少シテ治療シタリ又濕疹殊ニ其濕潤期ニ本品ヲ應用スベシ即チ五%乃至十%ノ「トラウマトール」亞鉛泥劑ヲ用ヒ繃帶スルニ由リテ暫時ニ炎症症狀減退シ忽チ治療ス皮膚潰瘍ニハ粉末ヲ散布シ或ハ軟膏及泥劑ヲ以テ繃帶(濕卷法ニ由リテ清潔トナセル後)スルニ甚良效アリテ良肉芽發生ス本品ヲ無刺戟性ナルノ證ハ左ノ二例ヲ以テ知ルベシ即チ一例ハ數多ノ癩腫ヲ患ヘタル者ニシテ其皮膚頗ル過敏ナルヲ以テ微弱ノ醋酸礬土液ノ如キ劑ヲ用ユルモ濕疹ヲ發セリ依テ癩腫ノ切開後本品ノ粉末、軟膏、泥劑ヲ用ヒテ繃帶シタルニ何等ノ損害ヲモ起サ、リキ他ノ一例ハ顔面ノ狼瘡ニ十%ノ「ピロガロール」軟膏ヲ用ヒシニ強キ刺戟症、口唇及口内ノ浮腫ヲ起セシヲ以テ「トラウマトール」ヲ用ヒタルニ刺戟症狀全ク消散シ嫩弱ノ上皮ヲ生シ速ニ被膜ヲ生シテ結痕セリ
以上ノ實驗ヲ結論スルニ本品ハ無臭、無毒、無刺戟性ニシテ而カモ善良ノ防腐性質アルヲ以

テ宜シク之ニ類似ノ藥劑ニ代用スルヲ得ヘキ者トス(以上「ドクトル」ウエ、シャツテンマン氏ニ由ル)

○「ドユボイシア」葉(點眼水トス)

○「ドユボイジーネ」Duboisine.

散瞳劑

症狀應用

「ドユイジン」ハ「オーストラリア」ノシドニーフースバスニ産スル「ドユボイシア、ミオボロイデス」樹中ニ含有スル鹽類基ニシテ褐色ノ塊ヲナシ氣中ニ潮解シ亞兒加里反應ヲ呈シ水ニ溶ケス酒精、依的兒、嘔囉仿謨ニ溶解ス本品ハ著シク瞳孔ヲ散大スルノ效アリ硫酸「ドユボイジン」ヲ亞篤魯比涅ノ代用品トナシ用ユ效ヲ奏スル時間、亞篤魯比涅ヨリ速カナリ而シテ亞篤魯比涅中毒ヲ發シ易キ患者ニ稱用ス又鎮靜藥、催眠藥トノ精神病患者ノ興奮状態ニ内用或ハ皮下ニ注射ス

最モ多ク用ユルハ硫酸「ドユボイジン」(黃色無形引濕性ノ物質)ニシテ皮下注射或ハ内用ニハ婦人ニ於テハ〇、〇〇〇五乃至〇、〇〇一「男子ニハ〇、〇〇〇五—〇、〇〇二ニ一回極量ハ〇、〇〇一ナリ

○硫酸「ドユボイシーネ」〇、二五 留水

五〇、〇

○硫酸「ドユボイシーネ」 〇、〇五 留水二、〇

右點眼用 (瞳孔散大藥)

右半筒皮下注入 (盜汗)

○「トング」液 (フィジ島ニ産スル一植物ニシテ神經痛ニ二、〇—五、〇ヲ用ユ)

○「トラデスカンチア、クレクタ」 (止血劑)

○「トリアンテマ、オプコルダタ」 (下泄劑)

○「トリウムフエッタ、セントロロバ」 (赤痢ニ用ユ)

○「トクイノール」 (ウアレन्チネル氏製人造麝香ナリ)

○當藥 センブリ草

大島盛造氏ハ東京醫事新誌第七百五號乃至第七百一十一號ニ當藥ノ苦味ハ規那、大黃、龍膽等ニ優ルヲ報告セリ

○「トロポン」 Tropon.

營養劑

性状應用

本品ハ灰白褐色ノ細粉末狀物質ニシテ種々ノ動物性及植物性蛋白質ヨリ製セル化學上純粹ノ蛋白トナス水ニハ溶解セス殆ト全ク無臭無味ナリ平均本品ハ百分中ニハ蛋白九十乃至九十七%、灰分〇、五—一%依的兒越幾斯〇、五%ヲ含有ス本品ハ營養劑トシテ胃腸ヲ刺戟セス容易ニ吸收セラレ適當ノ方法ニ從フトキハ數月間用ユルモ多クハ嫌厭ヲ來タサス其廉價ナルヲ以テ患者ノ食品及強壯食餌ノ目的ニ適ス一日量四〇、〇—六〇、〇ヲ應用ス

○「トリール」(肉ヨリ得タル蛋白越幾斯ニシテ溶ケ易ク肉羹汁ノ調製ニ宜シ)

○「トリフェルリン」 Triferrin

本品ハ「バラスクレイン」酸鐵ニシテ窒素九%磷二、五%鐵二十二%ヲ含有ス弱炭酸曹達液

ニハ容易ニ澄明ニ溶解スルモ人體胃液ノ稠度ヲナセル稀薄鹽酸ニハ溶解セズ本品ヲクレム
ベレル氏ハ萎黃病ニ對スル有效無害ノ藥劑トナシ賞用シ患者好テ服用シ且能ク之ニ堪ユ大
人ニハ一日三回〇、二ヲ投ス

〇「トリオナル」Triol.

本品ハ某種油類六十七%ト芳香性「ジアスターゼ」麥芽越幾斯三十三%トヨリ成レル膠樣乳
液ニシテ本品ハ其非常ニ微細ニ水ニ混合スルカ爲メニ乳汁狀ニ溶解シ純粹ノ油トシテ善ク
吸收セラル而シテ惡味アル藥物ニ爽快ニシテ厭忌スルニ足ラサル味ヲ賦與シ以テ其服用ヲ
容易ナラシム

催眠劑

〇「トリオナル」及「テトロナル」Triolum et Tetroulum.

性狀應用

此兩品ハ頗ル「ズルフオナル」ト類スル者ニシテ「テトロナル」ハ銀光ア
ル結晶狀小板ニシテ八十九度ニ溶解シ無臭無味ニ冷水ニ溶ケ難ク熱湯、酒精、依的兒ニ溶解
シ易シ「トリオナル」ハ七十六度ニ溶解スル他ハ皆「テトロナル」ニ同シ此兩劑ハ著明
ナル催眠ノ效アリ「スルフオナル」ノ寸效ナキ者ニモ往々效ヲ奏スバルト及ルムベル氏ハ
此兩劑ヲ催眠劑トス一回量一、〇—三、〇ヲ用ヒ從來用ヒシ最大量ハ一日量四、〇ナリキ

〇「トリオナル」〇、五—一、〇

右爲一包、毎夕一包、服後多量ノ溫湯又

ハ茶ヲ與フベシ

〇「トリオナル」〇、二五—一〇、五

右爲一包毎夕一包(盜汗)

〇「トリフェニン」Triphenin

本品ハ「パラフェネチジン」ト「プロピラン」酸トヲ熱シテ得タル者ニシテ水ニ溶ケ難シ解熱劑
及鎮痛劑トシ〇、五—一〇、六ヲ投ス

〇「トロバコカイン」Tropacocain

茲ニハ鹽酸「トロバコカイン」ヲ掲クベシ「トロバコカイン」ハ古加乙涅ト共ニ古加樹中ニ存
スル類鹽基ナリ又本品ハ「ブソイドトロベイン」ト「ベンツオエ」酸トヲ以テ合製スルヲ得ヘ
シ

知覺麻酔劑

性狀 鹽酸「トロバコカイン」ハ無色針狀ノ結晶ニシテ水ニ容易ニ溶解シ攝氏二百七十一度
ニ沸騰ス

作用及應用

〇、二%ノ食鹽ヲ加ヘタル〇、一—〇、五%ノ溶液ハ水蒸氣ヲ流通スルカ
或ハ煮沸ニ由リテ殺菌スルモ更ニ變化ヲ受ケス其效力ヲモ失フコトナシ局所麻酔藥トシテ
シユライヒ氏滲潤麻酔及ラーベルスト氏限局麻酔其他齒科(四—五%溶液)ニ皮下注射シ又
古加乙涅ノ代用劑トシテ賞用スベシ即チ本品ハ毒性僅少ニシテ而カモ強ク且速ニ知覺ヲ麻
酔セシメ貯藏ニ適シ新製造法ニ由ル製品ハ古加乙涅ヨリモ甚高價ナラズ毫モ瞳孔散大セズ
シユライヒ氏滲潤麻酔ニ於テ第一號液及第二號液ニ對シ古加乙涅ニ於ケルカ如キ同強度ノ
「トロバコカイン」ノ應用スヘキ溶液即チ〇、一%ハ第二號液ニ、〇、二%ハ第一號液ニ同シ
配伍料トシテ〇、二%ノ食鹽液ヲ加フベシ第三號液ハ「トロバコカイン」ノ比較的無毒ナル

トトリナル、トリオナル及テトロナル、トリフェニン、トロバコカイン

カ爲メニ全ク無用ニ屬ス又クステル氏ハ溶液中ニ莫兒比涅ヲ加フルヲ廢セリ而ノ實驗上術後痛ヲ來タス場合ニハ手術後直チニ莫兒比涅ヲ皮下注射スベシ

本品ノ二乃至三%ノ液ヲ點眼スルキハ局部所麻酔ヲ致ス性アリ其麻酔ハ同強度ノ古加乙涅溶液ヨリモ速ニ發現スレモ其持續時間稍短カシ且局部所貧血ヲ來サス皮下注射スルキハ其局部ノ知覺脫失ヲ起ス本品ノ吸收後ハ其作用古加乙涅ニ類スレモ中毒ノ性甚ダ少シトス

本品ヲ用ユルニハ「トロバコカイン」錠ヲ以テス(シユライヒ氏麻酔及ラーベルスト氏限局麻酔)之ニ第一號第二號及第三號ノ別アリ

鹽酸「トロバコカイン」ハ同度ノ知覺麻酔作用ニ於テハ鹽酸古加乙涅ヨリハ約三倍毒性少シ故ニ主トノ局所麻酔ニ適ス

「トロバコカイン」ハ必ス飽水二五、〇中ニ第一號錠(「トロバコカイン」〇、〇五食鹽〇、〇五)ヲ加ヘタル者ハ知覺過敏ナル炎性部分ノ知覺麻酔ニ適ス〇第二號錠(「トロバコカイン」〇、〇五食鹽〇、〇一)ヲ飽水五〇、〇ニ加ヘタル者ハ本來ノ正規溶液トシテ諸般ノ手術ニ使用スベシ此溶液ヲ製スルニハ小ナルエルレンマイエル氏煮沸嚮ヲ以テスルヲ最良トス必要ニ應シテ一個或ハ數個ノ錠ヲ屢、煮沸ニ由リテ殺菌シタル適應量ノ冷水ヲ加ヘテ集合且振盪スベシ

用量 動物試驗及人體ノ實驗ニ由レバ極量ハ〇、二%「トロバコカイン」食鹽溶液(第一號錠)即チ〇、五ナルヲ以テ第一號液二五〇、〇第二號液五〇〇、〇ヲ用ユルモ危險ナシラーベルスト氏限局麻酔(此法ハ指、趾、陰莖ノ手術ニ適ス)ニハ第三號錠(「トロバコカイン」〇、〇五食鹽〇、〇二)ヲ飽水一〇、〇ニ加ヘ用ユ

最單簡ナル用法ハ當該患肢ノ上方ヲ護謨帶ヲ以テ結縛シ其結縛部ノ直前ニ於テ主神經幹ノ經路四點ニ〇、五%ノ溶液半筒宛深部ニ向ヒ斷エス壓迫シツ、注射スベシ注射後四五分ニシテ知覺ノ導通斷絶セラレテ當該肢部ハ全ク疼痛ヲ感セズ而シテ護謨結縛ヲ除ケル後再ヒ知覺恢復セラル

〇本品ハ眼科ニ於テ局所知覺麻酔藥トシテ用ユ眼内異物竄入等ヲ除クニハ麻酔ヲ來スヲ神速ナルヲ以テ古加乙涅ニ優レリ或患者ニ於テハ數秒時持續スル輕キ灼熱ヲ來スヲアリ點眼液ニハ食鹽溶液ヲ以テ三%ノ者ヲ製スベシ合成的ニ調製セル製劑ハ天然ニ存スル類鹽基ヨリモ優レリ何トナレバ後者ハ屢、刺戟症狀ヲ喚起スレバナリ

〇齒科ニ於テ鎮痛及全ク無害ノ劑トシテ拔齒ニ本品ヲ皮下注射ス大人ノ拔齒時ニハ四―五%液半筒乃至二筒ヲ抜クベキ齒數ニ應シテ皮下注射ス

〇「チオール」Thiol. (獨逸「イヒチロール」)

性狀應用 本品ハ「イヒチロール」ノ如ク飽和セザル炭化水素ノ混合物ニシテ其純品ハ凡十二%ノ硫黃ヲ含ミ臭氣甚少クシテ流動ト乾性ノ兩種アリ甲ハ暗褐色舍利別様ノ液ニ乙ハ褐色ノ粉末ヲナシ共ニ善ク水ニ溶解ス

本品ノ效用ハ「イヒチロール」ノ如シ則チ血管收縮、水分奪却、輕易ノ防腐ノ效アリ唯急性及亞急性皮膚病ニ外用スルノミ殊ニ神經性、傳染性、或ハ外傷ノ者ニ於テ然リ速ニ治癒ノ效アリ

リ之ニ反ノ慢性皮膚病及其下在ノ組織及皮膚微病ニハ效ナシ
用量 流動「チヨール」ハ灑法、水溶液ノ塗布（一分水三乃至五分）トシ軟膏ハ一分「ラノリ」
 「脂肪十分ノ者トス乾性」チヨール」ハ純品或ハ本品一二分澱粉、滑石、亞鉛華、次硝酸蒼鉛
 等十分ノ者トナシ散布ス

○流動性「チオール」一五、〇 縮水 屈利設林 各二〇、〇
 右一日一回外用

○「チラニン」(即チ硫化「ラノリン」ニシテ皮膚病ニ外用ス)

○「チヨフォルム」Thioform.

防腐藥

本品ハ帶黄灰白色無臭無味ニシテ甚微細ノ粉末ナリ水、酒精及依的兒ニ溶ケス亞兒加里ヲ加
 ヘテ煮ルルキハ分解セラル

無毒非刺激性ノ乾燥防腐藥トシ創傷療法ニ甚適當ス是レ廣大ナル創面殊ニ火傷及大膿潰ノ
 癩痕結成ヲ催セバナリ軟膏トシテ濕疹ニ用ユフロン氏ハ眼科ニ於テ甚シキ分泌アル炎症ニ
 用ヒタリ中耳炎齒科ニ於テ清潔トナセル齶齒腔、齒瘻ノ填充、其他ハイモル氏寶ノ化膿ニ應
 用ス

散布ニハ純品ヲ用ヒ眼内ノ散布、耳内ノ吹入ニハ純品ヲ以テシ軟膏ニハ「ラノリン」ヲゼリ
 シ」ヲ以テ十%ノ者ヲ製ス

○「チオジナミン」Thiosmanninum. $CS(NH_2) \cdot NH_4H_5$.

又「ロダールリン」「アルリールスル」「アセリール」「チオ」尿素、

皮下注射藥

本品ハ無色或ハ淡黄色ノ結晶ニシテ七十四度ニ於テ溶融シ水、酒精、依的兒ニ容易ニ溶解ス水
 溶液ハ中性ニシテ苦味アリ

ヘブラ氏ハ本品ヲ皮下注射トシ瘰癧、纖維性腫瘍、狼瘡、骨瘍、骨疽等ニ用ヒタルニ恰モ
 「ツベルクリン」ニ似タル反應ヲ起シ多クハ治癒ヲ營メリ即チ五%ノ酒精溶液半筒乃至三分
 一筒(〇、三—〇、四五瓦ノ「チオジナミン」)ヲ每周二回皮下注射スベシ後ニハ增量ノ一乃至
 一筒半ニ至ル而シテ注入スルルキハ暫時疼痛アリ速ニ吸收セラル、ヲ以テ已ニ注射後數分ニシ
 テ口内ニハ蒜様ノ味ヲ覺フベシ○注意ヲ加ヘ貯フベシ

○「チオジナミン」一、五 稀酒精八、五

右皮下注射料

○「チユサレア、エスクレンタ」(印度ノ植物ニシテ蜜尿病、肝病ニ用ユ)

○「チエシウム」抱合物 (癲癇制止劑)

(イ) 靛羅謨安母紐謨「チエシウム」(ロ) 炭酸「チエシウム」(ハ) 水酸化「チ

エシウム」(ニ) 硫酸「チエシウム」(ホ) 靛魯謨安母紐謨「チエシウム、ヒジ

ウム」(用量二、〇—三、〇)

○「チエートルム、バルクイ」(筋痛、腰痛等ノ鎮靜劑)

○「チートラク」(水腫、下痢、皮膚病、梅毒、痔疾等ニ用ユ)

消炎、殺菌

○「チゲノール」 Thiganol.

性状應用

本品ハ硫基酸ノ那篤倫鹽ニ十%ノ硫黃ヲ含有ス褐色濃稠ノ舍利別樣殆ト無味ノ液ニ水、稀酒精及屈里設林ニ溶解ス其效用ハ「イヒチノール」ノ如ク有機的ニ化合セル硫黃ノ治效アリテ而カモ「イヒチノール」ノ如キ不快ナル臭味及副作用ヲ有セズ本品ノ「イヒチノール」ニ優ル長所ハ(一)無臭殆ト無味ナルト(二)皮膚上ニ於テ甚タ速ニ乾燥シ粘著セサル被蓋トナルト(三)水ニテ容易ニ洗去セラル、ト(四)汚染セル機衣ヲ容易ニ清洗シ得ルト(五)皮膚ヲ刺戟セズ温和ニシテ癢痒及疼痛ヲ輕減スルト(六)本品ハ「イヒチノール」ヨリモ廉ニノ實地上ノ應用ニ適スルトニ在リトス

本品ノ作用ハ外用ニハ血管ヲ縮小シ炎症ヲ去リ吸收ヲ助ケ乾燥ヲ致シ癢痒ヲ止メ且殺菌ノ效アリ内用ニハ腸ノ腐敗作用ヲ減退シ腸ノ蠕動ヲ正クシ蛋白ノ分解ヲ制止シ細胞ノ同化作

用ヲ亢進ス故ニ應用ノ區域甚廣シ
外用 (一)皮膚病 (イ)濕疹ニハ其時期、種類、位置ヲ問ハス使用スルヲ得ベシ即チ或ハ散劑トナシ或ハ二十%軟膏トナシ用ユルニ速ニ癢痒及皮膚ノ滲潤ヲ減退シ皮膚ヲ乾燥シ薄ク且柔軟ナラシム

○「チゲノール」二〇、〇

右外用

○「チゲノール」一〇、〇 豚脂四〇、〇

右爲軟膏、外用

○「チゲノール」五、〇

歌貌拉氏軟膏五〇、〇

右爲軟膏 塗布

○「チゲノール」四、〇 小麥粉 亞鉛華

(ロ)癢痒及蕁麻疹ニ對スル本品ノ癢痒鎮靜作用ハ著明ニノ外皮ノ癢痒、陰門癢痒及蕁麻疹ニハ純品ノミヲ用ヒ或ハ左方ヲ用ユ

○「チゲノール」 酒精 各二〇、〇

右外用

肛門癢痒ニハ二十%ノ軟膏(豚脂ヲ以テ)トシ或ハ左方ヲ投ス

○「チゲノール」 〇、二 柯々阿酪適宜

右坐藥トナシ十個ニ分チ朝夕一個使用

(ハ)疥癬及黃癬ニハ殺蟲ノ效アリ疥癬ニハ先ツ患部ニ加里石鹼ヲ塗擦シ一時間ヲ經テ入浴セシメ後「チゲノール」ヲ十分ニ塗擦ス夜ニ及ンテ再ヒ入浴セシメ再ヒ「チゲノール」ヲ塗擦ス翌朝尙廣ク濕疹樣部アルキハ第三回ノ塗擦ヲ行フベシ治效ハ正確トス塗擦スルモ痛ナク外來患者ノ治療ニ適シ且無臭ナルヲ以テ大ニ便トス
黃癬ニハ痲皮ヲ去リ局部ノ毛髮ヲ除ケル後左方ヲ塗布スベシ

○「チゲノール」一〇、〇 撒酸三、〇 屈利設林 酒精 各五〇、〇

右外用

(ニ)瘡瘡及酒皰鼻ニハ本品ハ多量ノ硫黃ヲ含ムカ爲メニ良效アリ或ハ十%「チゲノール」石

鹼ヲ以テ洗滌シ或ハ尙濃溶液(二十乃至五十%)ヲ用ユ或ハ本品ニ撒酸ヲ加用スルヲアリ
○「チゲノール」 水、酒精 各一〇、〇 撒酸一、〇

右塗布料

(ホ)丹毒ニハ本品ハ「イヒチヤール」ノ代用品トスベク實ニ殺菌消炎及無臭ノ長所アリ用法
ハ皮膚潮紅部ノ周邊二指横徑マテ本品ヲ一日二三回塗布シ其上ニ冷巻法ヲ行フ

(ハ)凍瘡ニハ本品ノ血管收縮作用ノ爲メニ速ニ效アリ夜間左方ヲ塗布ス

○「チゲノール」一〇、〇 古魯胃謨二〇、〇

右爲軟膏 外用

○「チゲノール」五、〇 「レゾルチン」單

寧酸 各一、〇 水五〇、〇

右外用

右混和外用

○「チゲノール」三、〇 安息香亞鉛華軟

膏二〇、〇

(二)關節及ヒ筋肉ノ急慢痲質斯、腰痛、坐骨神經痛ニハ本品ノ硫黃含量多キガ爲メニ奏效
アリ即チ純品ヲ塗擦シ或ハ等分ノ屈利設林ヲ以テ塗擦シ以テ其上ヲ綿ニテ被覆ス又左方ヲ
用ユ

○「チゲノール」 嘔囉仿謨 各一〇、〇 樟腦丁幾四〇、〇

右混和 一日二三回塗布

(三)婦人病(即チ子宮頸加答兒、內膜炎、子宮外膜炎、子宮周圍炎及子宮附屬器ノ炎症(骨盤

滲出物)ニモ亦本品ハ消炎及吸收ヲ催シ鎮痛作用アリ此際ニハ腔綿球トシ十乃至二十%ノ
「チゲノール」屈利設林トナシテ用ヒ或ハ二十%軟膏(本品一〇、〇豚脂四〇、〇)ヲ塗り或ハ
左ノ坐藥ヲ用ユ此ハ殊ニ子宮內膜炎、外膜炎ニ適ス

○「チゲノール」一〇、〇 鹽莫 莨菪越幾斯各〇、〇 柯々阿酪一、五

右混和十個トナシ一日一乃至二個腔内ニ坐藥トシテ挿入ス

其他淋疾(本品二、〇 留水九八、〇)注射シ攝護腺炎及其肥大ニ坐藥(本品〇、一 莨菪越幾斯〇、
〇 柯々阿酪適宜ヲ一個トス)トナシ用ヒ副辜丸炎ニ塗布スレバ鎮痛及腫脹減退ノ效アリ
肛門裂瘡及痔核ニハ直ニ疼痛癢痒ヲ減ス(本品五、〇 柯々阿酪二〇、〇)ヲ五分シ杆トナシ便
通後半分ツ、挿入ス)痔核ニハ純品ヲ一日二回塗布スレバ痛ヲ去リ癢ヲ退ケ且痔核縮小ス
内用、ニハ上記諸患ノ外用ヲ助クル爲メ用ユ又呼吸器ノ加答兒ニハ分泌ヲ減シ其他一般ニ身
體ノ營養亢進ス

○「チゲノール」一〇、〇 メンタ水二〇、〇

○「チゲノール」六、〇 甘草末及蜀葵根

末適宜

右一日三回二十乃至三十滴宛

右爲六十九一日三回乃至五丸宛

○腸窒扶斯診斷液 *Typhusreagenzien.*

此液ハ傳染病研究所部長淺川範彦氏ノ創意調製ニ係ル所ニシテ其目的タルヤ腸窒扶斯疑似
患者ニ近時應用セラル、ウイダール氏凝集反應(即チ腸窒扶斯菌ノ純粹培養ニ腸窒扶斯患

者ノ血清ヲ混シテ肉眼并ニ鏡檢ヲ行フニ始メハ箇々散在シタル窒扶斯菌相密集シテ同菌ノ凝塊ヲ生スル現象ナリ)ヲ試驗スルニ當リテ淺川氏ガ著意セラレタル所ニ由レバ腸窒扶斯菌ノ培養基調製法ノ如何ニ由リテハ腸窒扶斯患者ノ血液ニ遇フモ凝集シ難キカ或ハ全ク凝集セザルコトアリ爲メニ誤診ヲ招クコトナシトセス故ニウイダール氏凝集反應ノ有無ヲ試驗セント欲セバ豫メ試驗ニ供スル腸窒扶斯菌ノ凝集力(受凝力)ノ鋭敏ナルヤ否ヤヲ檢シ必ス其感應ノ鋭敏ナルモノヲ用ヒサル可ラスト云フ依テ同氏ハ一定ノ方法ヲ以テ受凝力ノ鋭敏ナル腸窒扶斯菌培養ヲ行ヒ之ヲ〇、五%「フォルマリン」水ニ混和シテ殺菌シ室内ニ貯ヘ一年五ケ月間^{一夏}經過セシモ受凝力ニ著シキ變化ナキコトヲ證明セラレタリ此方法ニ由リテ製シタル死菌液ヲ腸窒扶斯診斷液ト名ケ腸窒扶斯疑似患者ニ就テウイダール氏反應ヲ檢スルニ臨ミ汎ク一般醫師ノ使用ニ適スル者トセリ(詳細ハ細菌學雜誌第五十四號ヲ參照アルベシ)

(用法)本液ヲ用キテ腸窒扶斯疑似患者ヲ診斷スルニハ先ツ本液ヲ五倍ニ稀釋シ之レニ其患者ノ血清^{血液又ハ發泡液モ同一ナリ}ヲ混和シ其血清カ本液ニ凝集反應ヲ呈スレハ其患者ハ窒扶斯病者ナリト診定シ得ベシ是レ即チウイダール氏診斷法ノ主眼ナリ

凝集反應トハ元來平等ニ濁濁セル本液カ時間ヲ經過スルニ隨ヒテ微細粉末様ノ沈澱ヲ浮遊スルニ至リ其物漸次増大シテ雲絮狀小片トナリ終ニ器底ニ沈下シ上層ハ透明ト爲ル顯象ニシテ其沈澱ハ巨數ノ窒扶斯菌體ガ相密著聚合シテ生シタルモノナリ故ニ此顯象ヲ凝集反應ト稱ス

人若シ凝集反應ノ顯象ヲ試ミニ目擊セント欲セハ五倍ニ稀釋セル本液五、〇ニ付調理用常醋數滴ヲ混和スベシ然ルトキハ前記ノ同一ノ凝集反應ヲ呈セシメ得ベシ

本液ヲ以テ腸窒扶斯ヲ診斷スル用法及順序ノ詳細ハ淺川氏腸窒扶斯液ノ販賣者タル東京神田淡路町一丁目後藤節藏ヨリ其詳細ノ使用書ヲ得テ知ラルベシ

此診斷液ヲ以テスレバ左ノ價値アリ(一)一兩日間解卵器ニ於テ培養スルノ煩勞ナクシテ簡便ニシ且隨時使用シ得又受凝力ノ鋭鈍ヲ檢スルニ及ハサルト(二)血液採取時及生活窒扶斯菌ヲ混和スル際雜菌混入ノ恐(「フォルマリン」ノ爲メ雜菌ノ發育制止セラレ)ナキト(三)生活窒扶斯菌ヲ用ユルニハ細菌學ノ素養ナキ醫師ヲ行ハシメ難キモ此液ヲ以テスレバ培養ノ煩ナク誤テ病毒ヲ散蔓スルノ虞ナク汎ク一般醫師ノ使用ニ適ス且健者ノ血液モ鏡下ニハ凝集反應ニ類スル顯象ヲ呈スルコトアレモ本液ヲ以テ試験管内ニ生スル反應ヲ肉眼ニテ檢スレバ混同スルノ恐レナシ(類似反應ハ凝塊小ナルモ特異ノ凝集反應ハ凝塊大ナリ)依テ顯微鏡ヲ要セス

○「チナコール」(Thiocol) (及「シロキン」Sirokin)

「チナコール」ハ「アルトグアヤコール」硫酸加留膜ニシテ稍苦甘味アリ約五十二%ノ「グアヤコール」ヲ含ミ白色無臭ノ粉末ヲナシ氣中ニハ全ク變化セズ水ニハ甚タ善ク溶解ス(等分ノ比例)動物膜上ニハ甚タ濃溶液ニテモ全ク腐蝕セズ本品ハ炭酸結麗阿曹篤、炭酸「グアヤコール」ノ良代用劑ニシテ無毒ナルヲ以テ大量ノ結麗阿曹篤ヲ用ヒントスル場合ニ宜シ

肺結核藥

チナコール

本品ノ橙皮舍利別ニ溶解シタル十%ノ液ヲ「シロリン」ト云フ其味爽快ニ直ニ其儘ニ用ヒ又ハ水、葡萄酒、乳汁ニ加用ス一茶匙ノ「シロリン」ハ「チアコール」一、〇即チ「グアヤコー」ル〇、五ニヲ含有ス

本品ハ肺結核ノ外、氣管枝及喉頭ノ加答兒、肺氣腫、腐敗性氣管枝炎ニ用ユ「ドクトル」ヨツト、ウエ、フリーゼル氏ハ十九名ノ初期及増進セル肺癆患者ニ於テ本品ヲ専用シ或ハ本品ト桂皮酸ヲ兼用シテ満足スベキ效ヲ奏シタリ之ニ由リテ全身調和及體力ニ良影響ヲ及ホシ咳嗽益、有力トナリ往々全ク消散シ盜汗著シク減少シ營養及消化甚タ善良ニ赴キ多クハ體重漸次増進セリ其他慢性下痢ニ良效アリ

グ、ロッセバツハ氏ハ詳細ナル動物試驗ヲ行ヘル後チ其檢査ノ成績ヲ括論スルコト左ノ如シ
(一)「チアコール」ハ他ノ「グアヤコール」製劑ニ比スレバ水ニ溶解スルノ長所アリ(二)本品ノ水ニ溶解スルト氣中ニ變化セサルトハ隨意ノ調劑法ヲ以テ之ヲ用ヒ得ベカラシム(三)本品ハ諸他ノ結麗阿曹篤及「グアヤコール」劑ニ比スレバ動物體中ニ於テ頗ル吸收セラレ易キ特色アリ(約七十%)
(四)「チアコール」ハ無毒ナルヲ以テ内服及皮下注射ニ供スルヲ得
エ、ド、レンシー及ゲ、ベリー氏ニ由レバ(一)「チアコール」及「シロリン」ハ患者能ク之ニ堪ヘ吸收セラレ且好テ服用セラル(二)「チアコール」ハ一回量〇、五ニノ一日量二、〇—四、〇(「ラブライト」ニテ)ヲ用ユルモ別ニ害ナシ最適當ノ用量ハ一日量一、五—二、〇ナリ「シロリン」ハ大人ニハ一日量三乃至八茶匙ヲ用ユルヲ得ベシ(三)本品ハ肺結核ニ良能ヲ奏シ營

養及體力善良トナリ喀痰ノ量及結核菌減少シ尿量增多ス(四)本品ノ服用中若シ下痢ヲ起スルハ同時ニ「タンニール」等ノ收斂劑ヲ與フレバ下痢忽チ消散スベシ

○「チエドロン」 *Cedron*

本品ハ南米及中部亞米利加ニ産スル「シマダチエドロン」樹ノ子實ニシテ長徑三乃至四仙迷、長卵圓形ヲナス消化不良、麻刺利亞、毒蛇咬傷及狂犬咬傷ニ用ユライエル氏ハ此子實ヲ強壯健胃劑トス其有效成分タル「チエドリン」ハ淡黄色ノ小結晶ニシテ水ニ溶ケ易ク酒精ニ溶ケ難ク強苦味アリ「バイロン」氏ハ「チエドリン」ヲ解熱劑ニ供セリ

○「チミチフガ」 *Cimichuga racemosa*

北米ノ「ラスンクラチア」ノ根ニシテ「チミチフギン」ヲ含ム慢性痲痺質斯、腰痛、月經閉止、神經性消化不良、神經痛ニ用ヒ鎮痲劑トシ分娩時ノ神經痛樣痲痺及其分娩後ニハ麥角ノ如ク子宮甚シク收縮スルノ效アリ此根〇、五—四、〇ヲ散劑或ハ煎劑トシ流動越幾私三十乃至六十滴ヲ用ヒ「チミチフギン」〇、〇五—〇、二ヲ丸劑トシテ用ユ

○「チマチエチン」 *Thymactin*

本品ハ白色ノ結晶性粉末ニシテ水ニハ唯僅ニ溶解スルノミ本品ハ「フエナチエチン」ニ類セル效アリ「ジョルリー」氏ハ之ヲ神經性頭痛ニ與ヘテ效ヲ奏セリ痲痺狂ニ於テハ催眠ノ效ヲ得タルヲアリ副作用トシテ頭部壓重、充血ヲ經驗セシヲアリ〇、二五—一、〇ヲ散劑トシ「ラブライト」ニ包ミ與ヘ催眠ノ效ヲ收ムルニハ〇、五ヲ必要トス

麻酔催眠劑

チエドロン チミチフガ、ラチエモサ チマチエチン

解熱及鎮痛

○「チトロフェン」 *Citrophen* C₈H₉O₇ (NH₂C₆H₄O.C₂H₅)₂..

本品ハ枸橼酸ト「ペ、フェネチジン」ノ化合物ニシテ本品ノ「アポリシン」ト異ナル所ハ本品ハ一分子ノ枸橼酸ト三個ノ「フェネチジン」ト化合シテ存スルニ在リトス（「アポリシン」ハ枸橼酸及「フェネチジン」各一分子ヨリ成レリ）本品ハ白色ノ粉末ニシテ爽快ノ味アリ水ニハ甚溶ケ難シ解熱及鎮痛ノ性アリ從來本品ハ窒扶斯、結核、神経痛ニ用ヒラル一回量大人ニハ〇、五（小兒ニハ〇、二—〇、三）一日量三、〇—六、〇ヲ散劑トナス

本品ヲ「ドクトル」ハイジングスフェルド氏ハ許多ノ流行性感冒ニ用ヒシニ甚タ良效アリキ

癩麻質斯性疾患ニ於テハ小量ニシテ多クハ輕快スルニ足レリ殆ト此症ニ於テハ悉ク約八、〇—一〇、〇ニシテ全治ニ赴ク而シテ再發ヲ豫防スルニハ其後暫時小量（一日三四回〇、三—〇、五）ヲ服セシムベシ本品ハ解熱劑トシテ奏效確實ナラス高熱ニハ無効ナルカ或ハ暫時效アルニ過キス神經痛ニハ服後必ス輕快ニ赴ク但器質的或ハ體質性疾患ニ由來スル神經痛ニハ無効ナリ

- 「チトロフェン」〇、五
- 右爲一包、與六包、必要時一包宛
- 「チフオマンドラ、ベタチエア」（肝病ニ用ユ）
- 「チプリベジヌム」根（神經性眼病ニ〇、〇五ヲ用ユ）
- 「チチシン」 *Gytisium*. C₁₀H₁₇N₃O.

「チチヌス、ラブルヌム」ノ類鹽基ニシテ白色無臭結晶樣質ナリ苦味アリ水及酒精ニ溶ケ易ク依的兒及嘔囉仿謨ニ溶解セズ其生理的作用ハ斯篤里幾尼涅ト「クラレ」トノ中間ニ位シ殊ニ硝酸「チチシン」〇、〇〇三—〇、〇〇五ヲ麻痺性偏頭痛ノ發作ノ初起ニ皮下注射ス

○實布埤里亞治療血清 *Diphtherische Heilserum*.

性状 實布埤里亞治療血清ノ性状ニ就テハ左ニ日本藥局方ノ全文ヲ掲クベシ

「チフテリア」血清ハ「チフテリア」毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ニシテ硝子壺ニ容レ封緘ヲ施シ製造所名、「立方」センチメートル中ノ免疫單位數一壺中ノ免疫單位數、試驗番號、試驗年月日ヲ表記シ光線ニ觸レサル様包裝シタルモノナリ」本品ヲ「ブイヨン」並寒天培養基ニ好氣性及嫌氣性培養法ヲ行フニ無菌ナラザル可カラズ

(甲) 液體「チフテリア」血清 *S. antidipthericum liquidum*.

本品ハ類黃色澄明或ハ微ニ濁濁セル液ニシテ貯藏ノ目的ニ添加シタル防腐劑ノ臭氣ヲ有ス」本品一立方「センチメートル」中ニハ五百免疫單位以上ヲ有セサル可カラズ但免疫單位ノ計算ハ「ペーリング」エールリヒ」ノ方法ニ據ル」本品ハ一壺中ノ免疫單位數ニ從ヒ通常左ノ三種ニ區別ス

- 第一號 六百免疫單位
- 第二號 千免疫單位
- 第三號 千五百免疫單位

チトロフェン チチシン 實布埤里亞治療血清 液體チフテリア血清

本品〇、五立方「センチメートル」ヲ體重約十五「グラム」ノ南京鼠ノ皮下ニ及其十立方「センチメートル」ヲ「モルモット」ノ皮下ニ注射スルニ之ヲ致死セシム可カラズ「本品ノ著シク濁濁シ又ハ多量ノ涎滓ヲ含ムモノハ供用ス可カラズ」冷暗所ニ注意シテ貯フヘシ但一年以上ニ過ク可カラズ

(乙)乾燥「ヂフテリア」血清 *S. antidiphthericum siccum.*

本品ハ乾燥シタル「ヂフテリア」血清ニシテ黄色透映ノ小葉片或ハ帶黄白色ノ粉末ナリ「本品一「グラム」ハ少ナクモ五千免疫單位ヲ有シ防腐劑及其他ノ添加物ヲ含有ス可カラズ」本品ヲ十分ノ水ニ溶解シタルモノハ液體「ヂフテリア」血清ト同一ノ外觀ヲ呈スベシ「本品ヲ十分ノ滅菌水ニ溶解シタルモノ、試験ハ液體「ヂフテリア」血清ノ條ニ掲クル所ニ準據スベシ」冷暗所ニ注意シテ貯フヘシ「本品ハ用ニ臨ンテ石炭酸水(1:200)又ハ滅菌水ヲ以テ稀釋スベシ」

作用 血清療法ノ實布埜里患者ニ於ケル效用ハ高名ナル諸小兒科醫ノ確認スル所ナレニ試ミニ左ニ傳染病研究所ノ治療成績ヲ掲テ之ヲ示ス

本邦ニ於テ從來ノ療法ニ依リテ治療シタル成績ト傳染病研究所ニ於テ血清療法ヲ施シ治療シタル成績トノ對照

明治廿六年ヨリ同廿七年ニ至ル七年間

患者 總數	死亡 總數	百名ニ對スル死亡比例
二六、五二一	一四、九九六	五六、五四
三五三	三一	八、七八

本邦ニ於テ從來ノ治療法ヲ行ヒタルモノ

二六、五二一	一四、九九六	五六、五四
三五三	三一	八、七八

明治廿七年十一月十三日ヨリ廿八年十一月廿五日マテ傳染病研究所ニ於テ施シタル實布埜里血清成績

傳染病研究所血清療法ノ方死亡比例 四七、七六

血清療法ノ效力ハ患者ノ年齢ニハ關係ナシ然レニ發病後ヨリ此血清療法ニ著手スルニ至ル迄ノ經過日數ハ其成績ニ大關係アリテ發病後血清療法ヲ加フルヲ益、速ナルニ從ヒ其成績愈、佳良ナルヲ見ル故ニ實布埜里血清療法ノ確效ヲ收メント欲セバ發病後速ニ著手スルヲ要ス

此血清ノ注射後、熱度ハ二十四時乃至四十八時以内ニ常度ニ復スルヲ多ク第四日及第五日ニ及フハ最モ少シトス咽頭ノ義膜ハ血清注射後四十八時乃至七十二時以内ニ剝離スルヲ最モ多ク又咽頭發炎シ未タ義膜ヲ生セザルモ汚穢ノ粘液ヲ被ムル者ニ於テハ注射後二十四時間ニ咽頭清潔トナル又咽頭ノ義膜ハ血清注射後約二十四時間ハ稍蔓延スルヲ多ク已ニ二十四時乃至三十六時ヲ經レバ蔓延停止シ其未タ義膜ヲ附着セサル粘膜面即チ汚穢ノ粘液ヲ被ムリタル部分ハ清潔トナリ義膜ノ周邊ハ劃然分界ヲ生シ次テ義膜ハ漸次ニ異色壞死狀ヲ呈シ或ハ然ラスノ剝離ス然ルキハ其粘膜面ハ單純加答兒ヲ殘スノミニノ大抵ハ一二日ヲ經レバ其加答兒モ亦全治スルナリ喉頭義膜ハ咽頭義膜ヨリモ其剝離スルヲ速ナルガ如シ是レ即チ實布埜里治療血清ノ純粹實布埜里症ノ熱度及義膜ニ對スル作用ナリ(以上ハ主トシテ細

實布埜里亞ノ血清療法

菌學雜誌第一號ニ從フ

血清藥院製造ノ「デフテリア」血清ハ左ノ四種アリ同院ヨリ發シタル使用心得ヲ抄出シテ實際使用ノ參考ニ供ス

血清藥院製造ノ「デフテリア」血清ハ四種ニシテ其容量及免疫單位數ハ左ノ如シ
液體「デフテリア」血清

- 第一號容量一、二立方「センチメートル」免疫單位數 六〇〇(一立方「センチメートル」免疫單位數五〇〇)
- 第二號容量二、〇立方「センチメートル」免疫單位數 一、〇〇〇(一立方「センチメートル」免疫單位數五〇〇)
- 第三號容量三、〇立方「センチメートル」免疫單位數 一、五〇〇(一立方「センチメートル」免疫單位數五〇〇)

乾燥「デフテリア」血清(重量ハ容器ニ記ス)免疫單位數 五、〇〇〇

右液體血清ハ各號共患者一人ヲ治療シ得ヘキ分量ニ隨ヒ區別シタルモノナルヲ以テ初期ノモノニハ第一號一個ヲ注射シテ足ルヘク、病勢ノ増進シタルモノニ在テハ第二號一個若クハ第三號一個ヲ注射スヘシ但症狀極メテ劇甚ナルトキハ第三號以上ノ量ヲ要スルコトアルヘシ乾燥血清ハ貯藏上ノ便宜ヲ圖リ製造シタルモノトス此ノ四種ハ免疫單位數ニ應シテ使用スル時ハ何種ニヨルモ妨ケナシ

液體血清ハ各號共其全量ヲ一回ニ注射シ盡スベシ

又實布埤利亞豫防法トシテハ液體血清各號何レニテモ〇、五立方「センチメートル」(一回限)ヲ注射スヘシ

血清ノ用法及部位

乾燥血清ヲ使用セントスル時ハ之ヲ滅菌シタル乳鉢ニ納レ〇、五「プロセント」石炭酸水ヲ初メハ成ルヘク少量ニ加ヘ叮嚀ニ磨碎シ漸次增量シツ、能ク混和シ遂ニ十「プロセント」ノ溶液トナシテ注射スヘシ

血清保存法此ノ血清ハ光線ニ觸ル、トキハ變質スルノ恐レアルヲ以テ冷暗所ニ注意シテ保存スルヲ要ス

右ノ方法ニヨリ保存シタル血清ハ一箇年間(乾燥血清ニ在テハ數年間)其ノ效力ヲ持續スヘシ

應用 血清ノ用法及部位血清ハ病勢ノ輕重ニ從ヒ免疫單位ノ個數ヲ増減スベキ者ニシテ輕症ニハ第一號即チ免疫單位六百個ノモノ、中等症ニハ第二號即チ千個ノ者、重症ニハ第二號即チ免疫單位千五百個ノモノヲ用ユ(甲)輕症トハ發病後一二日ニ咽頭加答兒狀ヲ呈シ義膜アルモ未タ蔓延セス格魯布咳アルモ未タ喉頭狹窄ノ徵ヲ發セサルモノ(乙)中等症トハ右ノ症狀アルモ營養不良ニシテ義膜稍蔓延シ喉頭狹窄ノ初徵ヲ現ハスモノ(丙)重症トハ營養不良ニシテ義膜蔓延シ呼吸困難喉頭狹窄ノ徵ヲ起シ且混合傳染病ノ徵アルモノ是ナリ病症ノ輕重種々ナルヲ以テ第一號血清ハ翌日ニ至ルモ其一回量ヲ一二回用ユヘク又重症ニハ第二號ヲ用ヒ後更ニ第一號ヲ注射スルモ可ナリ要スルニ病勢ニ從ヒ免疫單位ノ個數ヲ計算シテ用ユルキハ何號タルニ關セス使用スルヲ得ベシ營養不良ナルモノ及混合傳染ノ徵アルモノニハ多量ノ血清ヲ使用スルヲ要スヘシ

注射ノ方法
及準備

注射ノ實施
法式

注射法 一回ノ注射量ハ一〇、〇トス故ニ多量ノ注射ヲ一時間乃至二時間ヲ隔テ行フベシ
 注射部ニ膿瘍ヲ生セザルカ爲メニ注射器ヲ丁寧ニ殺菌スルヲ要ス即チ注射器内ヲ無水酒精
 ニテ數回洗滌シ更ニ〇、五%ノ石炭酸液ヲ以テ反覆洗滌シテ其酒精分ヲ除去スヘシ注射部
 ハ皮下組織緩鬆ニシテ大量ノ血清ヲ收容シテ速ニ吸收シ得ル部即チ前胸側ノ大胸筋ト淵背筋
 トノ間直ニ肋骨ヲ皮下ニ觸ル、ノ部分ヲ良トス若シ胸側ニ行フ能ハサルキハ大腿ノ内側ニ
 注射スベシ此注射部ノ皮膚ハ無水酒精ニテ洗拭殺菌スルヲ要ス
 以上ノ準備已ニ整ヒ愈、血清ヲ注射スルニハ先ツ患者ヲ仰臥セシメ胸側ヲ現ハシ介者ヲソ
 手足ヲ固定セシメ術者右手ニ注射器ヲ採リ左手ノ指ニテ皮膚ヲ撮上シ患者身體ノ長軸ニ平
 行シテ注射針ヲ皮下ニ一仙迷許リ穿刺スベシ已ニ穿刺セバ左指ニテ注射筒ノ下部ヲ持チ且
 右手ヲ胸壁ニ固定シ右手ノ第三乃至第五指ニテ注射筒ノ上部ヲ執リ拇指ニテ吸栓ヲ壓下シ
 テ注射スベシ術者ハ患者ノ動搖ニ隨伴シ以テ注射針ノ脱出又ハ深ク刺入スルカ如キナキ
 様注意スヘシ已ニ注射後ハ局部ヲ摩擦スヘカラス又壓迫ス可カラズ唯注射針痕部ニ五%ノ
 沃度仿謨格魯胃謨ヲ點滴シテ針痕部ニ凝結セシメテ之ヲ閉鎖スベシ
 此血清注射後約一週内外ニ注射部或ハ全身ニ蕁麻疹様ノ發疹ヲ來スアアレモ大抵二三日
 ニシテ消散スルヲ以テ別ニ治療ヲ加フルニ及ハズ
 血清療法ヲ行ヘバ咽頭ニハ局部治法ヲ要セザルモ唯格魯兒酸加里液ヲ含嗽セシメ且小兒ノ
 食餌ニ注意シテ滋養強壯ノ食品ヲ與ヘテ其體力ヲ維持スルヲ必要トス

北里博士ノ管理セル傳染病研究所附屬病室ニ於テ明治廿七年十一月十三日ヨリ三十一年八
 月十七日ニ至ル三年九ヶ月間ニ實布埜里患者總數二千五百五十一名ニ血清療法ヲ施シタル
 成績左ノ如シ(大日本私立衛生會雜誌百八十四號)
 全治二千二百九十四名 死亡二百五十七名即チ 一〇、〇七%
 其中入院後十時間以内ニ死亡者七十名 同十時以上二十四時間以内ニ死亡者百十五
 名 同二十四時間以上ニ死亡者七十二名

○腸窒扶斯血清

醫學士佐藤勤也氏ハ腸窒扶斯患者七十名中二十九名ニ血清療法ヲ施シ九名死亡(三十一%)
 傍觀療法四十一名中八名(十五、五%)ナリ治療シタル患者ノ日數ハ血清療法二十人ノ平均
 二十六日六分、傍觀療法三十三人ノ平均廿七日一分ナリ
 結論ニ曰ク(一)血清ハ有效ナルヲ得然レモ現時ノ血清ニテハ實布埜里亞血清ノ如キ效力
 アリト信スル能ハス(二)血清ハ可成、早期ニ注入スルヲ要ス但頓挫ノ效力アルヲナシ(三)
 血清ハ末期ニ注入スレバ管ニ無効ナルノミナラズ合併症殊ニ腸出血ノ發生ヲ容易ナラシム
 ルニ似タリ(四)劇症殊ニ精神症狀著明ノモノニハ初期ヨリ注入スルモ寸效ナキカ如シ(五)
 故ニ現時ノ血清ハ吾人ニ満足ヲ與フル者ニ非ス更ニ將來ノ改良ヲ要ス(東京醫學會雜誌第
 十四卷第十號)

○實麥答利類鹽基 Digitalis-Alkaloide

腸窒扶斯血清 實麥答利類鹽基

(イ)「ヂギタリン」 *Digitalinum.*

性状應用 無形ノ者ト結晶性ノ者トアリ乙ハ著ク強烈ナリ獨逸ノ「ヂギタリン」ハ無形ニシテ酒精、水ニ溶解シ易ク嘔囉仿謨ニ溶ケ難シ佛國ノ「ホモール」製「ヂギタリン」及「ナチウエール」製「ヂギタリン」ハ無形及結晶ノニ製劑アリ

○「ナチウエール」製「ヂギタリン」ハ細小白色針狀結晶ニシテ無臭苦味アリ水ニ溶ケ難ク九十度酒精及嘔囉仿謨ニ溶ケ易ク依的兒ニ至ク溶ケズ是レ主トシテ「ヂギトキシシン」ヲ含有ス

○「ホモール」製「ヂギタリン」ハ帶黃白色ノ屑片ニシテ沸湯ニハ僅ニ溶解シ依的兒ニ溶ケ難ク酒精及醋酸ニ溶ケ易シ僅ニ「ヂギトキシシン」ヲ含ムノミ

○獨逸製「ヂギタリン」ハ帶黃白色無形ノ粉末ニシテ水及酒精ニ溶ケ易ク依的兒、嘔囉仿謨ニ僅ニ溶解スルノミ主トシテ「ヂギタレイン」ヲ含ムノミ
實麥答利斯ノ如ク心病ニ於テ〇、〇〇一〇、〇〇三ヲ用ユ

(ロ)「ヂギタレイン」 *Digitalin.*

黃色無形ノ質ニシテ酒精及水ニ溶ケ易ク依的兒及嘔囉仿謨ニ溶ケ難シ水溶液ハ泡沫ヲ生ス「ヂギタリン」ノ如キモ實麥答利斯葉ノ最弱キ效力ヲ有ス

(ハ)「ヂギトキシシン」 *Digitoxinum.*

無色眞珠樣光輝アル結晶ニシテ水ニ溶解セズ僅ニ依的兒ニ溶ケ熱酒精及嘔囉仿謨ニ溶ケ易シ

本品ハ實麥答利斯ノ最有力ナル成分ニシテ用量ハ〇、〇〇〇五—〇、〇〇一ナリ

○「ヂョードフォルム」 *Diodoform. C₃H₄(アトラゾール)*

本品ハ黃色無臭ノ粉末ニシテ水ニ溶ケス酒精、依的兒、嘔囉仿謨ニ溶解ス 沃度九五、四九%ヲ含有ス光線ニ遇ヘバ沃度ヲ放離シテ褐色トナルカ故ニ光ヲ遮リ善ク閉鎖セル器ニ貯フベシ
本品ハ沃度仿謨ノ代用品トシテ使用セラル

○「チモフォルム」 *Thymoforn.*

本品ハ黃色無臭ノ粉末ニシテ弱チモール臭アリ容易ニ酒精、依的兒、阿列布油ニ溶解ス水ニハ溶解セズ沃度仿謨及「デルマトール」ノ代用劑トス

○「チモタール」 *Thymol. 炭酸チモール*

本品ハ鮮黃色舍利別稠ノ殆ト無味ノ物ニシテ水ニ溶ケス酒精、依的兒、嘔囉仿謨ニ溶解ス〇條蟲及蛔蟲ニ於テ大人ニハ一日三回二、〇宛、小兒ニハ〇、五—一、〇ヲ投ス「チモール」ニ比スレバ毫モ嘔吐ヲ發セサル長所アリ

○「ナモール」 *Thymol.*

本品ハ近時大ニ十二指腸蟲病ニ賞用シ又鞭蟲ニモ用ヒラル博士片山氏ガ十二指腸蟲ニ綿馬越幾斯ヲ用ヒ中毒症ヲ招キシヲ報告セラレタル以來綿馬ヲ用ユル醫士大ニ減少シ近來ハ「チモール」ヲ用ユル人増加セリ

博士三浦氏ガ東京醫學會ニ報告セラレタル所ニ由レバ十八人ノ報告中綿馬ヲ可トスル者六

十二指腸蟲藥

イギザダリン、ヂギタレイン、ヂギトキシシン、ヂョードフォルム、チモフォルム、チモタール、チモール

名「チモール」ヲ可トスル者九名ナリ用量ハ一、〇—六、〇ヲ投スル人最多ク又ハ一、〇—二、〇ヲ一時間ヲ經テ投シ或ハ「ナフタリン」、珊瑚寧等ト伍用セリ大谷氏ハ「チモール」ナフタリン各〇、五—一、〇「大村氏ハ「チモール」一、〇「ナフタリン」〇、五佐藤氏ハ「チモール」二、〇「ナフタリン」一、〇ヲ與フル等大ニ其用量ヲ異ニセリ其前後ニ用ユヘキ下劑モ亦蓖麻子油、甘汞、旃那等ナリ(東京醫學會雜誌第十一卷第九號)
醫學士井上善次郎氏ハ十二指腸蟲ニ左法ニ由リ「チモール」ヲ用ヒラレタリ(醫事新聞第四百九十號)

甲 隔日法

一、知母爾二、〇

驅除の下劑及驅除の下劑
驅除の下劑及流動性食餌
五十名
十七名

二、知母爾二、〇

驅除の下劑及驅除の下劑
驅除の下劑及流動性食餌
十三名
十一名

乙 毎日頓服法

一、知母爾三、〇

驅除の下劑及驅除の下劑
驅除の下劑及流動性食餌
三名
三名

二、知母爾二、〇

驅除の下劑及驅除の下劑
驅除の下劑及流動性食餌
三名
三名

三、知母爾一、〇

驅除の下劑及驅除の下劑
驅除の下劑及流動性食餌
一名
一名

丙 毎日分服法

一、知母爾三、〇

一日三分服、時々下劑
二名

二、知母爾二、〇

朝夕二回分服、下劑
一日三分服時々下劑
六名
五名

知母爾ニ下利ノ作用ナシ故ニ他ノ驅蟲劑ノ如ク下劑ヲ用フルコト甚タ必要ナリ知母爾ノ量僅少ナルモ下劑ヲ適當ニ用フレハ驅蟲ノ目的ヲ達シ得ヘシ糞便ノ濾過ニ當リシ者ノ言ニ蟲ハ軟便ニ少ナクシテ稀薄水様ノ便ニ多シト云ヘリ

頓服法ト分服法トヲ比較スルニ頓服法ヲ以テ勝レリトス夫レ知母爾ハ服用シ難ク且下劑ヲ併用スルニアラサレハ奏效著シカラサルモノナレハ寧ロ隔日ニ之ヲ用ヒ一日ツ、休息セシムルニ若カス(隔日法)

知母爾一、〇ニテモ效アレトモ二、〇—三、〇最モ適當ナリ余ハ少年、老人、衰弱者、合併症アル者ニハ二、〇ニ用ヒ強壯者ニハ三、〇ヲ用フルヲ適量ナリト信セリ

知母爾ハ其適量(二、〇乃至三、〇)ニ於テ(頓服法ニ於テ)多少ノ中毒症(主トシテ睡眠作用)アレトモ決シテ恐怖スルニ足ラス

危篤ノ合併症アルニアラサレハ知母爾療法ヲ妨ケス

「ドクトル」田中正鐸氏ハ十二指腸蟲ニ向テ「チモール」ヲ用ヒ偶然繼蟲ヲ驅除セリ或ハ「チモール」ノ效ナラントシ爾來數回使用シ有效ナルヲ知リタリト胃腸病研究會雜誌第二卷第三冊ニ報告セリ其豫備療法ニハ前夜蓖麻子油一五、〇ヲ頓服セシメ晩食ハ粥汁三碗ニ止メ

翌朝「チモール」九十粒宛ヲ一時間内ニ服盡セシメタリ其處方ハ「チモール」二、〇藥刺巴末
〇、七大黃末〇、三龍膽越幾斯適宜ヲ加ヘ三十九ト爲セル者ナリ

〇「ヂダ」皮 *Dia.*

「ヂダ」皮ハ銀白色ノ小屑ヲ以テ被ハレ苦味及弱芳香アリ解熱劑トノ規尼涅ニ代用ス此類鹽
基ニ三種アリ「ヂタイン」、「ヂタミン」及「エヒテニン」ナリ

〇「ヂウレンチン」 *Diureticum.* (撒里失爾酸曹達) $C_7H_7N_2O_2Na + C_6H_5(OH)COONa$

利尿劑

性狀應用

本品ハ白色無臭ノ粉末ニシテ熱湯、稀酒精、溫酒精ニハ其重量ノ半分以下
溶解シ冷水ニ僅ニ溶クルモ依的兒及嘔囉仿謨ニハ全ク溶解セス粉末并ニ溶液ハ善ク密閉シ
テ貯フ可シ本品ノ效用ハ利尿ニシテ全ク心臟ニ影響セス且腎上皮ヲ刺戟スルニ由リテ利尿ヲ
催ス者ナレモ咖啡涅ニ反シテ殆ト全ク毒性ナク且中樞性ニ興奮ヲ起スヲナシ本品ハ水腫及
慢性實質性腎臟炎等ニ適ス純粹ノ「ヂウレンチン」ニ反シテ容易ニ吸收セラレ

用量 一回量一、〇ニシテ一日量六、〇一七、〇ナリ本品ハ溶液トナシ與フルヲ可トス蓋シ
散劑ハ容易ニ氣中ヨリ炭酸ヲ攝取スルニ由リ本劑ヲ不溶解性トナラシムレバナリ二歳乃
至五歳ノ小兒ニハ一日量〇、五一一、五ヲ投シ五歳乃至十歳ノ小兒ニハ一、五一一、〇ヲ與フ
ベシ其適當ナル處方左ノ如シ

〇「ヂウレンチン」五、〇一七、〇 水九〇、〇 薄荷水一〇〇、〇 單舎一〇、〇

右每一時乃至二時一食匙

〇「チエトラリン」 *Charrin.*

本品ハ「イスラント」若ノ有效成分ニシテ白色光輝アル針狀結晶ヲナス苦味アリ水、脂油ニ溶
ケス冷水、熱酒精ニ溶ケ難シコーベルト氏ニ從ヘバ蠕動ヲ催進シ赤白血球ヲ増加シ中樞神
經系ヲ興奮ス大量ハ溫血動物ヲシテ痙攣ニ由リテ死セシム本品ハ食思缺亡、便秘、萎黃病、
神經性弛緩、肺癆ニ〇、一—〇、二ヲ内用セシム

〇「チエトラリン」一、〇 確砂加茴香精一〇、〇 「コデイン」〇、四

右一日二回十五滴宛(肺癆)

〇「チエレプリン」(腦髓ノ成分ニシテ神經藥トナス)

〇「チエラテンテラ」(下泄劑タリ)

〇「チヨカムフ」(黃綠色ノ液ニシテ消毒劑トス)

〇「チヨサポール」(皮膚病ニ用ユ)

〇「チヨレゾルチン」(灰白綠色無臭味ノ粉末ニシテ沃度仿謨ニ代用ス)

〇「チユレット」(防腐藥トス硫酸石炭酸「チユレット」ヲ見ヨ)

〇「チヨ」撒里失爾酸(尋常ノ撒里失爾酸ト同目的ニ供ス)

〇「チンボ」皮末(肝臟病ニ硬膏トナシ外用ス)

〇「チノスポラ、コルジフォリア」(癩麻質斯、淋疾等ニ用ユ)

ヂダ、ヂウレンチン、チエトラリン

防腐藥

○「チロフェラ、アストマチカ」(赤痢ニ供用ス)
 ○「チトルリン」(「コロシンチジン」ヲ見ヨ)
 ○「チンナミール、ライゲノール」(Cinnamyl-Eugenol (桂皮醜「チイ」
 本品ハ無色無臭無味ノ中性反應ニシテ光輝アル針狀結晶ナリ九十乃至九十一度ニ溶解シ熱酒
 精、嘔囉仿謨、依的兒、アチエトン」ニ溶解シ水ニハ溶ケ難シ硫酸ヲ加フレバ紫紅色ヲ呈シ
 テ溶解ス本品ハ「ベンツオソール」ノ如ク「ライゲノール」及「グアヤコール」ニ代ヘテ結核性
 疾患ノ療法ニ應用セリ

○「チンナミール、グアヤコール」(桂皮醜「グアヤコール」又ハ「
 スチラコール」ヲ見ヨ)

○「チンナモール」(防腐藥)

○「チームス」(Thymus)

瘰癧藥

本品ハ「チームス、フルガリース」即チ著色ノ「チミアン」ニシテ「フイユス」氏ハ瘰癧ニ對シ
 テ頗ル偉效アル藥劑トシテ賞用セリ本品百瓦水七百瓦ノ煎劑ニ蜀葵舍利別五十瓦ヲ加ヘ毎
 時一茶匙乃至一食匙或ハ二十四時間ニ八乃至十二回服用セシム本品ノ效用ハ迅速且確實ナ
 リ恐クハ是レ防腐ノ效アル依的兒性油ニ歸スベキ者ナラン

○地膚子(ハウキギ)

本品ハ青白色細粒ニシテ味甘シ俗間脚氣ニ效アリトシテ水腫及利尿ニ二、〇一六、〇ヲ投ス
 ○林檎酸 *Asidum mulfuricum*.

收斂防腐藥

林檎酸ハ結晶狀物質ニシテ水及酒精ニ溶ケ易キモ僅ニ依的兒ニ溶解シ頗ル引濕性ニシテ濕潤セ
 ル氣中ニ潮解ス近時、咽喉及氣道ノ加答兒病ニ於ケル有效ノ溶解劑トス又腸加答兒及痔疾
 ニモ緩下劑ノ效アリ

○硫酸「カドミウム」(Cadmium sulphuricum, $CdSO_4 \cdot 4H_2O$)

硫酸「カドミウム」ハ無色透明ノ大稜柱狀ノ結晶ニシテ空氣中ニ風化シ水ニ溶解シ酒精ニハ溶
 ケズ蛋白ヲ凝固ス本品ノ作用ハ硫酸亞鉛ノ如ク外用及内用ニ供ス眼科ニ於テ硫酸亞鉛ニ代
 用スルモ之ニ優レル點ナシ即チ收斂性點眼藥トシテ角膜炎、慢性眼炎ニ用ユ淋疾及耳漏ニ
 注入ス○梅毒、痲瘋質斯ニ内用スレバ必要ナラス點眼ニハ〇、〇五—〇、二水一〇、〇」眼軟
 膏ニハ〇、一—〇、二脂肪一〇、〇ノ者」注入ニハ一、〇水一〇〇、〇—二〇〇、〇トス○内用
 ニハ〇、〇〇五—〇、〇一ヲ丸劑トス

○硫酸「カドミウム」〇、一 餛水

阿片丁幾 各一〇、〇

右點眼料(慢性眼炎、角膜斑)

○硫化砒石 *Arsenium sulfuratum citrinum*. (黄色硫化砒石)

本品ハ黄色或ハ橙黄色無形ノ塊片ニシテ安母尼亞及腐蝕加里ニ溶解ス唯腐蝕劑及脫毛劑トシ
 用ユ

○硫化砒石 四、〇 煨性石灰 四八、〇 澱粉 四〇、〇

腐蝕及脫毛劑

チンナミール、ライゲノール、チームス、地膚子、林檎酸、硫酸カドニウム、硫化砒石

右爲軟泥、(脫毛劑トナス)

○硫化「アルリール」 *Allium sulfuricum* (蒜油)

本品ハ蒜様臭アル水ニ溶ケ難キ液ナリ虎列拉ニ内用及灌腸ス又セシヨルネー氏ハ本品ヲ肺癆患者ニ皮下注射シテ良效ヲ得タリト即チ初メハ毎日〇、五%ノ液一立方仙迷、後ニハ二立方仙迷(本品三滴ヲ殺菌シタル阿列布油二五、〇ニ加フ)ヲ肩胛上窩ノ高サニ於テ患側ニ注射ス同氏ハ實ニ空洞アラサルキハ治癒ヲ致スト稱セリ内用量ニハ本品一分ト六百分ノ合劑トナシ毎半時一食匙ツ、用ヒシム

○硫化「アルリール」〇、三 護謨漿三五、〇 餛水一二〇、〇 薄荷油二滴 單舎二五、〇

右毎半時一食匙(虎列拉)

○硫酸「ベベリン」 (帶黃褐色ノ粉末ニシテ水、酒精ニ溶解シ苦味アリ「ベベリン」ヲ見ヨ)

○硫酸亞鉛亞兒密紐謨 (腐蝕藥トス)

○硫酸拔留謨 (白色ノ粉末ニシテ北米ニテ梅毒及腺病ニ〇、〇三ヲ用ユ)

○「リビリア」 (呼吸器病ニ用ユ)

○栗葉(瘧疾及他ノ加答兒ニ〇、五—一、〇ヲ一日三回ニ投ス)

○「リアントラール」 *Tanbuwal* 「リアントラキス」油越幾斯

本品ハ黑褐色濃厚ノ液ニシテ唯薄層ニ於テ透明ニ透視セラル空氣中ニハ唯漸徐ニ乾燥セラレ水ニハ溶解セズ「ペンツアール」ニ容易ニ溶解ス脂油、依的兒性油、酒精、依的兒、「アセトン」「ベンチン」ニハ唯一部分溶解スルノミ
本品ハ濕疹及鱗屑疹ニ「リアントラール」、グッタベルカ「硬膏、軟膏」「ムル」、石鹼、噴霧、撒布末等トナシ用ユ

○「リアントラール」噴霧 本品十分依的兒百分ヲ混シ濾過ス

○「リアントラール」撒布末 本品一—五分ニ少許ノ依的兒ト澱粉、滑石各等分ヲ加ヘ百分トナシ依的兒ノ蒸散スルニ至ルマテ研磨ス

○「リアントラール」油 本品十分阿列布油ヲ加ヘ百分トシ濾過ス

○依的兒製「リアントラール」丁幾 「リアントラール」十分依的兒百分ヲ加ヘテ屢振盪シ二十四時間ノ後濾過ス

○「リアントラール」亞鉛華軟膏 「リアントラール」一乃至五分、亞鉛華軟膏五十分

○硫酸「アニリン」 *Anilinum sulphuricum*.

「アニリン」ニ硫酸ヲ混合シ製セル無色或ハ黃色ノ鹽類ニシテ水ニ溶ケ難シ虎列刺及癩癩ニ一回量〇、〇五—一、〇ヲ内用セシム

○硫酸亞篤魯比涅 *Atropinum sulfuricum*.

喘息發作ニ於ケル效用

「プロフェン」リールゲル氏ハ生理的試驗ニ基キテ氣管枝筋層痙攣ニ因ル喘息發作ニ本品(半密瓦乃至一密瓦)ヲ皮下注射シ(大人ニ)發作ヲ挫カントメ用ヒタルニ多クハ奏效アリ熱心ニ賞揚セリ其奏效アル場合ニハ已ニ十五乃至二十分多キモ三十分ニ現ハル他覺的ニハ肺境界減退シ自覺的ニハ呼吸困難消散ス若シ此ノ如ク奏效セサル場合ニハリールゲル氏ノ說ニ由レバ喘息ハ凡テ同一ノ原因的機轉ニ因セザルノ微ニ外ナラズ他方ニハ却テ或場合ニ效アルハ迷走神經ノ分布シタル氣管枝筋痙攣ニ因ル說ノ正當ナルヲ徵知スベシ但之カ持長ニ由リテ發作ノ再發ヲ豫防シ得ルヤ否ハリールゲル氏モ未タ斷言セズ

アレキサンデル、シモン氏ハ重症ノ枯草熱性喘息ニ〇、〇〇〇一五ヲ服セシメ頗ル良效ヲ得タリ

吐瀉及便秘ニ於ケル效用

本品ハ吐瀉症及頑固ノ便秘ニ用ヒラルバツチュ及コールハッス氏ハ著シキ吐瀉症ニシテ恐クハ腸蠕動ノ障礙ハ痙攣ニ因シ閉塞ノ所在ヲ認知スル能ハサル者或ハ手術ヲ施スニ先チ最後ノ手段トシテ本品ノ一回極量ニ超過シテ之ヲ皮下注射セリ同氏ハ之ニ由リテ良效ヲ收タリ即チ

七十歳ノ無力ノ男子甚シク動脈硬變ヲ患ヘ著因ナク急ニ完全ノ腸閉塞症狀ヲ起シ忽チニメ脱力ニ陥レリ而シテ歇兒尼亞ハ決シテ發見セザリキ全身狀況不良ニメ開腹術ヲ行フニ堪ヘズ膝肘位置ニ於テ高位腸内灌水法ヲ行フモ無效ナリキ依テコールハッス氏ハ茲ニ於テ百方患者ヲ救フ策ナキヲ以テ試ニ十二時間ニ三回亞篤魯魯必混一、六密瓦(毎回約一回極量

ノ半量ヲ超過ス)ヲ皮下注射シタリ

然ルニ其奏效ハ驚クニ堪ヘタリ已ニ第二回注射後ハ患者腹部緊張ノ輕快ヲ感シ第三回ノ後ハ放屁シ忽チニノ糜粥様物ヲ泄セリ其後速ニ患者快復ニ赴キ全治セリ但數日間腫孔散大ヲ殘シタリ

又マルチノウスキー氏ハ腸閉塞及其後嵌頓歇兒尼亞ニ〇、〇〇五ヲ皮下注射シ共ニ偉效ヲ得タリ即チ吐瀉、腹痛ハ數時間ニメ消散シ嵌頓モ速ニ消散セリ〇シャード氏モ吐瀉症ニ於テ良效ヲ收メタリ又ホルツ、カールデンメ、スタルク、パウルフステルマイエル、アダム、グートゲンス氏等モ吐瀉症狀ニ於テ本品ヲ注射シ良效ヲ得タリキ然レモポーフィングル、ヘヒトレン氏ハ吐瀉症ニ用ヒシモ良效ナカリキ

感冒ニ於ケル效用

近時フェルランタ及ラウナー氏ハ強劇ノ感冒ニ賞用セシガ服用後、十分乃至十五分時ニメ已ニ嘔吐止ミ涕汁ノ分泌ヲ免ルヲ得タリト用量ハ一九〇、〇〇〇五トナシ與ヘ若シ必要ニ臨メハ一時ノ後尙此量ヲ用ユルヲ得可シ

○硫酸石炭酸(「アセプトール」ヲ見ヨ)

○**硫酸石炭酸亞鉛** *Zincum sulfocarbolicum.*

性狀應用 本品ハ硫酸石炭酸ノ亞鉛鹽ニメ硫酸石炭酸重土及硫酸亞鉛ノ交換分解ニ由テ生ス氣中ニ潮解スル無色ノ結晶ニメ二倍ノ異重ニ於テ水及酒精ニ容易ニ溶解ス格魯兒化鐵ヲ加フレハ弱酸性ニメ水溶液ハ紫色ヲ呈ス此液ハ唯遊離硫酸ノ痕跡ヲ存スルノミ

防痙收斂藥

硫酸石炭酸亞鉛